ご使用前に必ずお読みください

クローラトラクタ

GCR1010

取扱説明書



はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後もこの取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いてください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときはこの取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた販売店・JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1 章 安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた販売店・JA へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

**このトラクターを運転して道路走行するときは、
大型特殊自動車免許が必要です。必ず免許証を所持してください。**

説明記号の見方

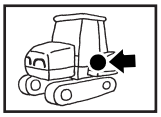
⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠注意　その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



説明個所の位置と、見ている方向を示します。

●印：位置　　◀印：見ている方向

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは決してしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

型式と仕様について

本製品には、下記の型式と仕様があり、取扱説明書の内容で、型式・仕様によっては該当しない項目もあります。

H：ハイラグクローラ仕様

目次

はじめに 1

1章　安全な作業をするために
必ずお守りください 5

1. 運転(作業)する人について 5
2. 運転(作業)するトラクターについて 6
3. 運転するときの注意事項 7
4. 道路走行するときの注意事項 10
5. 作業機を使用するときの注意事項 11
6. 運搬するときの注意事項 13
7. 駐車・格納するときの注意事項 14
8. 点検・給油・整備するときの注意事項 14
9. 安全銘板の貼り付け位置 18
10. 安全銘板の手入れについて 22

2章　公道走行と関係法規について 23

公道走行するための関係法規について 23
排出ガス規制について 23
ナンバープレートの交付を受けてください 24

3章　サービスと保証について 25

保証書は大切に保管してください 25
アフターサービスをお受けになるときは 25

4章　各部のなまえ 26

1. 外観 26
2. 運転操作部 28
3. 運転席回り 29
4. キャビン上部 30

5章　各部のはたらきと使いかた 31

1. 運転操作部 31
2. 計器パネル 44
3. エコビュー 46
4. 水平自動制御の操作部 50
5. キャビンについて 53
6. エアコンの使いかた 55

6章　運転前の準備 58

1. 運転前の点検 58
2. 運転席周りの調節 60
3. シートベルトの装着 61
4. サイドミラーの調節 61

7章　運転のしかた 62

1. ならし運転(最初の50時間)について 62
2. エンジンの始動・停止のしかた 62
3. 発進・走行のしかた 66
4. 停車・駐車のしかた 67
5. 道路走行のしかた 68
6. 走行中の操作について 69
7. 坂道での運転のしかた 70
8. トラックへの積み・降ろしのしかた 70

8章　作業と調節のしかた 73

1. ほ場への出入りのしかた 74
2. ほ場での旋回のしかた 74
3. 作業に適した速度の選びかた 75
4. 作業機の上げ下げのしかた 76
5. 水平自動制御の使いかた 77
6. 一般作業機を使う場合の
作業位置設定のしかた 84
7. ロータリー耕うんのしかた 85
8. サブコントロールバルブ(2連)の使いかた 86
9. 外部電源取り出しについて 87
10. 外部操作スイッチの使いかた 88
11. 3P切換スイッチ 89
12. 3点リンクについて 90
13. 一般作業機の取り付けかた 93
14. スイングドローバ(オプション)の使いかた 94
15. フロントウエイトについて 95
16. 作業機の取り扱いについての注意事項 96

9章　作業後の手入れと格納について 97

1. 作業後の手入れ 97
2. ボンネットの開閉のしかた 97
3. 長期間使用しない場合の手入れ 98

10章 点検・整備のしかた 99

1. 定期点検・整備一覧表 101
2. 推奨オイル・グリス・不凍液一覧表 102
3. 給油・給水一覧表 102
4. 燃料の点検・補給のしかた 103
5. 燃料の空気（エア）抜きのしかた 104
6. メンテナンスモード 104
7. エンジンオイルの点検・交換のしかた 105
8. 強制デフオイルの交換のしかた 106
9. トランスファー（副変速）
ミッションオイルの点検・交換のしかた 107
10.作動油の点検・交換のしかた 107
11.PTOミッションオイル
の点検・交換のしかた 108
12.エンジンオイルエレメントの
交換のしかた 108
13.トランスファー（副変速）ミッション
オイルフィルターの交換のしかた 109
14.作動油吸入フィルターの交換のしかた 109
15.作動油戻しフィルターの洗浄のしかた 110
16.HSTラインフィルターの交換のしかた 110
17.PTOミッションオイルフィルターの
洗浄のしかた 111
18.ウォータセパレータエレメントの
点検・水抜き・掃除・交換、燃料コシ器
エレメントの交換のしかた 112
19.内気吸入口フィルターの
掃除・交換のしかた 113
20.外気導入口フィルターの掃除のしかた 114
21.ラジエータ・ラジエータスクリーンの
点検・掃除のしかた 114
22.オイルクーラ・オイルクーラスクリーン・
インタークーラスクリーンの
点検・掃除のしかた 115
23.燃料クーラの点検・掃除のしかた 115
24.コンデンサの点検・清掃のしかた 116
25.冷却水の点検・補給・交換のしかた 116
26.ウォッシャータンクの点検・補給のしかた 118
27.エアクリーナエレメントの
掃除・交換のしかた 118
28.バッテリーの点検・整備のしかた 119
29.パイプ類の点検について 121
30.電気配線の点検について 122
31.グリスアップ(注入)について 122
32.クローラの点検・調節のしかた 124
33.ブレーキの点検・調整のしかた 126
34.ハンドルの点検のしかた 126
35.主変速レバーの点検について 126
36.各部ベルトの点検・調整のしかた 127
37.ヒューズ・スローブローヒューズの
点検・交換のしかた 130
38.排気ガスの色について 131

11章 不調診断のしかた 132

1. エコビューのエラーメッセージについて 132
2. 主な故障現象 136

12章 その他 139

1. トラクター仕様 139
2. お客様へのお知らせ 140

- ここに記載されている注意事項は安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む損害や事故、機械の破損が生じる場合があります。

※ ご購入された製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

1. 運転(作業)する人について

⚠警告

■トラクターおよび装着する作業機の取扱説明書･安全銘板の内容を十分に理解する

■取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や子供は運転しない

作業前には、必ず、取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。

【守らないと】

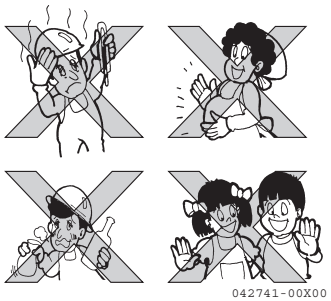
誤作動などにより、傷害事故、機械の破損をまねくおそれがあります。

■体調が悪いとき､運転が未熟な人は運転しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- お酒を飲んだとき。
- 妊娠中の人。
- 18才未満の人。

【守らないと】

誤作動などにより､思わぬ事故を引き起こします。



042741-00X00

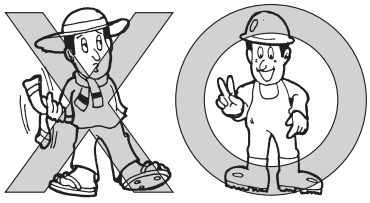
⚠警告

■安全靴･ヘルメット･つなぎなどの作業に適した服装をする

- だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちり止めてください。
- 滑り止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



042743-00X00

■機械を他人に貸すときは

取り扱い方法や安全な使いかたをよく説明し、使用前に必ず「取扱説明書」を読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2. 運転(作業)するトラクターについて

⚠警告

■使用する前には、必ず点検を行う

トラクターや作業機を使用する前には、必ず運転前（作業前）点検を行い、異常な個所は整備してください。

- 紛失したり損傷した部品は交換してください。
- クラッチ（ブレーキ）・ハンドルや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や破損している部品があれば交換してください。
- ボルトやナットのゆるみがないか、定期的に点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。



■トラクターは常に掃除しておいてください

バッテリー、配線、マフラー、エンジンの周辺部にごみや燃料の付着がないか確認してください。

【守らないと】

付着物に引火して、火災の原因になります。



⚠警告

■トラクターは改造しない

トラクターの改造は絶対にしないでください。

【守らないと】

トラクターの安全性がそこなわれ、人身事故につながるおそれがあります。また、性能や機能の低下、寿命の低下の原因になります。



■チルトハンドル操作レバーは、ハンドル調節時以外は操作しない

ハンドルの調節時以外には必ずチルトハンドル操作レバーは操作せずに固定してください。

【守らないと】

チルトハンドル操作レバーが固定されていないと、思うように旋回できず、事故を引き起こすおそれがあります。

3. 運転するときの注意事項

⚠警告

■運転中は、常にシートベルトを装着する

シートベルトは腰骨に当たるように締めてください。

【守らないと】

転倒・転落・追突事故を起こしたとき死亡や重傷を負うおそれがあります。



■エンジン始動時は周囲の安全確認をする

エンジンを始動するときは、必ず運転席に座り、PTO 駆動スイッチを「切」、各変速レバー（主変速、PTO 変速）を「N」（中立）位置にし、また駐車ブレーキがかかっているか確認してください。

- 地上に立った状態でエンジンの始動をすると、万一トラクターが動き出したとき、事故回避の動作ができません。
- ブースター端子や安全スイッチを直結して、エンジンを始動しないでください。トラクターが突然動き出すおそれがあります。

【守らないと】

トラクターが突然動き出し、転落や追突事故を起こすおそれがあります。

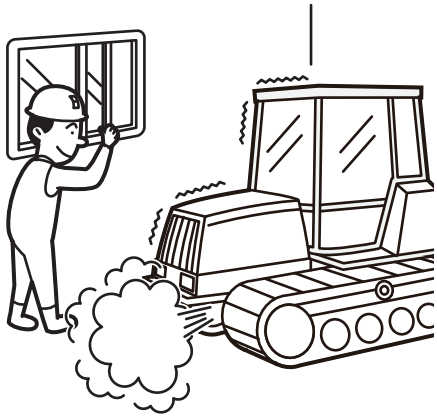
⚠警告

■排気ガスには十分注意する

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。やむをえず屋内でエンジンを始動するときは、ドアや窓を開けて、換気を十分に行ってください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



■トラクターの始動や発進は、周囲の安全を確認してから行う

トラクターの始動や発進をするときは、周囲の安全を確認してから行ってください。

- 周囲に人や障害物がないか確認してください。特に子供には注意してください。
- キャビンや本機に当たる障害物がないか確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■運転者以外の人を乗せない

このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外の人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。



■作業前に、補助者とよく打ち合わせをする

共同で作業するときは、事前によく打ち合わせをし、作業中はホーンを鳴らしたり、声をかけあって、お互いに合図しあってください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2011409A

⚠警告

■暖機運転、作業機着脱時は駐車ブレーキをかける

つぎのようなことを行う場合、必ず安全のため、PTO 駆動スイッチを「切」、各変速レバー（主変速、PTO 変速）を「N」（中立）位置にし、駐車ブレーキをかけてください。

- 暖機運転を行うとき。
- 作業機の取り付け・取り外しを行うとき。
- トラクターから離れるとき。

【守らないと】

トラクターが突然動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

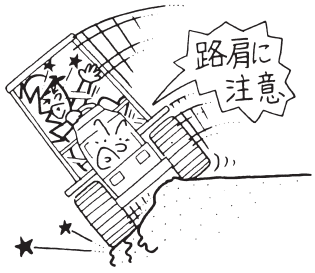
■道路の端に寄りすぎない

溝・穴の近くや路肩など、トラクターの重みで崩れるおそれのある場所では運転しないでください。

草の茂った場所や水たまりは、隠れて見えない窪地などがあるおそれがあります。必ずトラクターから降りて確認してください。

【守らないと】

転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■ぬかるみからの脱出､急な坂は後進で運転する

溝やぬかるんだ場所からの脱出、急な坂を登るときは、後進で運転してください。

【守らないと】

前進で運転すると､トラクターのバランスが崩れ､後方に転倒するおそれがあります。

■溝越え時は最低速度で､トラクターを溝に対して直角に合わせる

ほ場の出入りで、急斜面の上り降りや溝越えをするときは、斜面や溝に対して直角に、低速で行ってください。

【守らないと】

トラクターが転倒するおそれがあります。

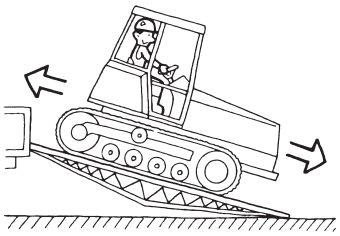
■段差を乗り越えるときはアユミ板を使用する

高低差の大きい急斜面の上り降り、あぜ越え、段差の乗り越え、トラックへの積み・降ろしをするときは、アユミ板を使用してください。

- アユミ板は丈夫で滑り止めのある基準に合ったものを使用してください。
- アユミ板は段差の4倍以上の長さのものを使用してください。
- アユミ板は確実に固定し、低速で運転してください。

【守らないと】

バランスが崩れて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■ほ場から出たときは､油圧ストップバルブを閉める

トラクターをほ場から出したときは、油圧ストップバルブを閉め、油圧ストップ位置にし、作業機上下レバーを「上」位置にして、ストッパでロックし作業機の落下防止をしてください。

【守らないと】

作業機が落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

4. 道路走行するときの注意事項

⚠警告

■公道走行時は道路交通法規を守る

公道を走行するときは、必ず作業機を外し、道路交通法規を守ってください。

【守らないと】

道路運送車両法違反となります。

また、作業機を装着して走行すると、車・人・電柱などに引っかけて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

■公道走行時は大型特殊自動車免許証を携帯する

公道を走行するときは、必ず大型特殊自動車免許証を携帯してください。

【守らないと】

道路交通法違反となります。

■ほ場を出る前に自動機能を「切」にする

道路走行では、以下の自動機能を「切」位置にしてください。

油圧自動	・水平自動制御 ・バック上昇　など

【守らないと】

作業機が突然動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■慎重な運転をする

スピードの出し過ぎに注意し、慎重に運転してください。

- 急発進や急停止は、絶対にしないでください。
- 旋回するときは、トラクターの速度を落としてください。
- 坂道や凹凸道、カーブの多い場所ではトラクターの速度を落としてください。

【守らないと】

転倒や追突事故のおそれがあります。

⚠警告

■移動走行時は、旋回モードを「標準」にする

移動時は必ず旋回モード切替ノブを「標準」位置にして走行してください。

【守らないと】

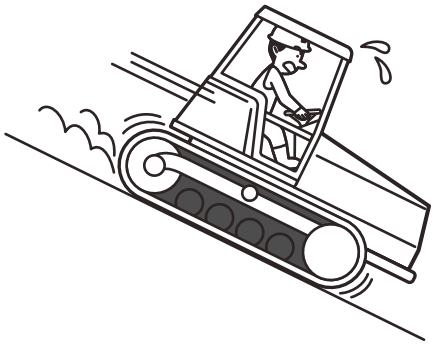
自動減速および小回りがきかなくなり、事故を起こすおそれがあります。

■坂道は低速で運転する

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道の途中では、変速をしないでください。トラクターが急に下がりだし、暴走するおそれがあります。必ず低速で運転してください。

【守らないと】

転倒・転落・追突事故のおそれがあります。



■上り坂ではゆっくりと発進する

上り坂では急発進せず、エンジン回転を落としてゆっくりと発進してください。

【守らないと】

機体前方がはね上がり、事故を起こすおそれがあります。

5. 作業機を使用するときの注意事項

⚠警告

■作業機の着脱は、安全に注意する

- 作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。
- 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行ってください。夜間に行う場合は、適切な照明を確保してください。
- トラクターを動かして作業機を着脱するときはトラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠危険

■作業機の回転が止まるまで触れない

ロータリーなどPTO作業機の着脱、調整、掃除をするときは、作業機の回転が完全に止まるまで待ってください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。



■作業機の回転が止まるまで降りない

トラクターから降りるときは、ロータリーなどPTO 作業機の回転が完全に止まってから行ってください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■推奨されている作業機を装着する

トラクターに装着する作業機は、推奨されているものを使用してください。

【守らないと】
大きすぎたり、小さすぎたり、バランスの悪い作業機を装着しますと、人身事故や機械の破損の原因になります。

■バランスウエイト代わりに人や物を乗せない

バランスウエイト代わりに人や物を乗せないでください。必ず作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】
人身事故や機械の破損の原因になります。



■けん引作業には、必ずドローバーを使用する

けん引作業には、必ずドローバーを使用してください。トップリンクやロアリンクなどを使ってのけん引作業は絶対にしないでください。

【守らないと】
トラクターの転倒や破損の原因になります。

⚠警告

■フロントブレード装着時は、後部にウエイトを装着する

トラクター単体（後部作業機なし）でのフロントブレードの装着はしないでください。
フロントブレードを装着する場合は、必ず後部にカウンターウエイトまたは500kg相当の作業機を装着してください。
【守らないと】
前後バランスが悪くなり、トラクターが前方へ傾き、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■後部のウエイト(作業機)の着脱は、フロントブレードを外して行う

後部のカウンターウエイトまたは作業機を着脱するときは、必ず先にフロントブレードを外してください。
【守らないと】
前後バランスが悪くなり、トラクターが前方に傾いて思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■作業機を装着するときは、安全な上げ高さに設定する

背の高い作業機（調整レバーを含む）を装着した場合や、ロータリー用アタッチメントを取り付けた場合には、トラクター本体やキャビンに干渉しないように、注意してください。
作業機昇降スイッチやバック上昇機能などの自動装置での上げ操作はしないでください。
【守らないと】
作業機の調整レバーなどが干渉し、人身事故や機械の破損の原因となります。

[重要]
作業機の上げ高さを上げ位置ダイヤルで規制してください。上げ高さを設定するときは、エンジン回転を低速にし、ゆっくりと作業機を上げて設定してください。

⚠注意

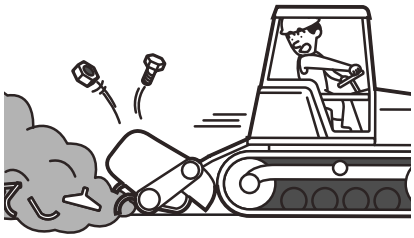
■PTO軸を使用しないときは、カバーを装着する

PTO軸を使用しないときは、常にPTO軸カバーを取り付けてください。
【守らないと】
PTO軸に巻き込まれるおそれがあります。



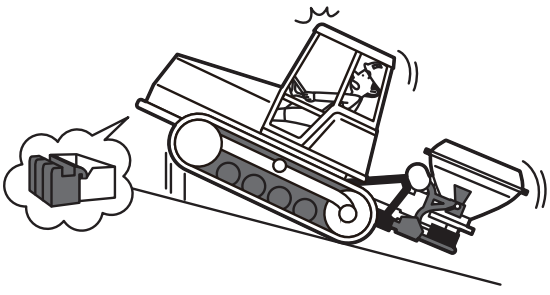
■作業機指定の回転速度を厳守する

PTO作業機は、その作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。
【守らないと】
低速回転用の作業機を高速回転で使用すると、作業機が異常作動し、人身事故や機械の破損の原因になります。



■前後のバランスを保つ

トラクターの後部に重い作業機を装着したときは、フロントバンパーにバランスウエイトを取り付けてバランスを保ってください。
【守らないと】
トラクターの前部が軽くなり、ハンドル操作が難しくなり、転倒するおそれがあります。



6. 運搬するときの注意事項

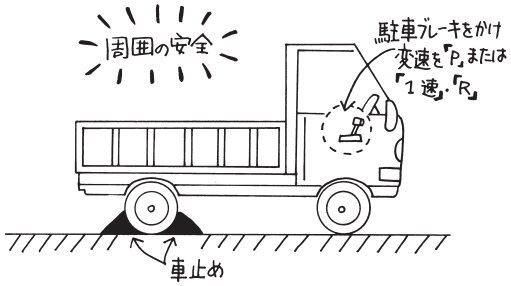
⚠警告

■積み込むトラックには、必ず車止めをする

トラクターを積み込むトラックは、エンジンを停止し、変速を「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて、タイヤに車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて、転落事故を引き起こすおそれがあります。

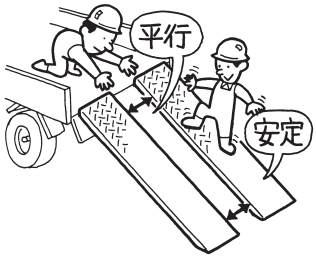


■トラックへの積み・降ろしをするときは、アユミ板の平行や安定を確認する

アユミ板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。

【守らないと】

バランスが崩れて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。



⚠警告

■積み・降ろし作業は、補助者を付けて行う

トラックへの積み・降ろし作業は、補助者を付けて、周囲の安全を十分に確認しながら行ってください。また補助者は、機械の直前・直後には絶対に立たないでください。

【守らないと】

転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

■アユミ板の上では、進路変更をしない

積み・降ろしをするときは、ゆっくりとした速度で、アユミ板に対して直角に進み、途中でハンドルを切らないようにしてください。

【守らないと】

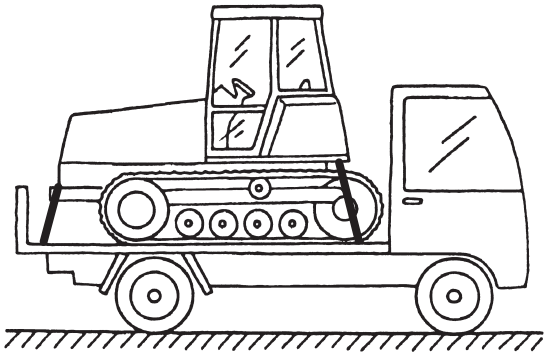
バランスが崩れて、転倒事故を起こすおそれがあります。

■機械をトラックにロープで確実に固定する

トラックに積み込んだら、トラクターのエンジンを停止し、駐車ブレーキを必ずかけてください。また、丈夫なロープでトラックに確実に固定してください。

【守らないと】

運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こすおそれがあります。



049285-00X00

7. 駐車・格納するときの注意事項

⚠危険

■駐車するときは、平たんで安定した場所に止める

トラクターを駐車するときは、平たんで安定した場所に止め、作業機を地面に接地させ、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、クローラに車止めをしてください。

また、PTO 駆動スイッチが「切」、各変速レバー（主変速・PTO変速）が「N」（中立）位置になっていることを確認してください。トラクターから離れるときは、必ずキーを抜いてください。

【守らないと】

トラクターが動き出し、傷害事故を引き起こす可能性があります。

■燃えやすいものが堆積した場所に駐車しない

乾燥した草やワラなど、燃えやすいものが堆積した場所にトラクターを駐車しないでください。

【守らないと】

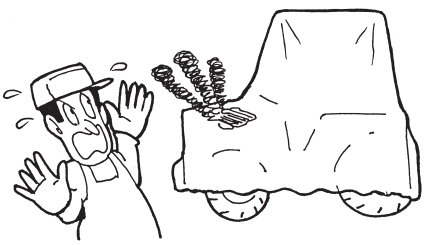
堆積物に引火して、火災を起こすおそれがあります。

■シートは機械が十分に冷めてからかける

トラクターにシートをかけるときは、マフラーやエンジンが十分に冷えてから行ってください。

【守らないと】

過熱した状態でシートをかけると、シートに引火して火災を起こすおそれがあります。



8. 点検・給油・整備するときの注意事項

⚠注意

■点検・給油・整備は、平たんで安定した場所で行う

点検・給油・整備をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所にトラクターを駐車させ、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、クローラに車止めをしてください。作業機は地面に接地させ、PTO 駆動スイッチが「切」、各変速レバー（主変速・PTO 変速）が「N」（中立）位置になっていることを確認してください。

【守らないと】

トラクターが動き出し、傷害事故を引き起こす可能性があります。



■クローラの摩耗やキズの点検を行う

クローラが著しく摩耗していたり、キズが付いていないか点検してください。

【守らないと】

横滑りや転倒事故の原因になります。

■外したカバー類は元通りに取り付ける

トラクターや作業機の点検・整備などで外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】

外した状態で運転をすると、機械に巻き込まれるおそれがあります。

⚠危険

■点検･給油･整備は機械が十分に冷えてから行う

マフラー、エンジン、ラジエータなどが十分に冷えてから、点検・給油・整備を行ってください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。

特に､ラジエータが過熱しているときは､ラジエータキャップを絶対に外さないでください。熱湯が噴き出します。



■燃料補給をするときは火気厳禁

燃料補給やバッテリー充電をするときは、くわえタバコや裸火照明をしないでください。また、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

燃料に引火して、ヤケドや火災を起こすおそれがあります。



⚠危険

■バッテリー点検時は火気厳禁

バッテリーの点検および外すときは、エンジンを必ず停止し、ショートによる火花や火気に注意してください。

【守らないと】

バッテリーから発生する水素ガスに引火して、爆発するおそれがあります。

■バッテリーの排気穴をふさがない

バッテリーの排気穴はふさがないでください。

【守らないと】

バッテリー内部で発生するガスにより、バッテリーの内圧が上がり､破裂するおそれがあります。

■バッテリー点検時は､保護メガネとゴム手袋を着用し､バッテリー液を体や衣服に付けない

バッテリーに入っている電解液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐに水でよく洗った後、必ず医師の治療を受けてください。

【守らないと】

バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、ヤケドや失明のおそれがあります。



⚠注意

■バッテリーの取り付け･取り外しは正しい手順で行う

バッテリー端子を外すときは（−）側のケーブルから外し、取り付けるときは（+）側のケーブルから取り付けてください。

【守らないと】

ショートによるヤケドや火災の原因になります。

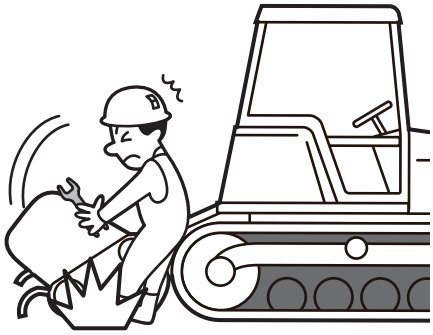
⚠警告

■作業機を上げた状態で点検･整備をする場合は落下防止の処置を行う

作業機を上げた状態で点検・整備を行うときは、油圧ストップバルブを油圧ストップ位置にして、作業機の下にリジットラック（うま）をかけて落下防止をしてください。

【守らないと】

作業機が落下し、はさまれるおそれがあります。



■配線コードは毎日点検する

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

配線がショートし、機械が破損するおそれがあります。

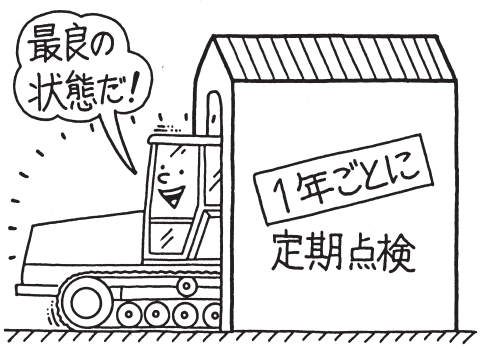
⚠警告

■必ず定期点検整備を受ける

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守を行ってください。特に、燃料パイプや、パワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は50時間ごと、または1年ごと（どちらか早いほう）に点検してください。ゴムホース類は時間が経過すると劣化します。

【守らないと】

整備不良により、燃料・熱湯・作動油が漏れると、火災・ヤケドの原因となったり、ハンドル操作ができなくなり、事故の原因になります。



⚠注意

■油圧ホースを外すときは、回路内の圧力を抜く

油圧の継ぎ手やホースを外すときは、油圧回路内の圧力を抜いてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚を突き破るほどの力があり、傷害事故の原因になります。

■燃料噴射管や油圧パイプなどからの油漏れは、厚紙や板などを使って点検する

高圧油に手や体が直接触れないようにしてください。もし、触れた場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

【守らないと】

油が皮膚に侵入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。

⚠危険

■駐車ブレーキ操作はトラクターの外から行わない

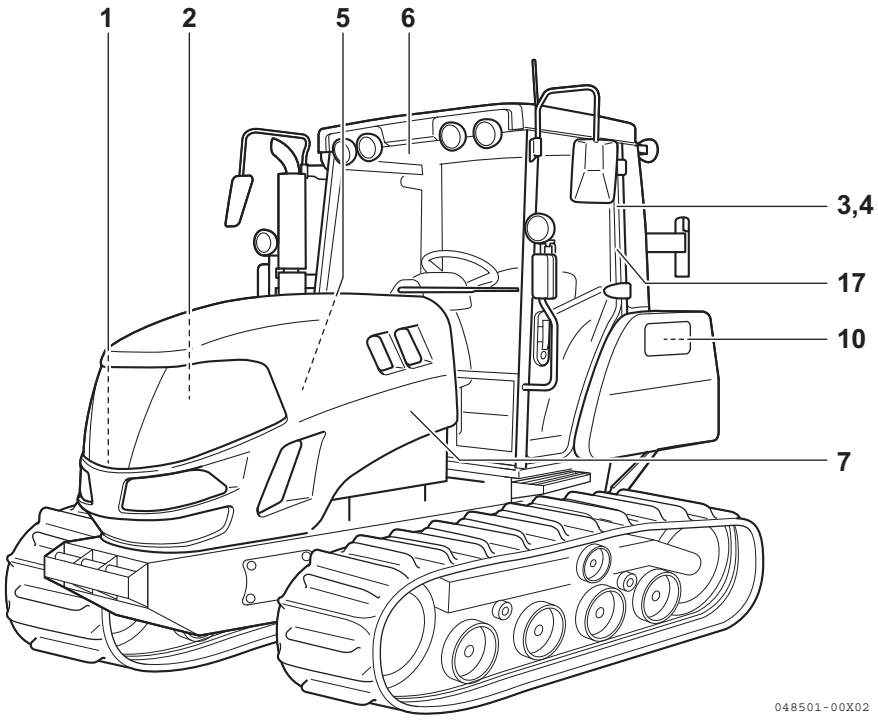
トラクターの外から駐車ブレーキを解除しないでください。必ず運転席に座って駐車ブレーキを解除してください。

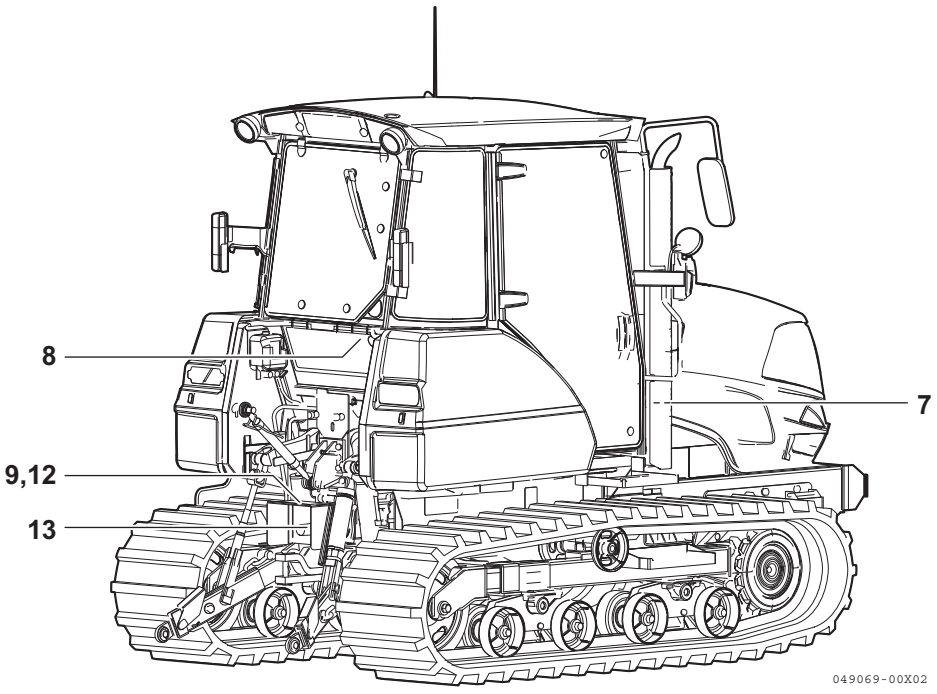
【守らないと】

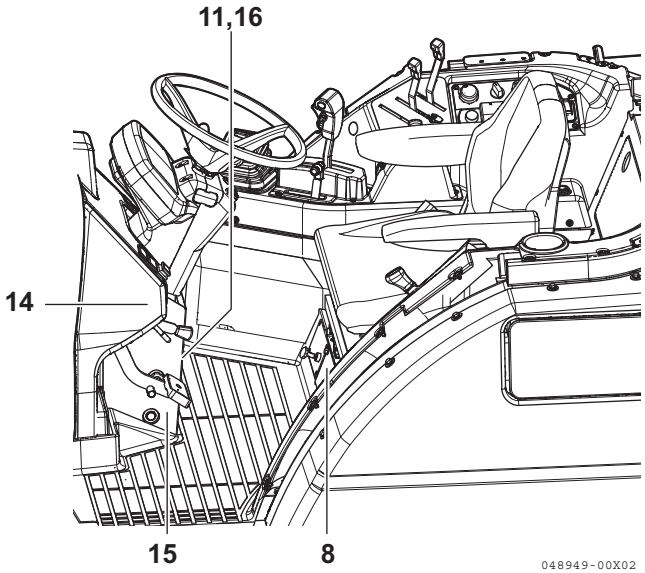
トラクターが走りだし、巻き込まれてケガをするおそれがあります。

9. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために、安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は作業をはじめる前に必ず読んで、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。
常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。






11,16
14
15
8
048949-00X02

1. 危険(バッテリー)



(フロントマスク内部)

2. 危険(ラジエータ)



(ラジエータ上部)

3. 警告(シートベルト)



4. 警告(排気ガス)

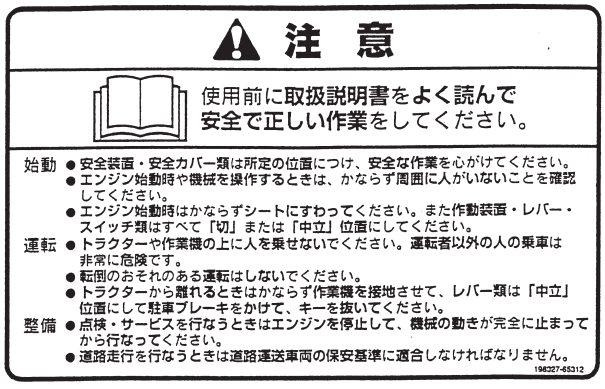


5. 注意(ファン、ベルト)

※左右に貼付してあります。



6. 注意(安全運転)



7. 注意(高温注意)



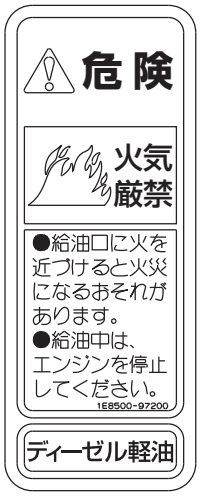
8. 警告（油圧）



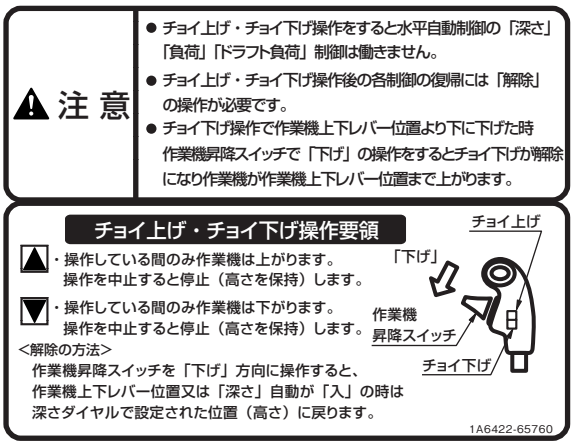
9. 危険（回転軸危険）



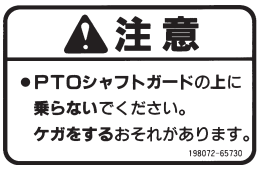
10. 危険（火気厳禁）



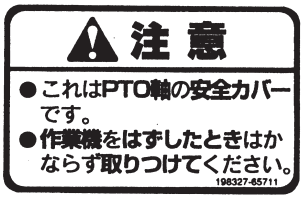
11. 注意（チョイアゲ・サゲ）



12. 注意（ノルナ）



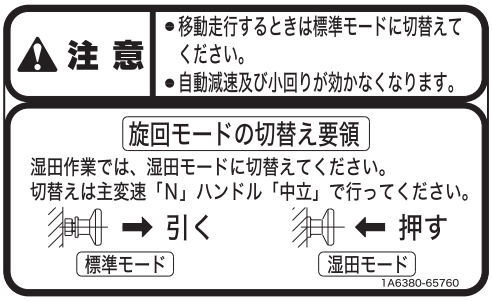
13. 注意（PTOカバー）



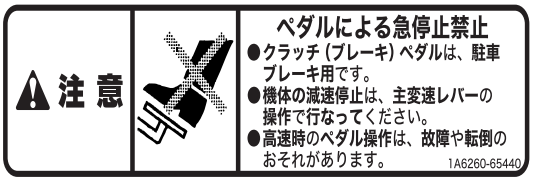
14. 注意（エンジン停止）



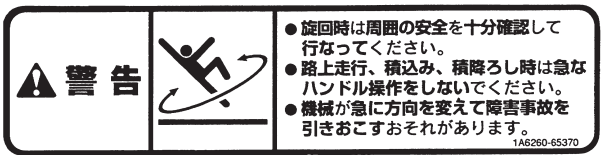
15. 注意（旋回モード）



16. 注意（ペダル操作）



17. 注意（ハンドル操作）



10.安全銘板の手入れについて

■安全銘板は、いつもきれいにして、キズを付けないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。

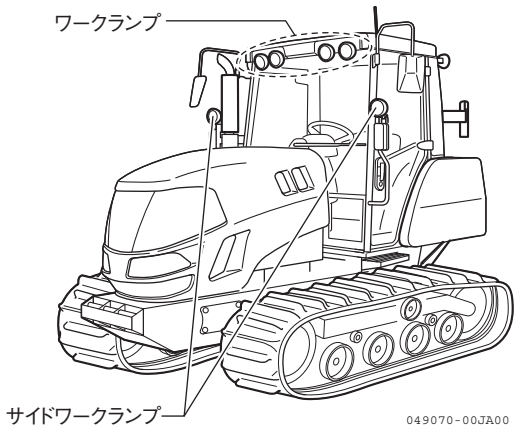
■高圧洗浄機の高圧水を安全銘板に当てないでください。剥がれるおそれがあります。

■安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。安全銘板はお買い上げいただいた販売店または JA にご注文ください。

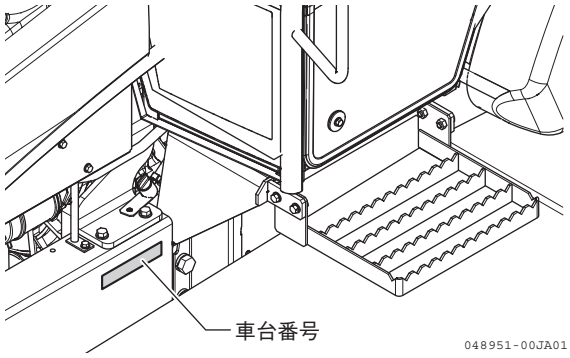
公道走行するための関係法規について

このトラクターは、道路運送車両法の小型特殊自動車として、公道走行が行えます。ただし道路交通法上は大型特殊自動車の扱いとなります。
公道走行を行うためには、下記の事項に注意してください。

- 公道走行する場合は、大型特殊自動車の免許証が必要です。運転するときは必ず免許証を携帯してください。（自動車の普通免許では運転できません。）
- 勝手に構造等を変更した場合は、道路を走行するための基準に不適合となり、公道を走行することができなくなることがありますので、ご注意ください。
- 作業機を装着した状態では、道路運送車両法を満足しないため、道路走行はできません。
- 道路運送車両法では、ワークランプ・およびサイドワークランプは「道路走行中に使用しない灯火」とされています。他の交通妨害になりますので、道路走行中は点灯しないでください。



- このトラクターには、道路運送車両法に基づき、自動車としての車台番号を打刻しています。打刻を削ったり塗りつぶしたりして、打刻を消さないでください。番号を読めなくした場合、道路運送車両法違反となり、刑罰の対象となります。



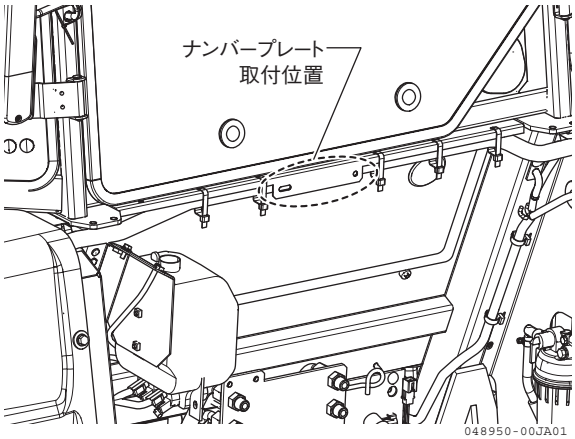
- 被けん引車を装着して道路走行をする場合は、被けん引車を自動車として登録し、ナンバープレートの交付を受けている必要があります。
  また、被けん引車の車両総重量が750kgを超える場合はけん引免許が必要となります。

排出ガス規制について

このトラクターは道路運送車両法の排出ガス規制に適合しています。
規制適合を維持していくためには、101 ページの「定期点検・整備一覧表」に従って、エンジンオイル・オイルフィルター・燃料フィルター・およびエアクリーナエレメントなどの交換とエンジン以外も含む定期メンテナンスを励行することが必要です。
定期的なメンテナンスを怠り、排出ガス基準値をクリアできなかった場合は、罰則が課せられる場合があります。

ナンバープレートの交付を受けてください

このトラクターは小型特殊自動車です。公道を走行するしないにかかわらず、必ずトラクター取得の届け出を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。交付されたナンバープレートは、ナンバープレート取付穴に取り付けてください。



〈届け出のしかた〉

小型特殊自動車販売証明書（販売店・JAが発行します）ならびに、小型特殊自動車届出書に軽自動車税を添えて、市町村役場へ提出してください。

※市町村により、手続きが多少異なります。詳しくは、お買い上げいただいた販売店・JAにご相談ください。

〈損害賠償保険について〉

農耕作業用小型特殊自動車は、自動車損害賠償保険法第2条の「自動車」から省かれ、強制保険の対象から除外されています。万一の場合を考えて、自動車保険の契約をご希望される場合は、自動車共済、または任意の自動車保険にご加入ください。

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

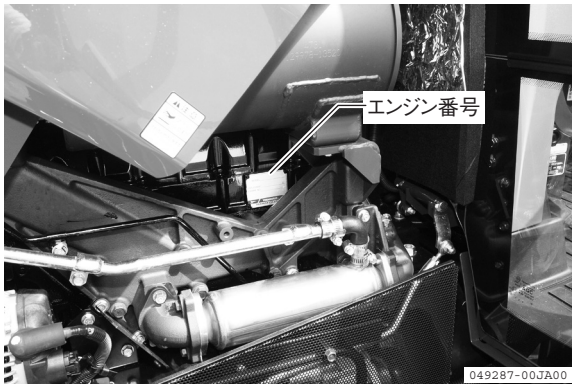
機械の調子が悪いときは、132 ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでも不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店・JAまでご連絡ください。

《ご連絡いただきたい内容》

- 販売型式名と製造番号
- エンジンの場合は、エンジンの製造番号
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。



049286-00JA00



049287-00JA00

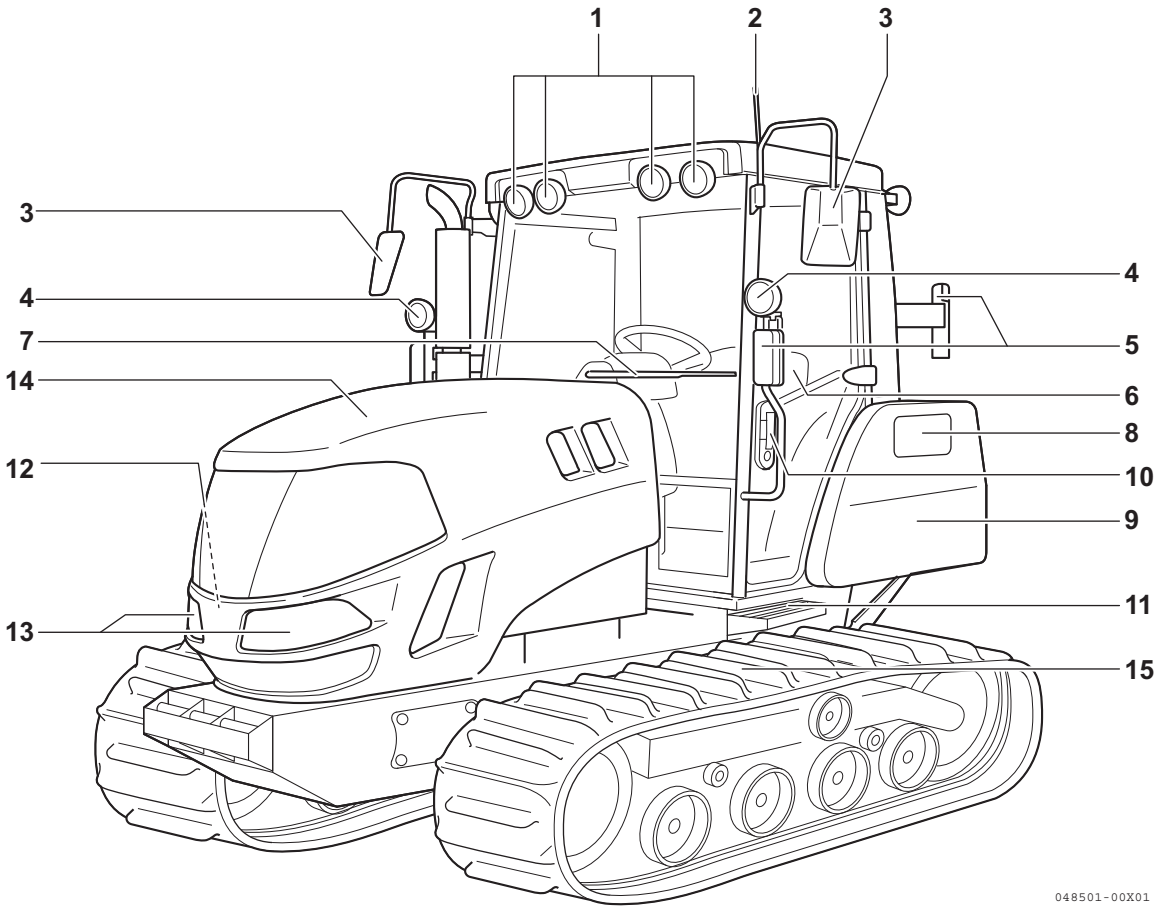
《補修部品の供給年限について》

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内にあっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要望があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

4章　各部のなまえ

各装置のはたらきや使いかたは、名称に記載してある参照ページをご覧ください。

1. 外観

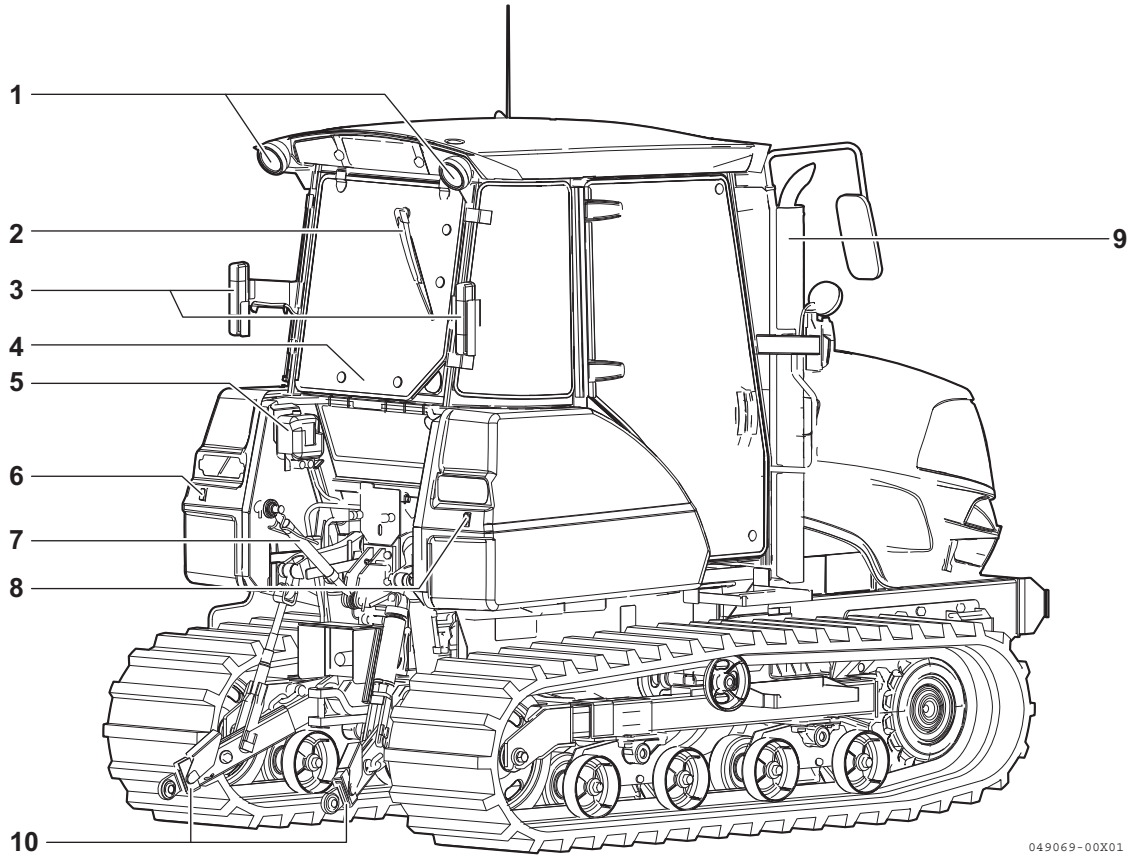


参照ページ

1. フロントワークランプ
2. アンテナ
3. サイドミラー 61
4. サイドワークランプ
5. フラッシャランプ
6. 運転席（ドライバシート） 60
7. フロントワイパー
8. 燃料給油口 103

参照ページ

9. 燃料タンク 40
10. ドア取っ手 53
11. ステップ
12. バッテリー 119
13. ヘッドランプ
14. ボンネット 97
15. クローラ



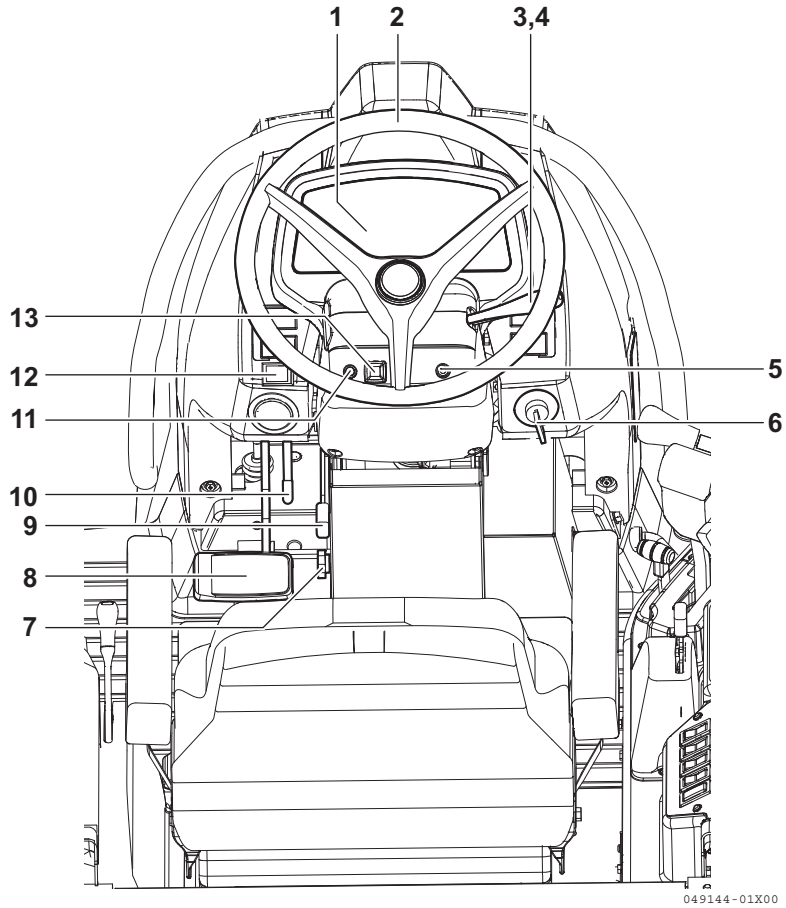
参照ページ

1. リヤワークランプ
2. リヤワイパー
3. フラッシャランプ・テールランプ
ブレーキランプ 43
4. リヤウインドストッパ
5. ウォッシャータンク.....118

参照ページ

6. 油圧リフト外部操作スイッチ 88
7. トップリンク 91
8. 傾きシリンダ外部操作スイッチ 89
9. マフラー
10. ロアリンク 91

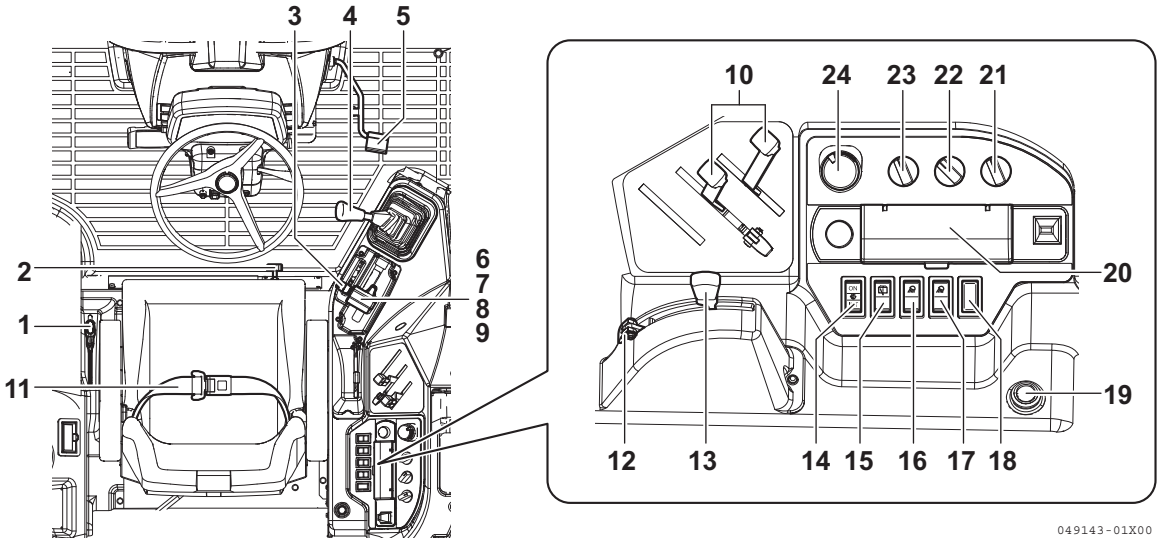
2. 運転操作部



	参照ページ
1. 計器パネル	44
2. ハンドル	31
3. フラッシャランプスイッチ	38
4. ライトスイッチ	39
5. エコビュー表示切替スイッチ	
6. キースイッチ	31
7. 旋回モード切替ノブ	34

	参照ページ
8. クラッチペダル（ブレーキペダル兼用）	33
9. 駐車ブレーキレバー	33
10. チルトハンドル操作レバー	60
11. ホーンスイッチ	40
12. ハザードスイッチ	39
13. サイドワークランプスイッチ	41

3. 運転席回り



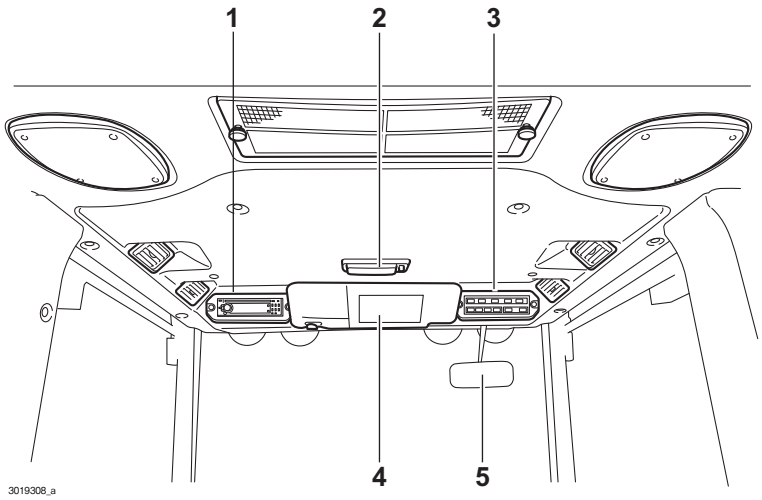
参照ページ

1. 副変速レバー 32
2. 油圧ストップバルブ 37
3. アクセルレバー 31
4. PTO変速レバー 35
5. フートアクセルペダル 32
6. 主変速レバー 33
7. 作業機昇降スイッチ 36
8. チョイ上げ・チョイ下げスイッチ 36
9. 副変速スイッチ 32
10. サブコントロールレバー 37
11. シートベルト 61
12. ストッパ 35

参照ページ

13. 作業機上下レバー 35
14. フロントワイパー・洗浄液噴射スイッチ 41
15. リヤワイパー・洗浄液噴射スイッチ 42
16. フロントワークランプスイッチ 40
17. リヤワークランプスイッチ 40
18. リヤデフォッガスイッチ 42
19. アクセサリーソケット 88
20. 水平自動操作ボックス 50
21. 複動切替スイッチ 38
22. エコターン・エコバック速度切替スイッチ 37
23. PTO連動切換スイッチ 34
24. PTO駆動スイッチ 34

4. キャビン上部



	参照ページ
1. FM・AMラジオ付CDプレーヤー	54
2. ルームランプ	54
3. エアコン操作パネル	55
4. サンバイザ	54
5. ルームミラー	

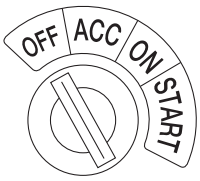
1. 運転操作部

キースイッチ

⚠注意

トラクターを使用しないときは、必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。

エンジンの始動・停止に使用します。



EG27_b

「OFF（切）」位置
…… エンジンが停止します。（電流が流れず、キーを抜くことができます。）

「ACC」位置
…… FM･AMラジオ付CDプレーヤーが使用できます。アクセサリーソケットに電源を供給します。

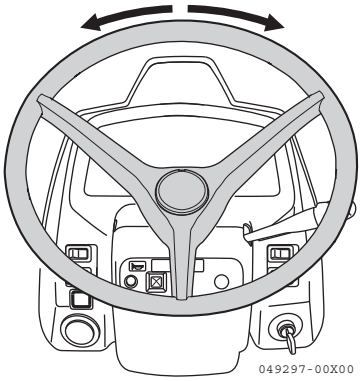
[参考]
「ACC」位置のまま長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。

「ON（入）」位置
…… 各電装品スイッチに電流が流れます。

「START（始動）」位置
…… セルモータが回転し、エンジンが始動します。
エンジンが始動したら、キーから手を離します。キーは自動的に「ON（入）」位置に戻り、連続運転になります。

ハンドル

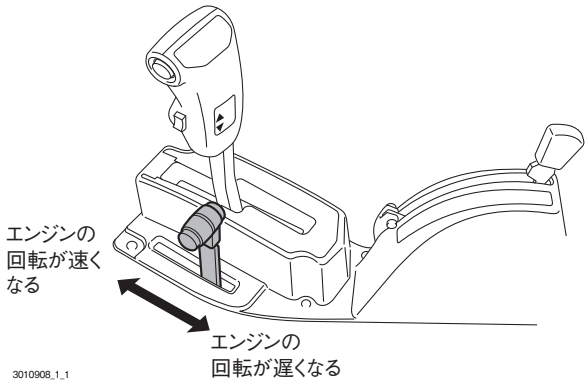
機体を旋回するときに使用します。



ハンドルを右へ回すと機体が右へ旋回し、左へ回すと左へ旋回します。
さらにハンドルを右、または左へ回すと、ハンドルを回した側のクローラが停止、または逆転して旋回でき、旋回半径が小さくなります。（75ページ参照）

アクセルレバー

エンジン回転の調節ができます。一定回転で作業するときに使用します。



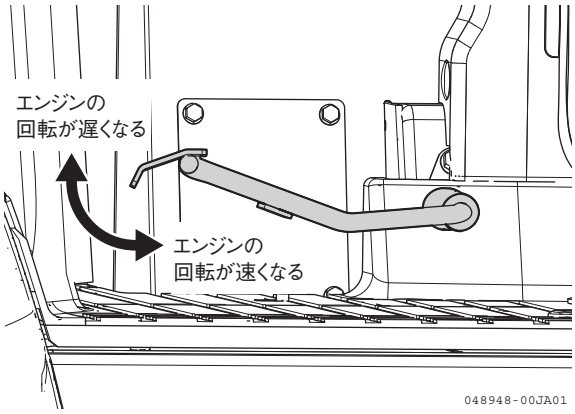
3010908_1_1

「 」側……エンジン回転が遅くなります。

「 」側……エンジン回転が速くなります。

フートアクセルペダル

走行中の走行速度の調節に使用します。

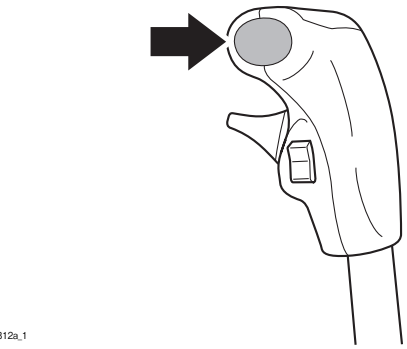


踏み込む…エンジン回転が上がり走行速度が速くなります。

離す……エンジン回転が下がり走行速度が遅くなります。

副変速スイッチ

副変速レバーで設定した「1速」「2速」の各走行速度を「低・高」の2段階に変速します。



……「高」速になる

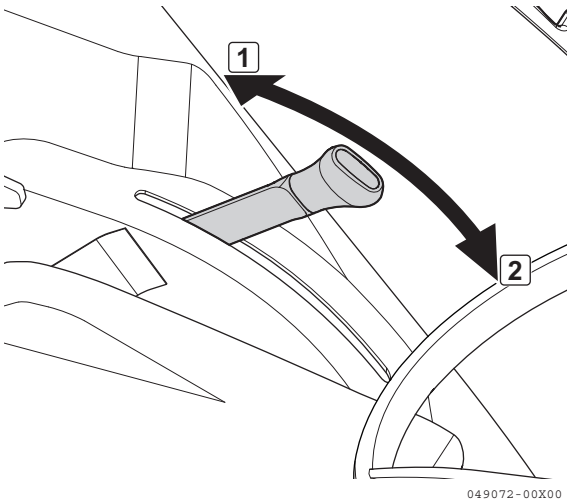
……「低」速になる

副変速レバー

⚠警告

- **副変速レバーが確実に変速位置にあり、パネルの「LO」・「HI」ランプが点灯しているか確認してください。ランプが消灯したまま主変速レバーやハンドルを操作すると、機体が急旋回し、転倒事故などのおそれがあります。**
- **トラックへの積み・降ろし、ほ場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、副変速レバーを「1速」にしてください。**
  守らないと、バランスを崩し、転倒、転落のおそれがあります。

「1速」「2速」の2段階の走行速度が選べます。



「1速」位置……主に作業時

「2速」位置……移動走行

[重要]

副変速レバーの操作は、主変速レバーを必ず「N」(中立)位置にし、機体が完全に停止してから行ってください。

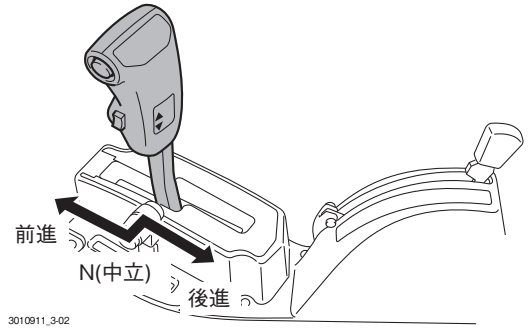
[参考]

副変速レバーと副変速スイッチの組み合わせ

副変速レバー	副変速スイッチ	パネルランプ点灯	走行速度(km/h)	
			前進	後進
1	低	LO	0～5.2	
1	高	HI	0～9.5	
2	低	LO	0～9.8	
2	高	HI	0～17.9	

主変速レバー

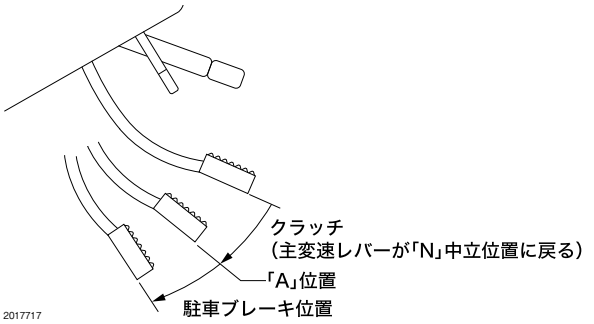
前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。



「前進」側…… 機体が前進します。
「後進」側…… 機体が後進します。
「N」（中立）位置…… 機体が停止します。
走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

⚠注意

主変速レバーが前進または後進位置にあるとき、主変速レバーを手で保持したままクラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込まないでください。重大な事故の原因になります。

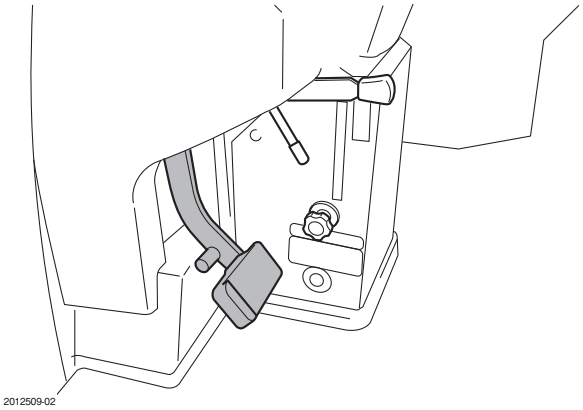


[参考]

クラッチ（ブレーキ）ペダルを「A」位置まで踏み込むと、主変速レバーが「N」（中立）位置に戻ります。

クラッチペダル（ブレーキペダル兼用）

駐車するときに使用します。

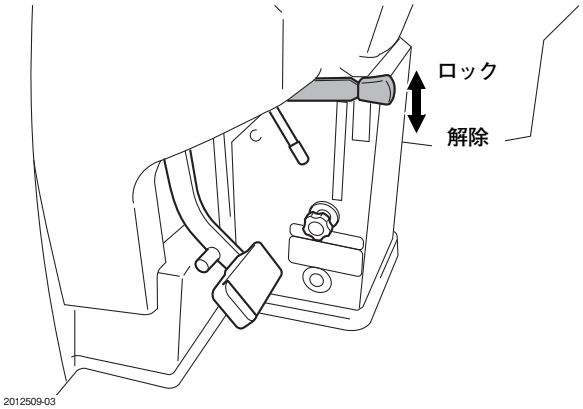


クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込むと、主変速レバーが「N」（中立）位置になり、さらに踏み込むとブレーキがかかります。

駐車ブレーキレバー

⚠危険

トラクターから降りて外から駐車ブレーキを解除しないでください。守らないと、トラクターが動き出し、巻き込まれて傷害事故を起こすおそれがあります。



機体を駐車するときに使用します。
クラッチ（ブレーキ）ペダルをいっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキレバーを上に引くと、駐車ブレーキがかかります。
クラッチ（ブレーキ）ペダルを強く踏み込み、レバーを解除方向へ押すと駐車ブレーキが解除されます。

[参考]

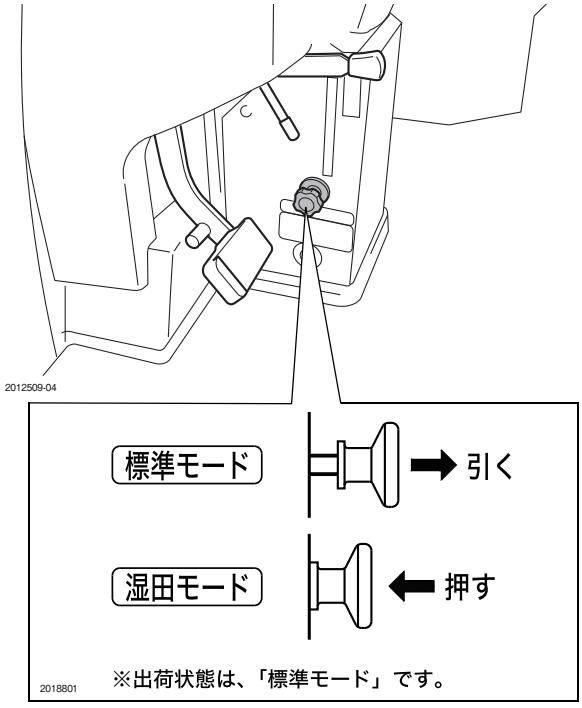
駐車ブレーキレバーを操作するときは、クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏みながら操作してください。

旋回モード切替ノブ

⚠警告

移動走行時は､旋回モード切替ノブを｢標準｣モードにしてください。
守らないと､自動減速および､小回りがきかなくなり､事故を起こすおそれがあります。

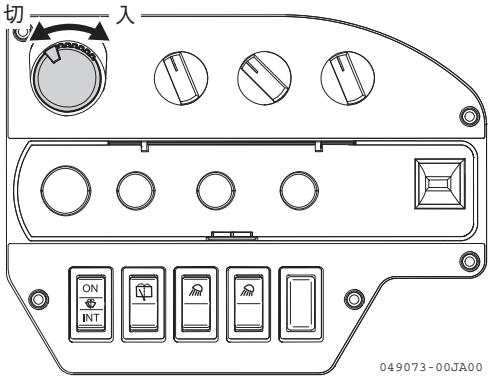
作業状況により、旋回モードを切り替えるときに使用します。



旋回モード切替ノブは、主変速レバーを「N」(中立)位置、ステアリングハンドルを「中立」にして操作してください。
ノブを引き出す……標準モード
(スピンターンする)
ノブを押し込む……湿田モード
(スピンターンしない)

PTO駆動スイッチ

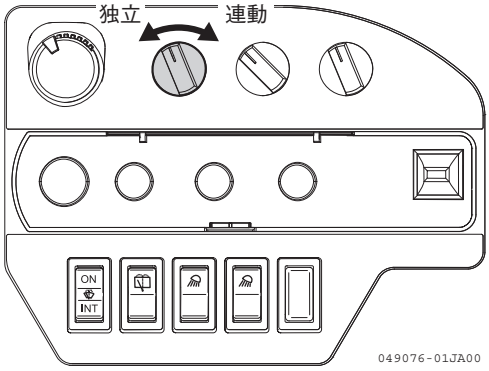
PTO作業をするときに使用します。



「切」位置…PTO駆動スイッチを押してください。
PTO軸の回転が止まります。
「入」位置…PTO 駆動スイッチを右に回してください。スイッチが上がり、PTO 軸が回転します。

PTO連動切替スイッチ

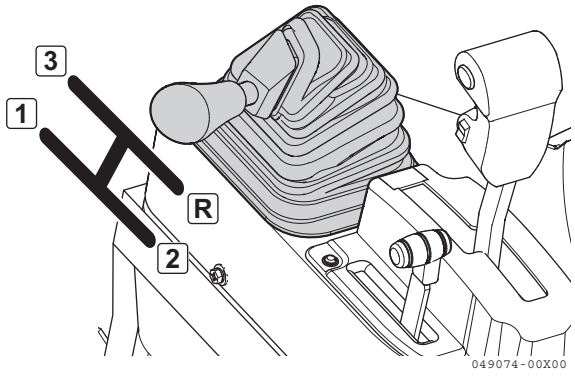
クラッチペダルを踏み込んだときに、PTO軸の回転が停止するか、しないかを選べます。



「独立」位置…クラッチペダルを踏み込んでも、PTO軸の回転は停止しません。
「連動」位置…クラッチペダルを踏み込むと、PTO軸の回転が停止します。

PTO変速レバー

PTO軸の回転数を変速するときに使用します。正転3段階・逆転（R位置）1段階から選べます。



[参考]

- PTO 連動切換スイッチが「独立」位置のときは、PTO駆動スイッチを「切」位置にして変速してください。
- PTO 連動切換スイッチが「連動」位置のときは、クラッチ（ブレーキ）ペダルをいっぱい踏み込んで、PTO軸が停止してから変速してください。
- 逆転（R位置）使用時は、パネルにR.PTOと表示され、回転数を表示します。

変速段	回転数 (min^{-1})
1速	573
2速	751
3速	1040
逆転(R)	690

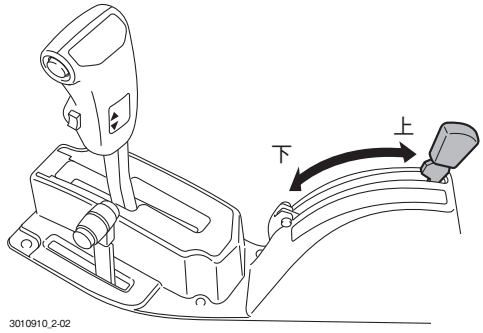
[重要]

PTO の「逆転」(R 位置)は、使用方法を誤ると機械の破損の原因になります。つぎの点に注意して使用してください。

- **使用できる作業**
  - 土寄せ作業
  - 草やワラの巻きつきをほぐすとき
- **使用できない作業**
  - 未耕地での耕うん作業
  - ロータリーの爪軸を逆に取り付けて行う本格的な逆転耕うん作業

作業機上下レバー

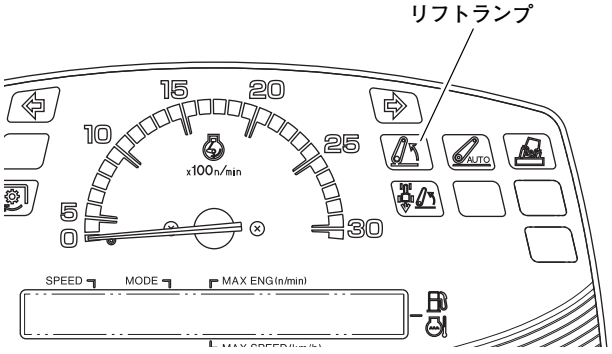
作業機の上げ・下げができます。作業機は、レバーで設定した位置を保持します。



「上」方向……作業機が上がります。
「下」方向……作業機が下がります。

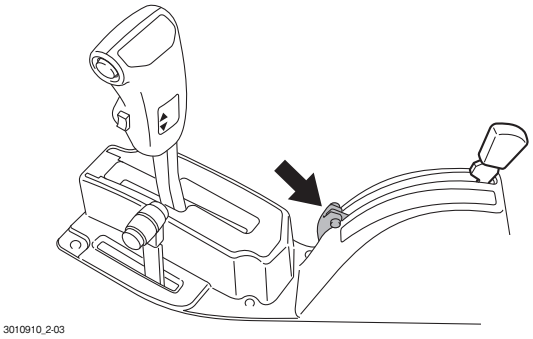
[参考]

リフトランプが点灯しているときは、作業機上下レバーでは作業機は下がりません。
作業機上下レバーを一度上げ位置まで操作すると、作業機上下レバーで作業機は下がります。



ストッパ

作業機を上げた状態で固定するときに使用します。また作業機上下レバーの操作範囲を制限できます。

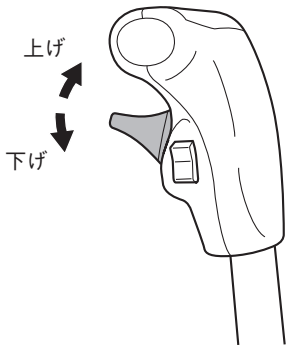


作業機昇降スイッチ

⚠警告

エンジンを停止しても、キースイッチが「入」位置の場合は、作業機昇降スイッチを「下げ」位置にすると作業機が下降します。
作業機の下に人がいないことや、足を踏み込んだりしていないことを確認してから操作してください。守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

作業機の上げ・下げができます。



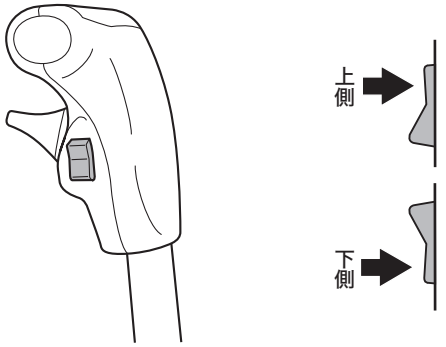
2018812b-02

「上げ」方向……「上げ位置ダイヤル」で設定した上げ位置まで、作業機が上昇して停止します。

「下げ」方向……「作業機上下レバー」で設定した下げ位置まで作業機が下降して停止します。

チョイ上げスイッチ・チョイ下げスイッチ

作業機の上げ・下げの微調整に使用します。



2018812a_2-02　　2018804

「上側」……押している間のみ作業機は上がります。指を離した位置で作業機は停止します。

「下側」……押している間のみ作業機は下がります。指を離した位置で作業機は停止します。

〈解除のしかた〉

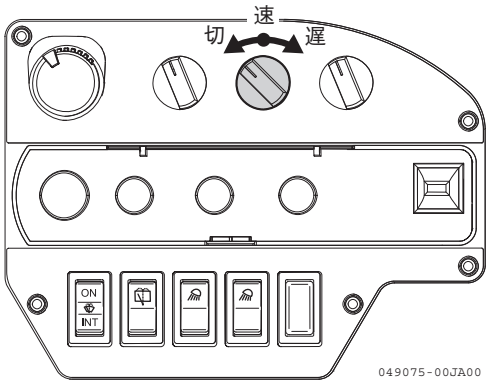
作業機昇降スイッチを「下げ」方向にすると、作業機上下レバー位置に戻るか、「オート」「ドラフト」「負荷」「レーザー」の設定に応じた位置（高さ）に戻ります。

[重要]

- **チョイ上げ・チョイ下げスイッチを操作すると、水平自動制御の「オート」「ドラフト」「負荷」「レーザー」制御は、はたらきません。（「傾き」制御のみはたらきます。）**
- **チョイ上げ・チョイ下げスイッチ操作後の各制御の復帰には「解除」の操作が必要です。解除すると、「オート」「ドラフト」「負荷」「レーザー」はチョイ上げ・チョイ下げスイッチ操作前の制御に復帰します。**
- **チョイ上げ・チョイ下げスイッチで作業機を上下させているとき、作業機昇降スイッチで「下げ」方向に操作すると、チョイ上げ・チョイ下げ操作前の高さ・制御に戻るため、作業機が上昇する場合があります。**

エコターン・エコバック 速度切替スイッチ

作業中のエコターン（旋回速度）とエコバック（後進速度）の自動減速「入」「切」および速度の選択ができます。



作業機昇降スイッチで作業機を上げた場合や、主変速レバーを後進側にすると、自動的にエンジン回転が下がり減速します。旋回や後進が終わり作業機昇降スイッチを下げにするとエンジン回転が自動的に設定回転に復帰し元の速度になります。

「切」位置……同じ速度で作業できます。
「速」位置……約95%の速度に減速します。
「遅」位置……約90%の速度に減速します。

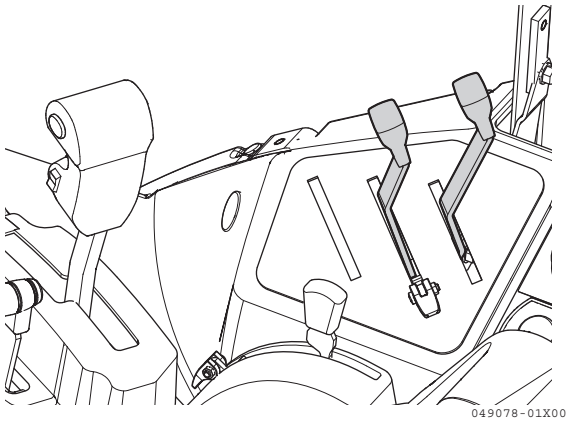
[参考]
作業機上下レバーで作業機を上げた場合は、速度切替スイッチの位置にかかわらず減速しません。

サブコントロールレバー

⚠注意

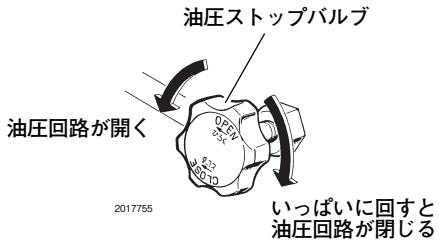
油圧取出口のプラグを外したり、配管の取り付け、取り外しを行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。

作業機側の油圧シリンダの操作を行います。
配管と操作方法については、（86ページ）を参照してください。



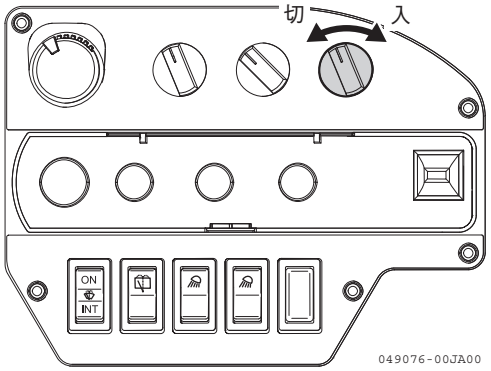
油圧ストップバルブ

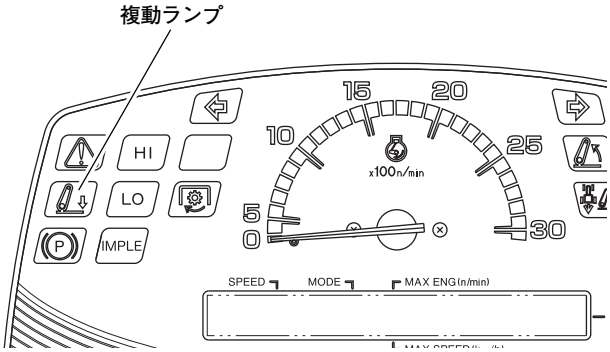
作業機が下降しないように、油圧の流れを固定することができます。
「右」側へいっぱい回す…油圧がストップし、作業機は下がりません。
「左」側へいっぱい回す…作業機の昇降ができます。



複動切替スイッチ

作業機を油圧で下げるときに使用します。

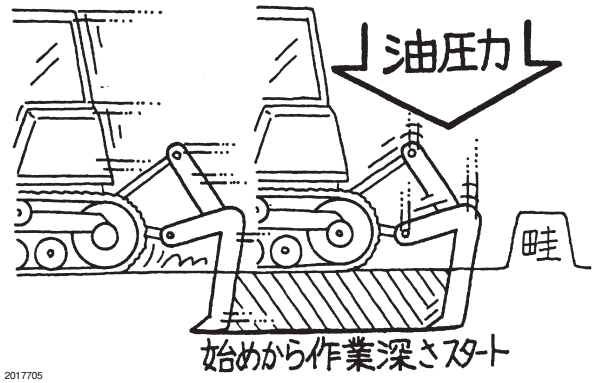




「入」‥‥計器パネルの「複動」ランプが点灯します。
作業機昇降スイッチを「下げ」方向に押している間リフトシリンダが下降側へ作動します。

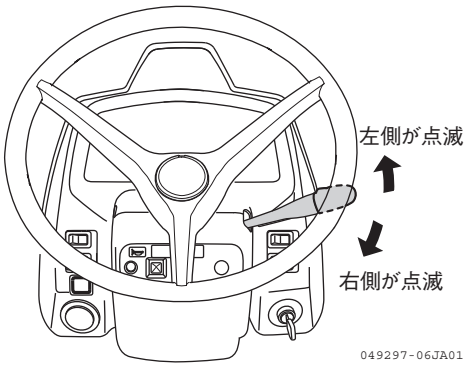
「切」‥‥計器パネルの「複動」ランプが消灯します。
リフトシリンダは作動しません。

複動機能を「入」にすると、プラウ耕、サブソイラ作業などで、作業はじめから設定耕深にすることができます。複動機能を使用しない場合は、複動切替スイッチを「切」位置にしてください。



フラッシャランプスイッチ

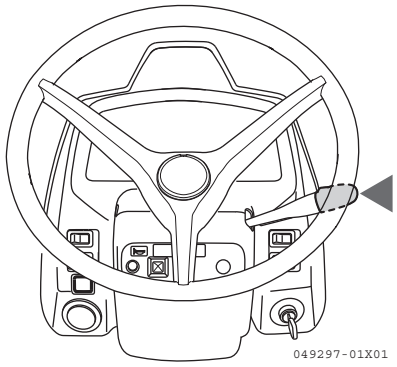
フラッシャランプ（方向指示器）を点滅させるときに使用します。



キースイッチを「ON（入）」位置にします。
フラッシャランプスイッチを手前に引く
‥‥‥右側が点滅
フラッシャランプスイッチを前側に押す
‥‥‥左側が点滅

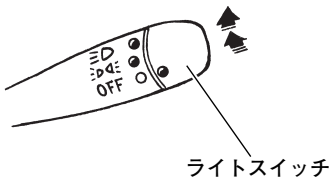
ライトスイッチ

車幅灯、テールランプ、計器パネル、ヘッドランプの点灯・消灯、およびヘッドランプの向きの切り替えに使用します。

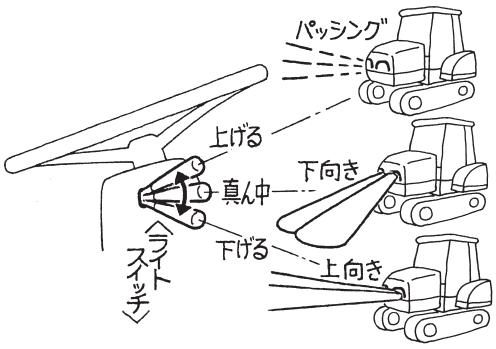


……ヘッドランプ点灯

……車幅灯、テールランプ、計器パネル点灯



2016381

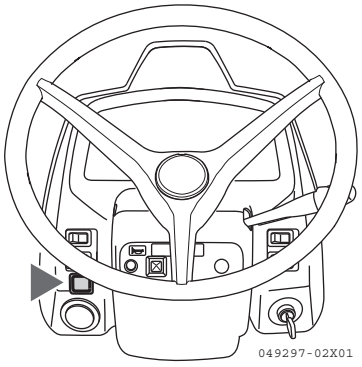


2017720

キースイッチを「ON（入）」位置にします。
ライトスイッチを時計回りに1段回すと車幅灯・テールランプ・計器パネルが点灯し、2段回すとヘッドランプが点灯します。
ヘッドランプが点灯した状態でスイッチを上下すると、「パッシング」「下向き」「上向き」になります。

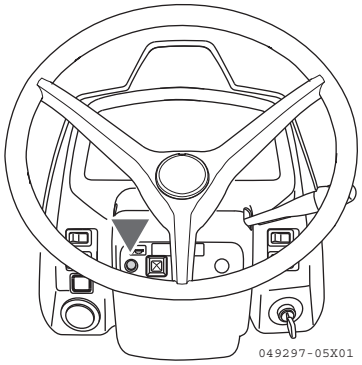
ハザードスイッチ

路上で停止する場合に、事故を防止するために使用します。スイッチを押すと、フラッシャランプが左右とも点滅し、停止中であることを知らせます。スイッチをもう一度押すと消灯します。

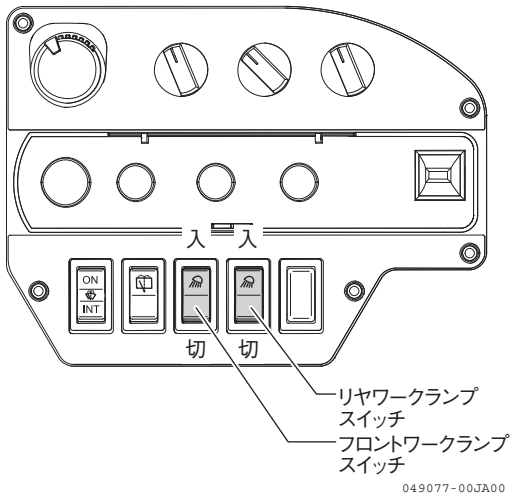


ホーンスイッチ

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。



ワークランプスイッチ



ワークランプ（フロント4灯・リヤ2灯）を点灯できます。

「切」位置……ワークランプ消灯
「入」位置……ワークランプ点灯

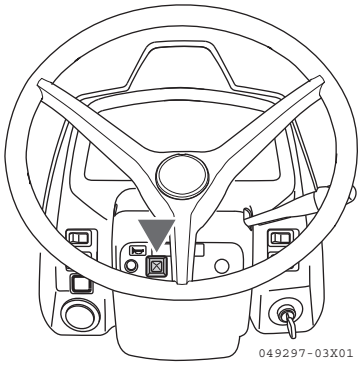
[重要]

ワークランプの取り扱いについて

- **道路運送車両法により、道路走行時のワークランプの点灯は違反になりますので、必ず消灯して走行してください。**
- **エンジン停止状態で、ワークランプを長時間使用すると、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。**

サイドワークランプスイッチ

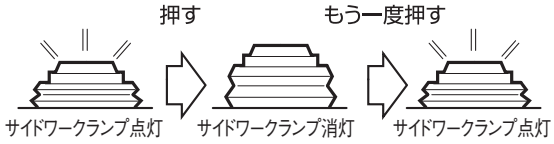
スイッチを押すとサイドワークランプスイッチが点灯し、サイドワークランプが点灯します。スイッチを押すたびに、点灯と消灯を繰り返します。キースイッチ「ON（入）」で使用できます。



[重要]

サイドワークランプの取り扱いについて

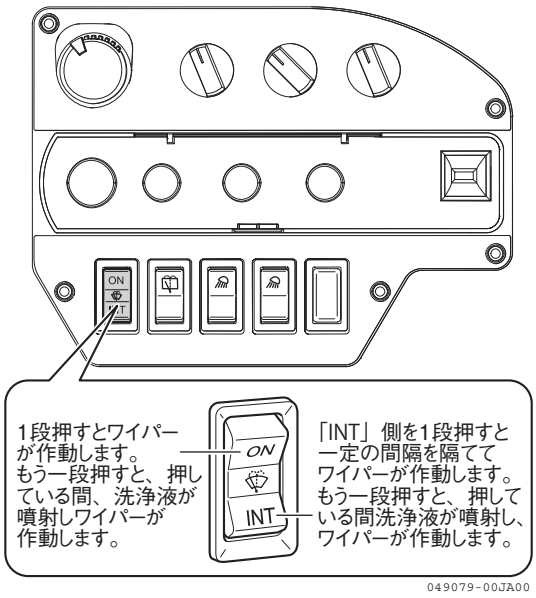
道路運送車両法により、道路走行時のサイドワークランプ点灯は違反になりますので、必ず消灯して走行してください。



※右側のサイドワークランプの取付方向は、マフラーやカバーと干渉しない範囲で調整してください。

フロントワイパー・洗浄液噴射スイッチ

フロントワイパーと洗浄液噴射の「入」「切」に使用します。

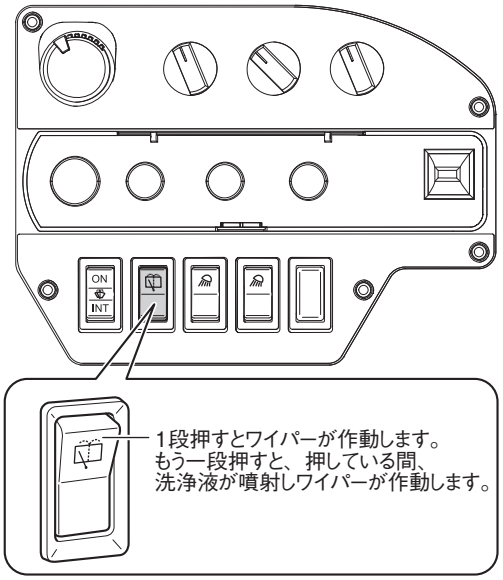


[重要]

- **ワイパーでのからぶきは、ガラス面にキズを付け、ワイパーを傷めます。ガラス面がぬれていないときは、洗浄液を噴射させてください。**
- **洗浄液が出ないときは、洗浄液を噴射しないでください。洗浄液が空のまま作動させるとポンプの故障の原因になります。**
- **寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に貼り付くことがあります。そのまま作動させるとワイパーが破損しますのでガラスを暖めてからご使用ください。**
- **エンジン停止状態で、ワイパーを長時間使用すると、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。**

リヤワイパー･洗浄液噴射スイッチ

リヤワイパーと洗浄液噴射の「入」「切」に使用します。



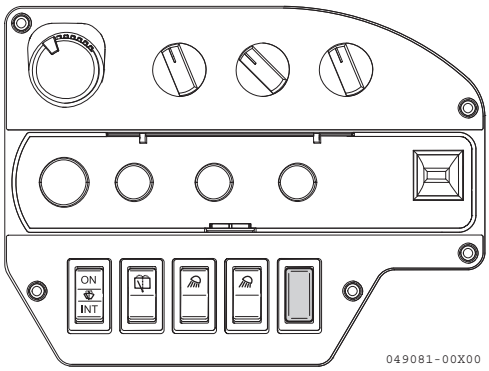
ワイパーを止めるときは、キースイッチが「入」位置の状態でワイパースイッチを「切」位置にしてください。

[重要]

- ワイパーでのからぶきは、ガラス面にキズを付け、ワイパーを傷めます。ガラス面がぬれていないときは、洗浄液を噴射させてください。
- 洗浄液が出ないときは、洗浄液を噴射しないでください。洗浄液が空のまま作動させるとポンプの故障の原因になります。
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に貼り付くことがあります。そのまま作動させるとワイパーが破損しますのでガラスを暖めてからご使用ください。
- エンジン停止状態で、ワイパーを長時間使用すると、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

リヤデフォッガスイッチ（リヤ熱線スイッチ）

リヤガラスにくもりが発生したとき、スイッチを「入」にすると、ガラスのくもりが取れます。
熱線は一定時間通電後、自動的に切れます。
キースイッチ「ON（入）」で使用できます。

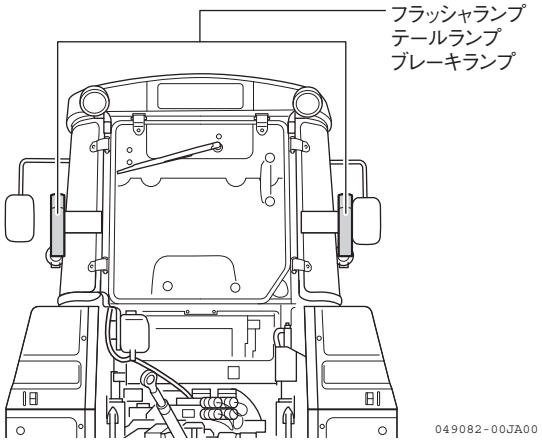


[重要]

- 熱線に荷物または金属などが当たらないようにしてください。ショートするおそれがあります。
- 鋭利な物などで熱線にキズを付けないよう、ご注意ください。
- 通電中はガラスに触れないでください。感電するおそれがあります。

フラッシャランプ

フラッシャスイッチまたはハザードスイッチを作動させたときに点滅します。



テールランプ

テールランプはライトスイッチと連動して点灯します。

ブレーキランプ

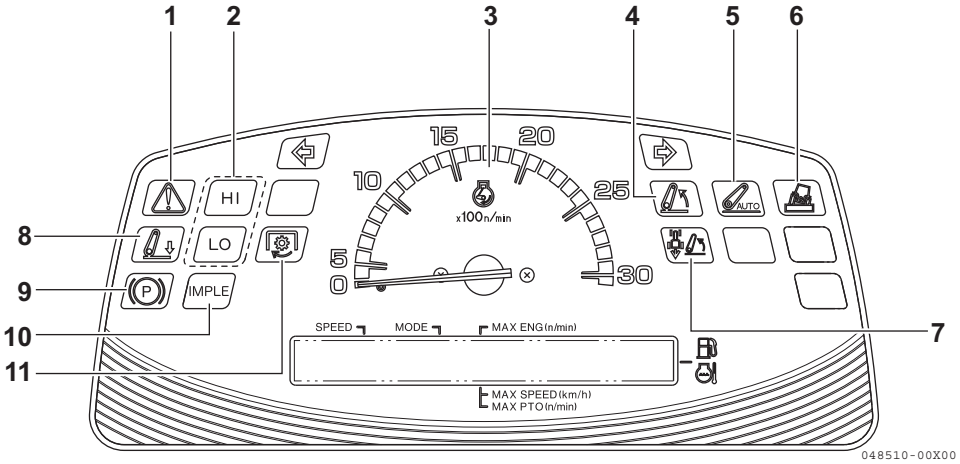
クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込むと点灯します。

※駐車ブレーキをかけると、ブレーキランプは消灯します。

バックランプ(後退灯)

主変速レバーを「後進」位置に入れると、ランプが点灯します。

2. 計器パネル



1. 警告ランプ



「警告」ランプが点滅したときは、何らかの異常が発生しています。
詳しくは、47ページ「警告表示について」を参照してください。

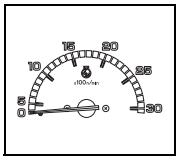
2. 走行速度モードランプ





副変速スイッチを操作すると、いずれかのランプが点灯します。
必ず、ランプが点灯していることを確認して、走行操作（主変速レバー・ハンドル）を行ってください。

3. エンジン回転計



エンジン回転数を指針で示します。

4. リフトランプ



作業機が上がっていることを示すランプです。
作業中にランプが点灯しているときは、作業機上下レバーや作業機昇降スイッチ・バック上昇で作業機が上がっています。
作業機を下げると消えます。

5. 深さランプ



水平自動操作ボックス内の「深さ」スイッチを押すと、「深さ」ランプが点灯します。
点灯中は、「オート」「ドラフト」「負荷」「レーザー」のいずれかの制御がはたらきます。

6. 傾きランプ



水平自動操作ボックス内の「傾き」スイッチを押すと「傾き」ランプが点灯します。
点灯中は、「水平」「傾斜地」のどちらかの制御がはたらきます。

7. バック上昇ランプ



バック上昇スイッチを押すと、ランプが点灯します。
点灯中は、主変速レバーを後進位置にすると、作業機が自動的に上昇します。
ランプが消灯しているときは、作業機は自動で上昇しません。

8. 複動ランプ



複動切替スイッチを「入」位置にすると、ランプが点灯します。
ランプ点灯中は、作業機昇降スイッチを「下げ」方向に押している間、複動機能がはたらきます。

9. 駐車ブレーキランプ



駐車ブレーキレバーを引き上げると、ランプが点灯し、駐車ブレーキがかかっていることを示します。

10. 作業機通信ランプ



トラクターと作業機の制御が連動しているときに点灯します。
詳しくは、作業機の取扱説明書をご覧ください。

[参考]
作業機通信ランプ点灯中は、トラクターの操作が通常と異なる場合があります。

11. PTOランプ

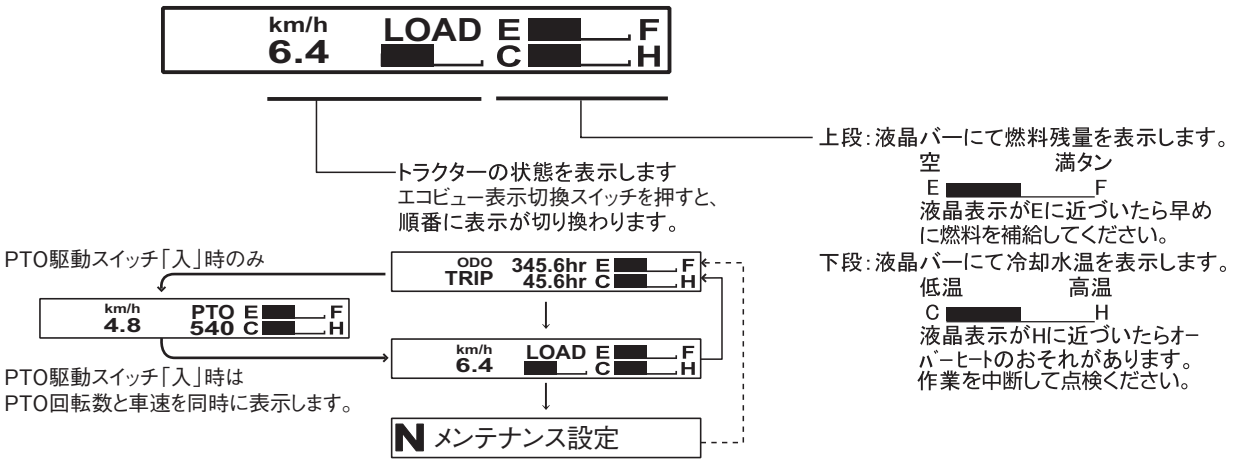


PTO駆動スイッチを「入」位置にすると、ランプが点灯します。点灯中はPTO軸が回転しています。

[参考]
ランプが点灯しているとエンジンは始動できません。PTO駆動スイッチを「切」位置にしてエンジンを始動してください。

3. エコビュー

エコビューは、トラクターの運転に必要な情報や、作業に役立つさまざまな情報を的確に表示することができます。また、誤操作時の正しい操作方法や、警告メッセージ、メンテナンス設定や、万一異常が発生した場合のメッセージを表示しますので、表示に従って正しく取り扱ってください。
なお、メンテナンス設定については、104 ページの「メンテナンスモード」、エラーメッセージについては132 ページの「11章 不調診断のしかた」を参照してください。

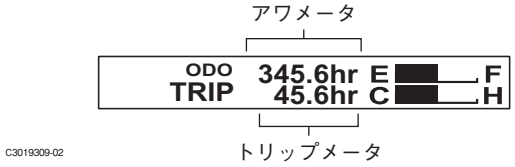


状態表示について

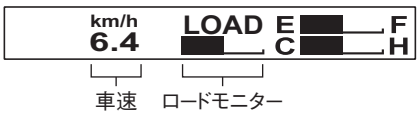
■ アワメータ

「上段」…トラクターの積算使用時間を表示します。
※エンジン運転中の時間をカウントします。最小単位は、0.1時間（6分）です。
※積算使用時間のリセットはできません。

「下段」…時間トリップ計を表示します。
トリップメータ表示中にエコビュー表示切替スイッチを 3 秒以上長押しすることで、000.0時間にリセットできます。



■ 車速/ロードモニター（エンジン負荷率）



● 車速

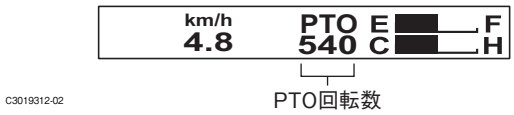
トラクターの走行速度を表示します。
km/h表示が基本ですが、車速が1.0km/h未満になると自動的に、m/h表示に切り替わります。
また、50m/h未満は0m/hと表示されます。

[参考]
けん引作業などでクローラがスリップしているときの車速表示は実際の車速とは異なります。

● ロードモニター

作業回転数における、エンジンの出力状態を示します。最大出力に対する負荷状態を示します。すべて点灯した場合は、その回転数における最大出力の状態であることを示します。エンジンの負荷状態が一目で確認でき、作業が経済的に行えます。

■ PTO回転数



PTO駆動スイッチが「入」になると、自動的にPTO回転数表示に切り替わります。
トラクターの走行車速とPTO回転数を示します。
PTO駆動スイッチを「切」にすると、PTO「入」直前の画面表示へ戻ります。

■ メンテナンス設定

エコビューでエンジンオイル、PTOミッションオイルの交換時間をリセットすることができます。
※詳しくは、104　ページの「メンテナンスモード」を参照してください。

警告表示について

トラクターに異常が発生すると、エコビューに警告が表示されます。
下記のメッセージが表示された場合は、計器パネルの警告ランプ⚠が同時に点滅します。
警告表示中にエコビュー表示切替スイッチを押すと、警告ランプは点滅したままで、直前の表示画面へ戻ります。
異常が回避されれば、警告表示は消え、警告ランプの点滅も消灯します。
警告表示後、処置をしても表示が消えない場合は、お買い上げいただいた販売店､JAへご連絡ください。

〈充電系異常表示〉



バッテリーへの充電が不足しています。
エンジン回転を上げ、充電量を増やすか、作業灯、エアコンなどを消して消費電力を抑えてください。

〈エンジン油圧異常表示〉



エンジン回転中エンジンオイルの圧力が低下しています。(エンジン始動直後、しばらくの間表示される場合がありますが、異常ではありません。)
エンジンを停止して、エンジンオイル量を確認してください。
オイル量が少ない場合は補給してください。(105ページ参照)

〈エアフィルター目詰まり表示〉



エアクリーナエレメントに目詰まりが発生しています。
エアクリーナエレメントの掃除をしてください。
(118ページ参照)

〈オーバーヒート表示〉



P40_4

エンジンの冷却水の温度が非常に高くなっています。作業を中止して、冷却水温を下げるため、エンジンをアイドリング状態にして、表示が消えるまでしばらくエンジンを回してください。その後、エンジンを停止して十分に冷えてから以下の点検をしてください。

- ラジエータ、サブタンクの冷却水量に異常がないか？（水漏れがないか？）
- ラジエータおよびラジエータスクリーンに泥やごみの付着がないか？
- ファンベルトのゆるみがないか？

また、冷却水温計の液晶バーが点滅している場合は、水温センサの異常です。お買い上げいただいた販売店、JAにご連絡ください。

〈燃料温度異常表示〉



C3019349

燃料の温度が高くなっています。
エンジンを停止して、十分に冷えてから以下の点検をしてください。

- 燃料の量が少なくなっていないか？
- 燃料クーラおよび燃料クーラスクリーンに泥やごみの付着がないか？
- ファンベルトのゆるみがないか？

〈通信異常表示〉



p40_98

電気配線が断線・短絡しています。
お買い上げいただいた販売店･JAにご連絡ください。

〈油水分離器（ウォータセパレータ）異常表示〉



p40_97

ウォータセパレータに水がたまっています。
水を抜いてください。

操作メッセージ表示について

各種操作メッセージを表示します。

〈グローヒータ作動表示〉



p40_5a

キー ON またはエンジン始動時にグローヒータが作動すると表示されます。
エンジンが暖まっているときは表示されません。
（グローヒータは外気温が低いときに作動し、エンジンの始動性をよくするためのものです）

〈PTO駆動スイッチ表示〉



p40_6-02

エンジン始動時にPTO駆動スイッチが「入」になっていると表示され、エンジンは始動しません。
PTO駆動スイッチを「切」にしてください。

〈クラッチペダル表示〉



p40_99

エンジン始動時にクラッチペダルを踏んでいないと表示され、エンジンは始動しません。
クラッチペダルを踏みながら、エンジンを始動してください。

〈シートベルト表示〉



P41_1

エンジン始動時に3秒間表示されます。

〈作業機上下レバー指示表示〉

作業機上下レバー上げて解除

p41_2

エンジン始動時に作業機上下レバーでの昇降位置と実際の油圧リフトの昇降位置が異なる場合に表示されます。また、計器パネルのリフトランプも同時に点灯します。
作業時上下レバーで上げ操作してください。表示が解除されます。

燃料給油表示について

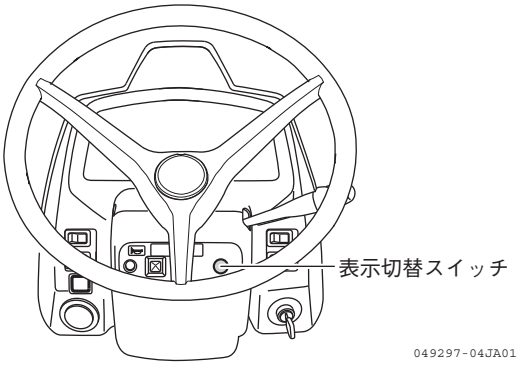
〈燃料給油表示〉

燃 料 を 給 油

P40_1

燃料の残量が少なくなると表示されます。すぐに燃料を給油してください。
表示中にエコビュー表示切替スイッチを押すと、直前の画面へ戻ります。

[参考]
燃料の残量確認は、平たんな場所で行ってください。



メンテナンス表示について

〈エンジンオイル交換表示〉

エンジンオイル交換

P41_4

エンジンオイル交換時期（交換までの時間が0時間）になると、5秒間表示されます。5秒間の間にエコビュー表示切替スイッチを押すと、通常表示に戻ります。
その後、1回目・2回目のキー ON時に上記表示になります。
エンジンオイル交換後、上記表示中にエコビュー表示切替スイッチを3秒以上長押しすると、時間計測がリセットされます。

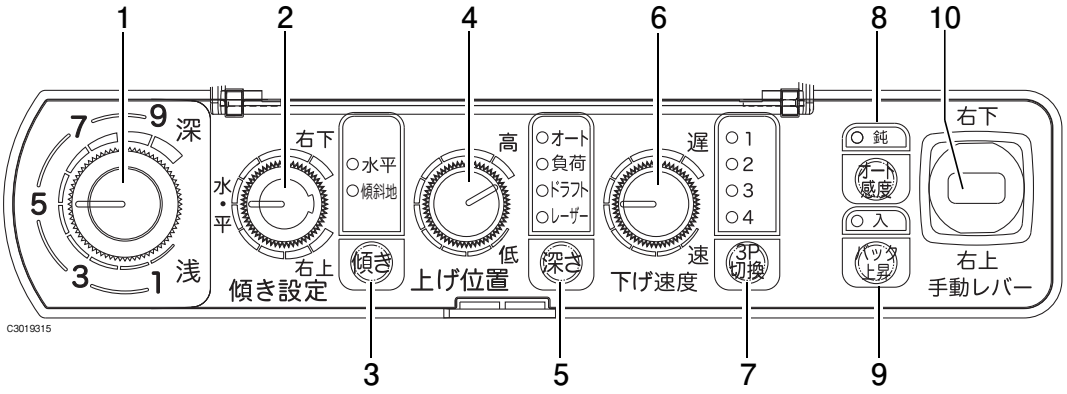
〈ミッションオイル交換表示〉

ミッションオイル交換

P41_5

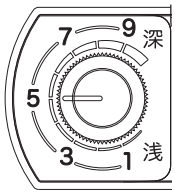
PTOミッションオイル交換時期（交換までの時間が0時間）になると、5秒間表示されます。5秒間の間にエコビュー表示切替スイッチを押すと、通常表示に戻ります。
その後、1回目・2回目のキー ON時に上記表示になります。
PTO ミッションオイル交換後、上記表示中にエコビュー表示切替スイッチを3秒以上長押しすると、計測時間がリセットされます。

4. 水平自動制御の操作部



1. 深さ設定ダイヤル
2. 傾き設定ダイヤル
3. 傾きスイッチ（水平自動モード切替）
4. 上げ位置ダイヤル
5. 深さスイッチ
6. 下げ速度ダイヤル
7. 3P切換スイッチ
8. オートロータリー感度切替スイッチ
9. バック上昇スイッチ
10. 傾き手動レバー

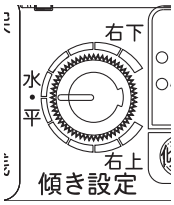
1. 深さ設定ダイヤル



深さを自動に設定（パネルの「深さ」ランプが点灯）しているとき、作業機の耕深を任意に設定できます。

- **深さモードを「オート」に設定したとき**
  オートロータリー制御中のロータリー耕うん深さを調節します。
- **深さモードを「負荷」に設定したとき**
  負荷制御中にロータリーの耕うん深さを調節します。
- **深さモードを「ドラフト」に設定したとき**
  ドラフト制御中のドラフト感度（耕深）を調節します。

2. 傾き設定ダイヤル

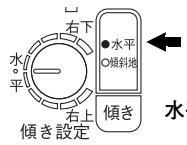
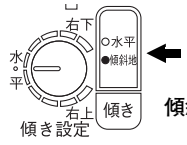
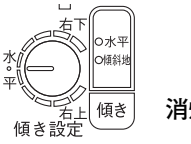


傾きを自動に設定（パネルの「傾き」ランプが点灯）しているとき、作業機の傾きを任意に設定できます。

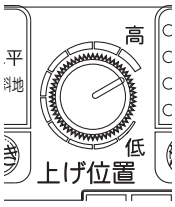


3. 傾きスイッチ(水平自動モード切換)

傾き制御機能（水平自動制御機能）の設定・解除の切り替えに使用します。
傾きスイッチを押すと、計器パネルの「傾き」ランプと操作ボックスの「水平」ランプが点灯し、スイッチを押すごとに、「水平」→「傾斜地」→「解除」の順にランプの点灯が切り替わります。

モード選択	
水平自動操作ボックスのランプ	計器パネルのランプ
 水平点灯	
 傾斜地点灯	
 消灯	

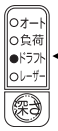
4. 上げ位置ダイヤル



作業機昇降スイッチ、バック上昇、および作業機上下レバーで作業機を上げたときの最上げ位置を設定します。

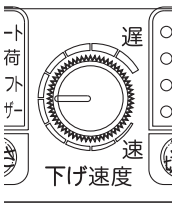
5. 深さスイッチ

オート、負荷制御、ドラフト、レーザー制御機能の設定・解除の切り替えに使用します。
深さスイッチを押すと、計器パネルの「深さ」ランプと操作ボックスの「オート」ランプが点灯し、スイッチを押すごとに、「オート」→「負荷」→「オート・負荷」→「ドラフト」→「レーザー」の順にランプの点灯が切り替わります。

モード選択	
水平自動操作ボックスのランプ	計器パネルのランプ
 オート点灯	
 負荷点灯	
 オート点灯 負荷点灯	
 ドラフト点灯	
 レーザー点灯	
 消灯（解除）	

[参考]
「レーザー」はレーザー機器が接続されている場合のみ選択できます。

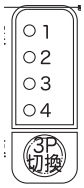
6. 下げ速度ダイヤル



作業機昇降スイッチまたは、作業機上下レバーで、下げ操作したときの作業機の下げ速度を調節します。

「速」側に回す……作業機の下げ速度が速くなります。
「遅」側に回す……作業機の下げ速度が遅くなります。

7. 3P切換スイッチ



作業機を付けかえたとき、その作業機によって定まる3点リンクの取り付け状態に応じて4段階に切り換えます。（89ページ参照）

8. オートロータリー感度切替スイッチ



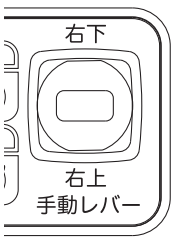
オートロータリーの感度を2段階に切り替えることができます。通常は、「標準感度」に設定されています。感度を落としたいときは、スイッチを押して「鈍感」（ランプ点灯）に設定します。もう一度スイッチを押すと、「標準感度」（ランプ消灯）に戻ります。

9. バック上昇スイッチ



バック上昇機能の「入」「切」に使用します。バック上昇スイッチを押して「入」（ランプ点灯）にし、主変速レバーを後進位置にすると、作業機が自動的に上昇します。再度バック上昇スイッチを押して「切」（ランプ消灯）にすると、バック上昇機能ははたらきません。

10. 傾き手動レバー



●「傾き手動」で使用する場合

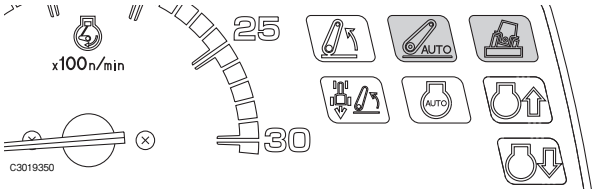
トラクターに対する作業機の角度を任意で設定できます。

●「傾き自動」で使用する場合

手動レバーを操作している間だけ作業機の角度が変わります。レバーから手を離すと作業機は傾き設定ダイヤルで設定された角度に戻ります。

センサ異常時の表示について

センサに異常が発生した場合は、パネルの下記表示ランプのうちのいずれかが点滅します。点滅した場合は、正常な作業が行えなくなりますので、お買い上げいただいた販売店、JAまでご連絡ください。



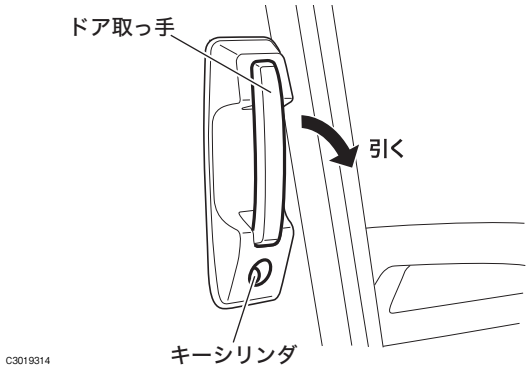
5. キャビンについて

⚠注意

ガラスの取り扱いはていねいに行ってください。守らないと、ガラスが割れるなどして、傷害事故の原因になります。

ドア取っ手

車外からドアを開けるときに使用します。
ドア取っ手を引くとロックが解除され、ドアが開けられます。



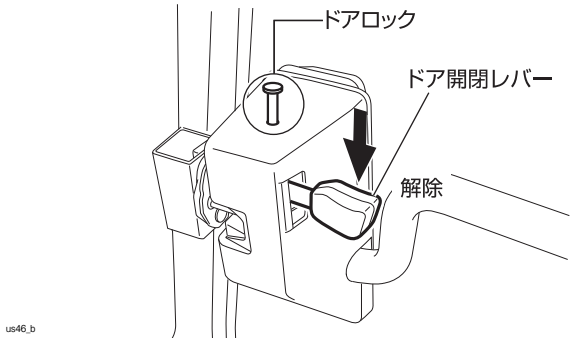
キーをドア取っ手の下にあるキーシリンダに差し込み、キーを時計回りに回すと施錠、反時計回りに回すと解錠できます。

※ ドア取っ手にぶらさがるなど無理に力を加えないでください。

※ キーシリンダ部に直接水をかけると、室内に水が浸入する場合があります。洗車時には注意してください。

ドア開閉レバー

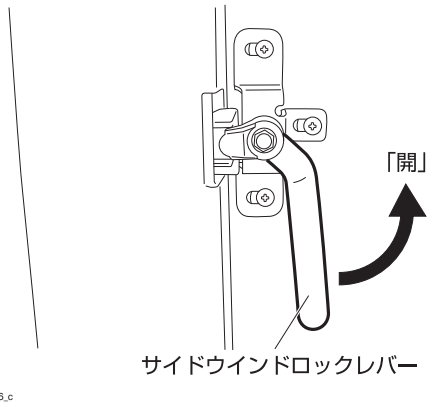
車内からドアを開けるときに使用します。
ドア開閉レバーを下方向に押すとロックが解除され、ドアが開けられます。

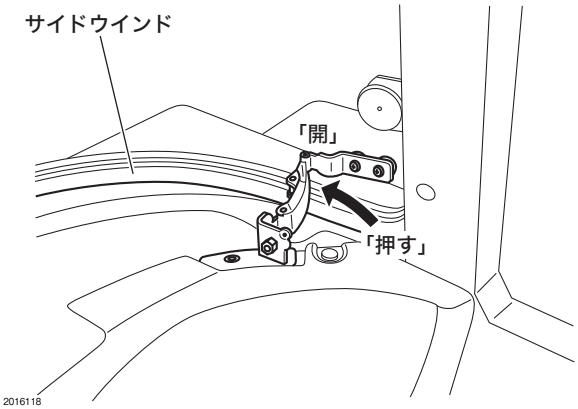


ドアロックを押し下げると施錠、引き上げると解錠ができます。

サイドウインドロックレバー

サイドウインドロックレバーを「開」側に回して、サイドウインドを外側に押すと開きます。





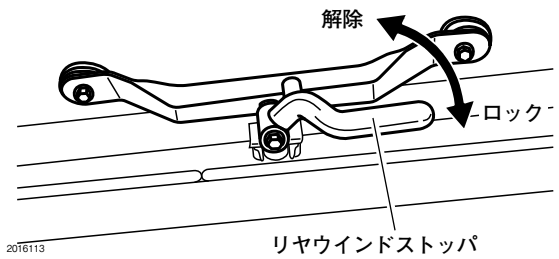
閉めるときは、逆の手順で閉めます。

[重要]

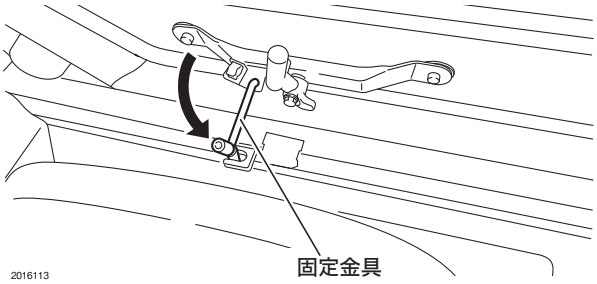
道路走行時は、サイドウインドは必ず締めてください。開けたままで走行すると、車・人・電柱などに引っかけて事故を起こすおそれがあります。

リヤウインドストッパ

リヤウインドの開閉に使用します。
リヤウインドストッパを「解除」側に回して、リヤウインドを上に押し上げると開きます。



リヤウインドを少し開けた状態で固定したいときは、リヤウインドの固定金具を使用してください。

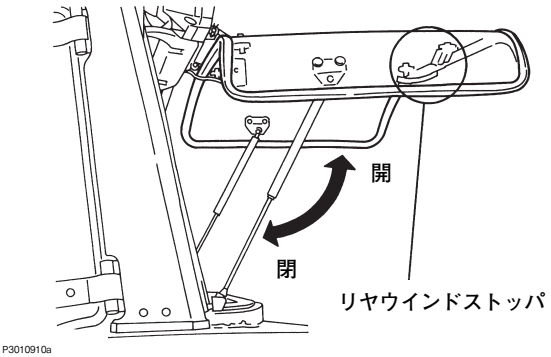


⚠注意

キャビン後部と背もたれの間に手や腕を置かないでください。背もたれと、リヤウインドストッパにはさまれケガをするおそれがあります。

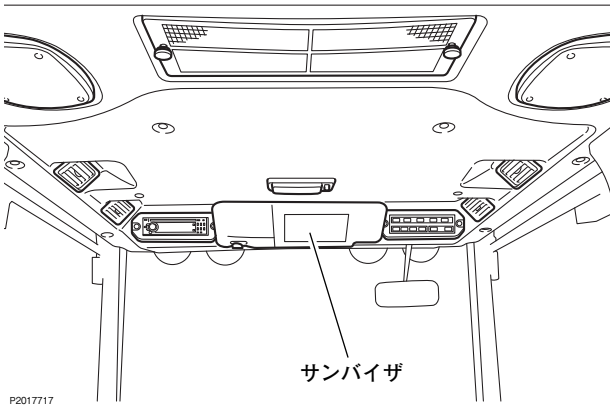
[重要]

- **上げ高さダイヤルの設定が最低位置でも、作業機を最上げにすると、リヤウインドを開けることができない場合や、リヤウインドを開けると作業機と干渉する場合があります。(ブロードキャスターなどの肥料散布機や、畦塗機、ロールベーラなど) このような作業機をご使用の場合は、リヤウインドは閉じたままにしてください。**
- **作業終了後、トラクターを離れるときは、必ずリヤウインドを閉めてください。雨水などにより、キャビン内がぬれると、故障の原因になります。**
- **リヤウインドを開けたまま、高速走行や悪路走行をしないでください。**



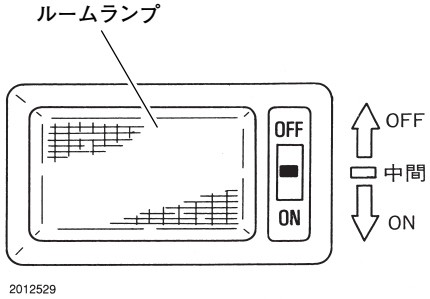
サンバイザ

直射日光を遮るときに使用します。



ルームランプ

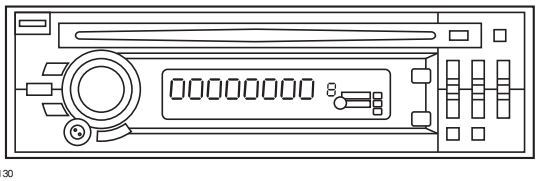
スイッチでルームランプの点灯・消灯ができます。



ON…… ルームランプが点灯します。
中間…… ドアを開けたときにルームランプが点灯します。
OFF…… ルームランプが消灯します。

FM･AMラジオ付CDプレーヤー

FM・AMラジオ、CDを聞くことができます。



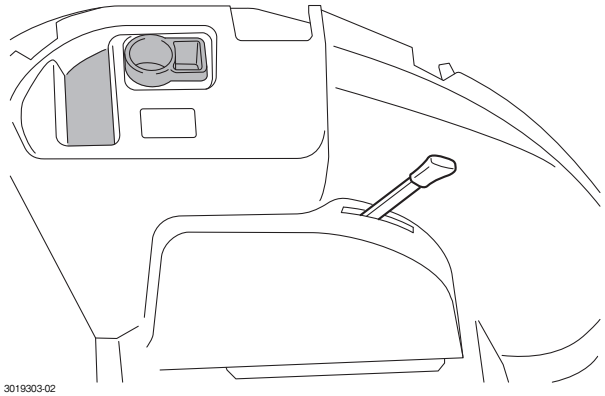
詳しい操作方法は、FM･AMラジオ付CDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。

カップホルダー

缶ジュースやペットボトルなどを置くことができます。

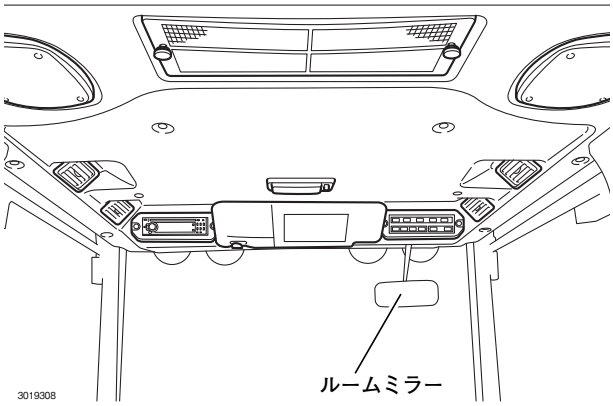
小物入れ

小物類を入れることができます。



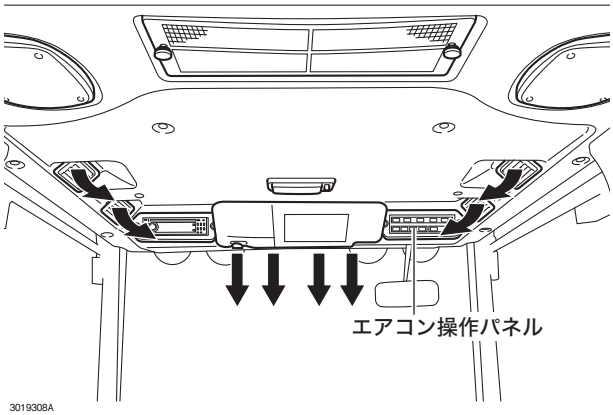
ルームミラー

後方の確認ができます。



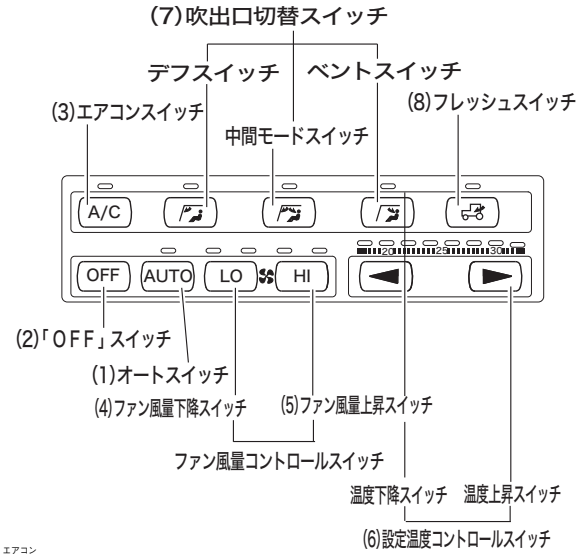
6. エアコンの使いかた

吹き出し口と操作部



[参考]

冷房時まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものです。



1. オートスイッチ

AUTO

スイッチを押すと、ファン風量と吹出温度を自動制御します。また、エアコンスイッチは自動的に「ON」となり、オートスイッチ、エアコンスイッチのランプが点灯します。このとき、ファンコントロールスイッチのすべてのランプが消灯します。

2.「OFF」スイッチ



スイッチを押すと、ファン、エアコンが「OFF」になります。

3. エアコンスイッチ



スイッチを一度押すごとにエアコンの「ON」「OFF」が切り替わります。

4. ファン風量下降スイッチ



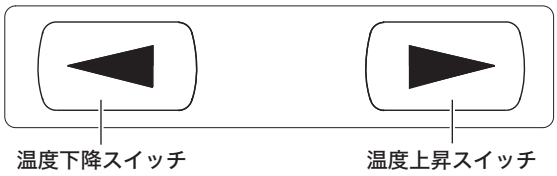
オートスイッチが「ON」の状態で、ファン風量下降スイッチを1回押すごとに、風量が一段ずつ下降します。

5. ファン風量上昇スイッチ



オートスイッチが「ON」の状態で、ファン風量上昇スイッチを1回押すごとに、風量が一段ずつ上昇します。

6. 設定温度コントロールスイッチ



温度上昇、温度下降スイッチを押すと、設定温度が上昇、下降します。

- 1回押すと、設定温度が1℃上昇、下降します。
- 押し続けると、0.3秒ごとに設定温度が1℃ずつ上昇、下降します。
- 設定温度の両端（20℃未満、30℃を超える）で最大冷房、最大暖房状態を固定します。

7. 吹出口切替スイッチ

つぎの3つのスイッチを押すと、温風、冷風の吹出口を切り替えることができます。



デフスイッチ
フロントガラスに向かって吹き出します。（ガラスのくもりや、凍結時に使用します。）

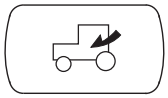


ベントスイッチ
左右両側の吹出口よりオペレータ側に吹き出します。



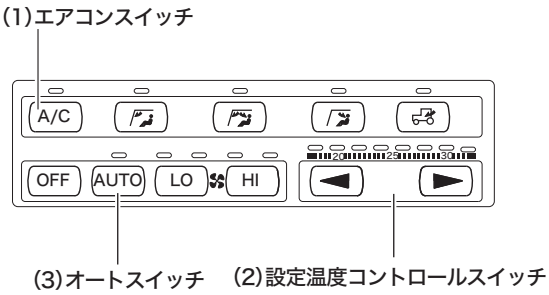
中間モードスイッチ
両吹出口から吹き出します。

8. フレッシュスイッチ（外気導入スイッチ）



フレッシュスイッチを一度押すごとに、空気の取り入れ口を内気循環側と外気取り入れ側に切り替えます。外気取り入れ側のときには、緑色のランプが点灯します。

冷暖房のしかた



1. エアコンスイッチを「ON」にします。
2. 設定温度コンロールスイッチで希望の温度に設定します。
3. ファン風量と吹出温度をオート制御にしたいときには、オートスイッチを「ON」にします。

※キャビン内の温度が低いとき（約15℃以下）は、エアコンスイッチを「ON」にしてもコンプレッサが作動せず、除湿できない場合があります。

エアコンを上手に使うには

- エアコン使用時にタバコを吸うと目が痛くなることがあります。このようなときは、「フレッシュスイッチ」を押して、空気の取り入れ口を外気取り入れ側に切り替えてください。
- 湿度の高いときは、窓ガラスがくもりやすくなります。空気の取り入れ口を外気取り入れ側に切り替えて、エアコンを作動させてください。
- 外気の湿度が高いとき場合、吹出口から霧が吹き出すことがあります。これは湿った空気がエアコンユニットを通過するとき、水粒子が凍って吹き出されるものです。異常ではありません。

[重要]

エアコンスイッチはコンプレッサなどに無理な力をかけないため、エンジン始動後に「ON」するようにしてください。

- **炎天下の放置状態からエアコンを使う場合は、一度ドア、窓を開け、室内空気を入れかえてから使用してください。**
- **長時間使用しないときも、エアコン内の冷媒ガスは規定量を入れてください。**
- **2～3週間ごとに1、2回、数分程度エアコンを作動させてください。コンプレッサやエアコン部品の油切れによるトラブルを防止できます。**
- **エアコンスイッチが「ON」の状態で冷暖房がきかない場合は、いったんエアコンスイッチを「OFF」にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた販売店または、JAで点検を受けてください。**

⚠危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
  燃料に引火して、火災のおそれがあります。

⚠警告

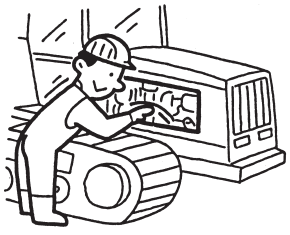
- 点検をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所にトラクターを駐車させ、エンジンを停止して駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- 運転・作業前の点検をするときは、点検者以外の人（特に子供）を近づけないでください。
- 運転・作業前の点検時に、エンジンを始動する場合は、閉めきった室内で行わないでください。
- 作業機の下に入るときは、油圧ストップバルブをいっぱいに締め込んで油圧をストップさせてください。守らないと、何らかの原因で作業機が急に下がったときに、傷害事故を起こすおそれがあります。

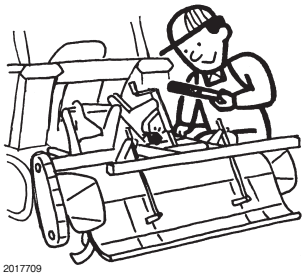
⚠注意

- トラクターの点検・整備などで外したカバー類は、元通りに取り付けてください。外した状態で運転すると、機械に巻き込まれるおそれがあります。
- トラクターは常に掃除しておいてください。バッテリー、配線、マフラー、エンジンの周辺部に、ごみや燃料の付着があると火災の原因になります。
- 点検整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 燃料パイプが破損していると、燃料漏れを起こしますので、必ず点検してください。

1. 運転前の点検

運転・作業を行う前の点検は、つぎの順序で行ってください。

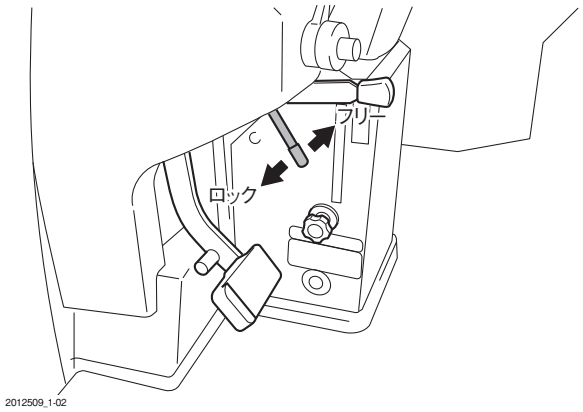
点検順序	点検個所	参照ページ
前日の異常個所  2011413C	前日の異常個所 ●前日の作業中に異常を感じたところはありませんか。	
本機の周りを回ってみて  2011413D	●各部の変形・損傷・汚れはありませんか ●クローラの張り、摩耗度合いの確認、クローラの損傷はありませんか ●車体各部の損傷、ボルトのゆるみはありませんか ●燃料の量の確認、燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか ●各ミッションオイルの量は正常ですか、汚れ・油漏れはありませんか ●作動油の量は正常ですか、汚れ・油漏れはありませんか	 124 103・121 107・108 108

点検順序	点検個所	参照ページ
ボンネットを開けてみて  2010556	●エンジンオイルの量は正常ですか、汚れ・油漏れはありませんか	105
	●冷却水の量は正常ですか、水漏れ、ホースの損傷はありませんか	116・100
	●エアクリーナは汚れていませんか	118
	●冷却ファンベルトの張りは正常ですか、損傷はありませんか	128
	●コンプレッサ駆動ベルトの張りは正常ですか、損傷はありませんか	127
	●ラジエータグリルやエンジンルーム内にホコリやごみはありませんか	
	●配線コードの被覆のはがれや接続部（カプラー）のゆるみはありませんか	122
	●ラジエータスクリーン、コンデンサスクリーンは汚れていませんか	
作業機側へ回ってみて  2017709	●ドライブシャフトロックピンのPTO軸への挿入状態は適正ですか	
	●各部のRピンの差し込み状態は適正ですか	
	詳しくは、作業機の取扱説明書をご覧ください。	
運転席に座ってみて  2017756	●クラッチ（ブレーキ）ペダルの作動具合は適正ですか	126
	●ハンドルの操作は正常にできますか	126
	●駐車ブレーキの作動具合は適正ですか	126
	●主変速レバーを前進側・後進側に操作して、 引っかかりはありませんか	126
エンジンを始動してみて  2015457	●エンジン始動後の異音はありませんか	
	●排気ガスは、正常な色をしていますか	131
	●ランプ・メータ類の作動は正常ですか	44

2. 運転席周りの調節

チルトハンドル操作レバー

ハンドル角度を操作しやすい位置に変更できます。

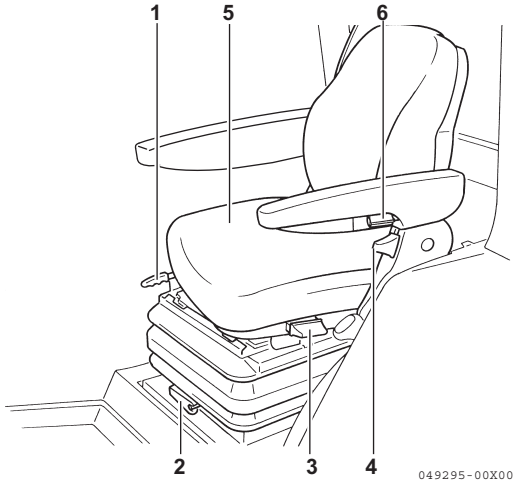


チルトハンドル操作レバーを「フリー」位置にしてハンドルを前後方向に移動します。
操作しやすい位置で、ロックレバーを「ロック」位置にすると、ハンドルは固定されます。

[重要]
調整後は､ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

運転席(ドライバシート)

ハンドルやレバー類・ペダルなどが楽に操作できる位置にシートを調節できます。



1. シート前後調節レバー
シートを15段階（150㎜）前後に調節できます。

2. 体重調節ハンドル
運転者の体重に合わせてシートのクッション調節ができます。

3. スイベル調節レバー
シート位置を左右に各10度回転できます。

4. リクライニング調節レバー
レバーを持ち上げると、背もたれ角度を調節できます。

⚠注意
背もたれを後方に倒すときは､リヤウインドおよびリヤウインドストッパに注意してください。

5. シート高さ調節
シートを持ち上げると、3段階の高さ調節ができます。
シートを下げるときは、シートをいったん最上げ位置にします。

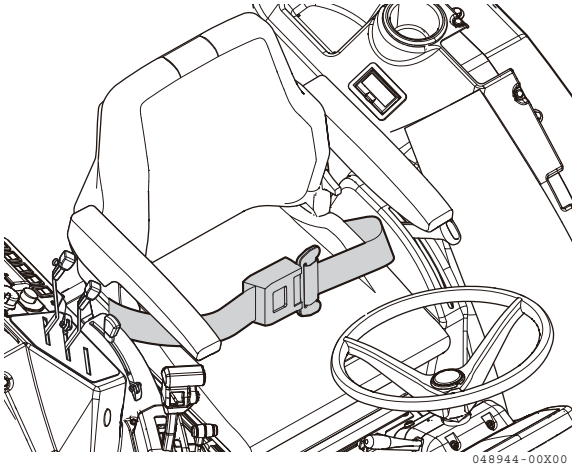
6. アームレスト調節グリップ
調節グリップを回すと、上下に40度の角度で調節できます。

3. シートベルトの装着

⚠警告

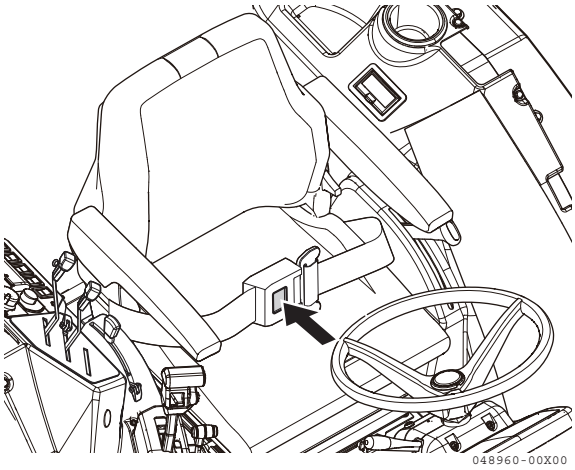
トラクターを運転するときは、必ずシートベルトを着用してください。
守らないと、転落、転倒事故のとき死亡または重傷のおそれがあります。

シートベルト装着のしかた



運転席に座って、シートベルトを腰骨にかかる位置に、ねじれないように装着します。作業者の身体に合わせてベルトの長さを調節します。

シートベルトの外しかた



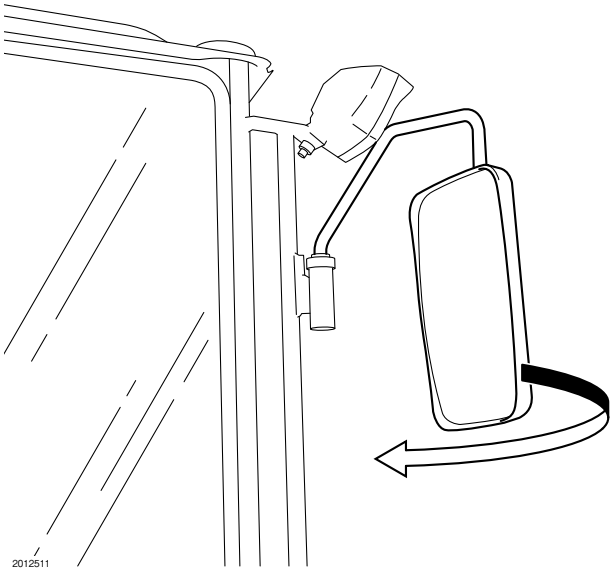
バックルの「PRESS」ボタンを押します。ベルトが外れます。

4. サイドミラーの調節

⚠注意

サイドミラーの調節は、必ずトラクターが停止した状態で行ってください。走行中に調節をすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

運転席に座って、トラクター後方がよく見える位置に左右のサイドミラーを調節します。サイドミラーは手で動かして調節できます。



1. ならし運転(最初の50時間)について

新車は、最初の50時間目までの取り扱いが寿命や性能に大きく影響します。この期間中は、特につぎのことを厳守してください。

- 急発進、急ブレーキは慎んでください。
- 必要以上の速度や負荷をかけないでください。
- 運転は、エンジンが十分に暖まってから行ってください。
- 悪路や傾斜地では、速度を落として、ゆっくり走行してください。
- 最初の50時間目には、101 ページの「定期点検・整備一覧表」に従って、各部の点検やオイル交換をしてください。

2. エンジンの始動・停止のしかた

⚠警告

- エンジンを始動するときは、必ず運転席に座り、周囲の安全を確認して、PTO 駆動スイッチが「切」、各変速レバー（主変速・PTO変速）が「N」（中立）位置にあるか、また駐車ブレーキがかかっているか確認してください。トラクターが突然動き出し、転落や追突事故を起こすおそれがあります。
- トラクターから離れるときには、平たんで安定した場所に置き、主変速レバーを「N」（中立）位置にし、必ず駐車ブレーキをかけ、作業機を接地させてエンジンを止め、キーを抜いてください。また、クローラに歯止めをかけてください。守らないと、トラクターが動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- つぎのようなことを行う場合、安全のため、PTO 駆動スイッチを「切」、各変速レバー（主変速、PTO 変速）を「N」（中立）位置にして、駐車ブレーキをかけてください。
  ・暖機運転するとき
  ・作業機の取り付け・取り外しを行うとき
  ・トラクターから離れるとき
- 閉めきった室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

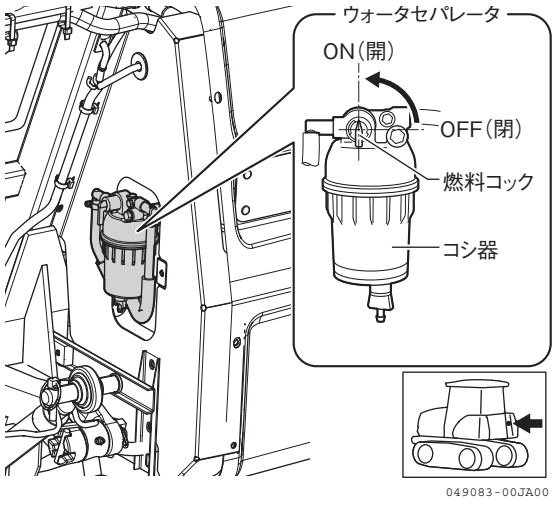
- 作業機上下レバーが「下」位置、深さダイヤルが「深」位置になっていないときや、リフトランプが点灯しているときは、エンジンを始動しないでください。作業機が急に上がり、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 機械を使う前と後には、必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ（ブレーキ）ペダル・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと、傷害事故を起こしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。
- 暖機運転中は駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因でトラクターが走りだし、事故を起こすおそれがあります。
- 本機は油圧走行駆動（HST）のため、暖機運転をしてください。守らないと、油圧系統の性能が十分に発揮できない、走行制御ができなくなり、事故をまねくおそれがあります。エンジン回転1500rpm程度で暖機運転をしてください

始動のしかた

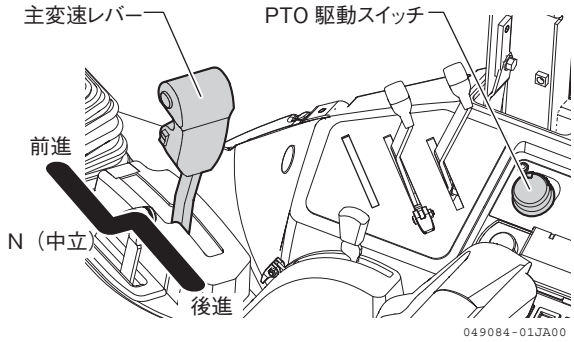
[重要]

- セルモータは、大電流を消費します。10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
  （10秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを切り、1分以上休止してから、手順7.の操作を繰り返してください。）
- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「START」（始動）位置にしないでください。
- クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込み、PTO駆動スイッチを「切」位置、主変速レバーを「N」（中立）位置にしないと安全スイッチがはたらき、エンジンは始動できません。

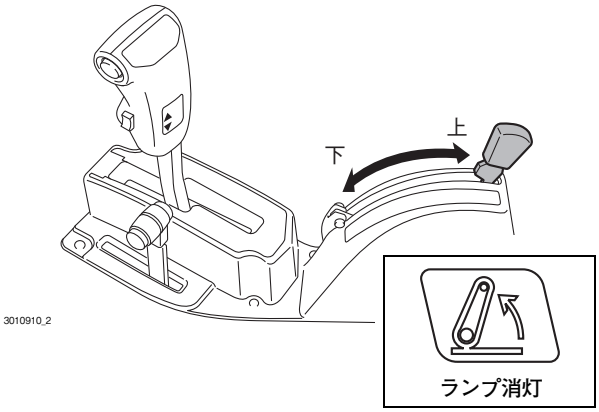
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. ウォータセパレータの燃料コックを「ON」（開）にします。



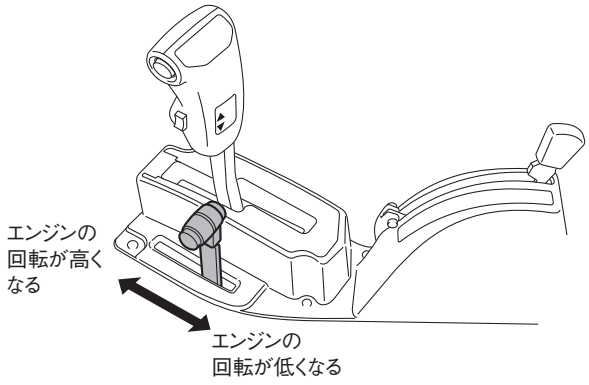
3. PTO駆動スイッチを「切」位置、主変速レバーを「N」（中立）位置にします。



4. 作業機上下レバーを「下」位置にします。キースイッチを「入」位置にして、計器パネルのリフトランプが消えて作業機が降りていることを確認します。



5. アクセルレバーをエンジンの回転が低くなる位置（アイドリング位置）側にします。

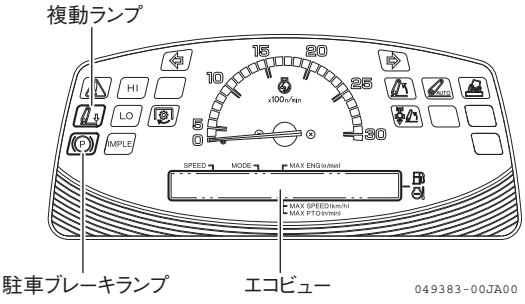


6. キーをキースイッチに差し込み、「ON」（入）位置にします。



[参考]

キースイッチを「ON（入）」位置にしたとき、計器パネルの「複動ランプ」、「駐車ブレーキランプ」以外のすべてのランプが点灯し、2秒後に消灯します。



[重要]

リフトランプが点灯したままの場合は、作業機昇降スイッチを「下げ」側に操作してください。作業機が降下してランプは消灯します。

リフトランプが点灯したままでエンジンを始動すると、作業機が急上昇し事故を起こすおそれがあります。

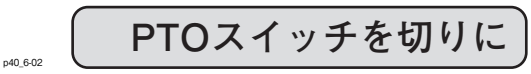
エコビューの表示

〈グローヒータ作動表示〉



エンジンが暖まっているときは表示されません。

〈PTO駆動スイッチ表示〉



エンジン始動時にPTO駆動スイッチが「入」になっていると表示され、エンジンは始動しません。
PTO駆動スイッチを「切」にしてください。

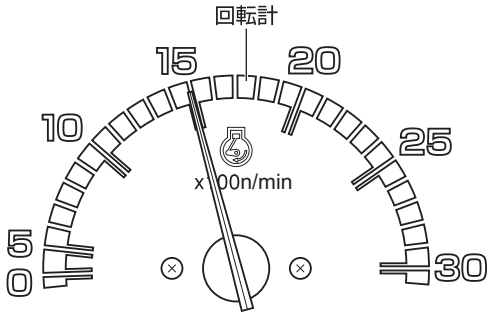
〈クラッチペダル表示〉



エンジン始動時にクラッチペダルを踏んでいないと表示され、エンジンは始動しません。
クラッチペダルを踏みながら、エンジンを始動してください。

7. クラッチ（ブレーキ）ペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「START」（始動）位置にします。セルモータが回り、エンジンが始動します。
8. エンジンが始動したら、キースイッチから手を離します。
   自動的に「ON」（入）位置に戻ります。
9. アクセルレバーで回転計の針を 1500n/min 程度に合わせて、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行います。

エンジン回転計



※ 寒冷時は、暖機運転中しばらくの間は、エンジン回転数が自動的に高くなります。

[重要]

- **寒冷時は、暖機運転をしないと満足する性能が得られないことがあります。つぎの表をめやすに、暖機運転を長めにしてください。**

気　温	暖機運転時間
0℃ ～ −10℃	10分以上
−10℃ ～ −20℃	20分以上
−20℃以下	30分以上

- **暖機運転終了後でも、走行するときは副変速1速で10～15分走行した後で、副変速2速を使用してください。**

[参考]

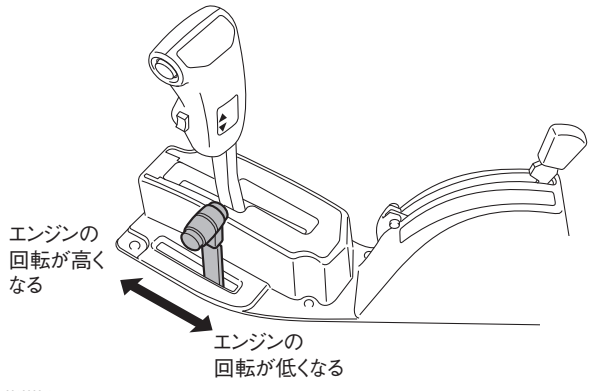
寒冷時には、始動性をよくするため、アクセルレバーを「遅い」側にしていても自動的に回転数が上がることがありますが、（約1400n/min）異常ではありません。しばらくすると設定回転に戻ります。

停止のしかた

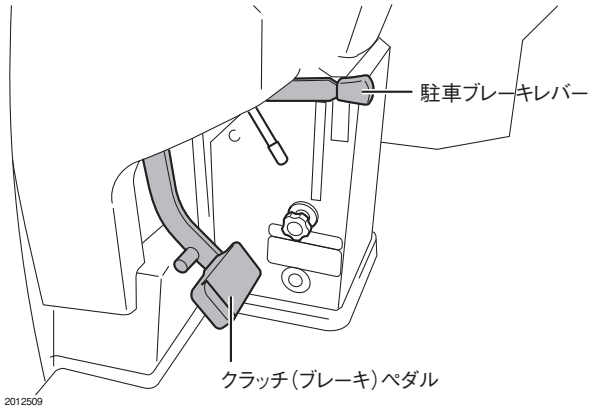
⚠注意

走行中、クラッチ（ブレーキ）ペダルによる急停止はしないでください。守らないと、事故や転倒のおそれがあります。

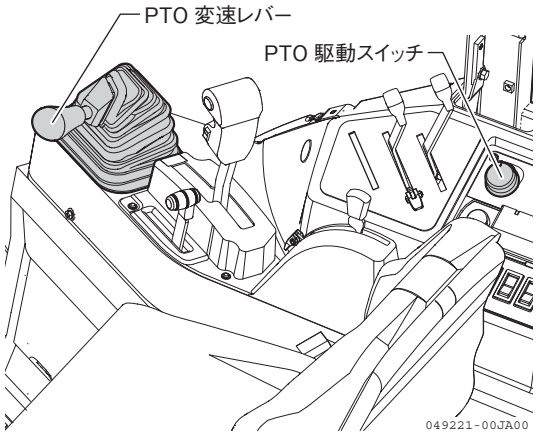
1. 主変速レバーを「N」（中立）位置にして、トラクターが止まったことを確認します。
2. アクセルレバーをいっぱいまで「🐢遅い」側にします。エンジン回転が下がります。



3. クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込んで、駐車ブレーキレバーを引き上げ、ロック位置にします。



4. PTO駆動スイッチを「切」位置、PTO変速レバーを「N」（中立）位置にします。



5. キースイッチを「OFF」（切）位置にします。エンジンが停止します。

⚠注意

トラクターを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。

[参考]

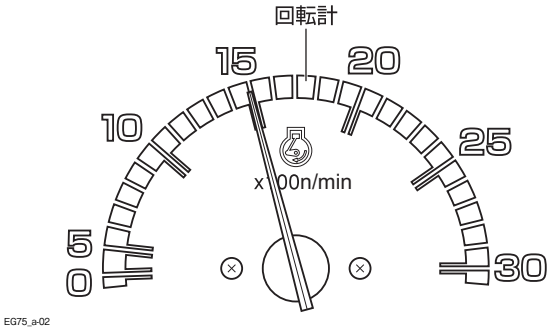
「ACC」位置にしたまま長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。

3. 発進・走行のしかた

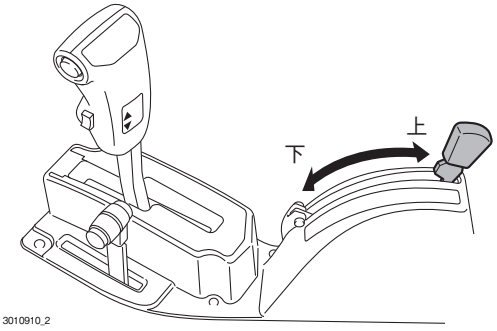
⚠警告

発進は、ゆっくり行ってください。急発進すると、傷害事故を起こすおそれがあります。

1. 回転計の針が1500n/min程度を指すように、アクセルレバーで調節します。



2. 作業機上下レバーを「上」方向に操作して、作業機を最上げ位置にします。



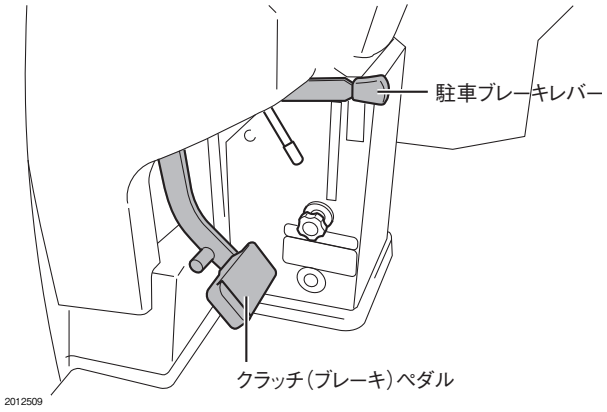
3. クラッチ（ブレーキ）ペダルをいっぱい踏み込み、副変速レバーを希望の位置に入れます。副変速スイッチを押して、「低速」「高速」を選択します。
（作業速度については、つぎの表を参考にしてください。）

副変速レバーと副変速スイッチの組み合わせ

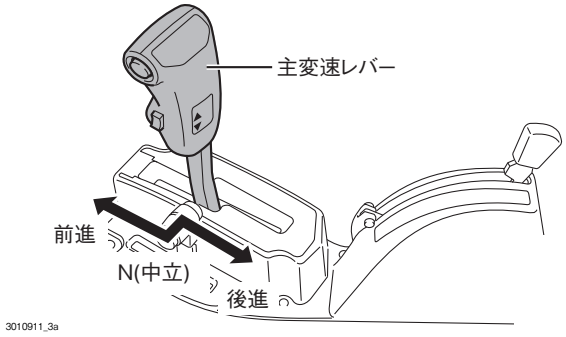
副変速レバー	副変速スイッチ	パネルランプ点灯	走行速度(km/h)	
			前進	後進
1	低	LO	0～5.2	
1	高	HI	0～9.5	
2	低	LO	0～9.8	
2	高	HI	0～17.9	

副変速2速は路上走行など、副変速1速は重作業などで使用してください。

4. クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込んで、駐車ブレーキレバーを押し下げ、駐車ブレーキを解除します。

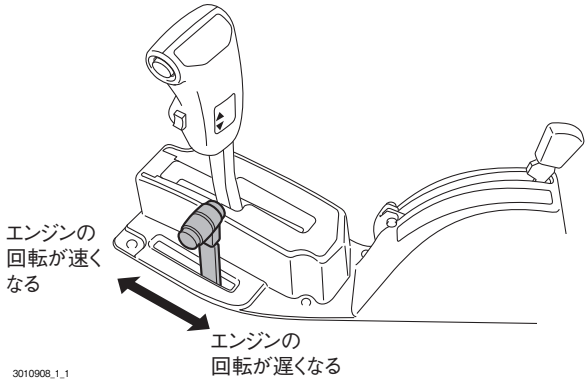


5. 主変速レバーを前方、または後方へ動かすと、トラクターが動きはじめます。ゆっくりと操作し、急激な変速はさけます。

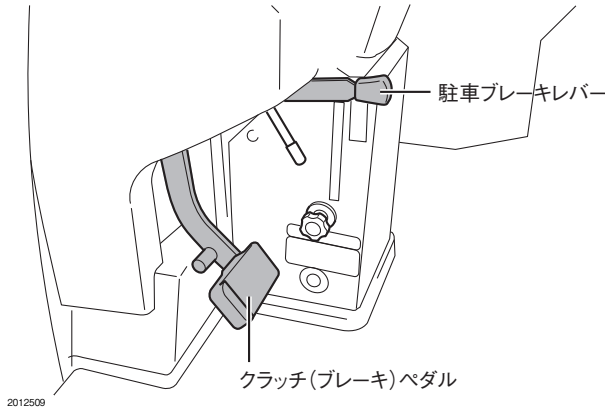


4. 停車・駐車のしかた

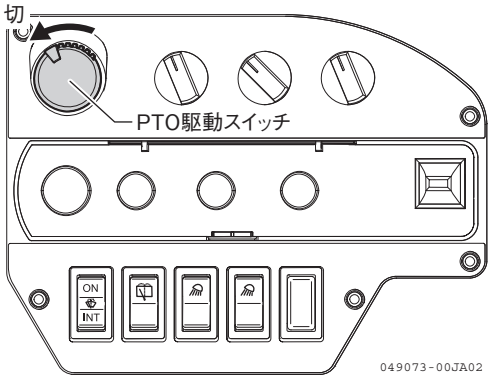
1. 主変速レバーを「N」（中立）位置にします。トラクターが停止したことを確認します。
2. アクセルレバーを「遅い」側に戻します。

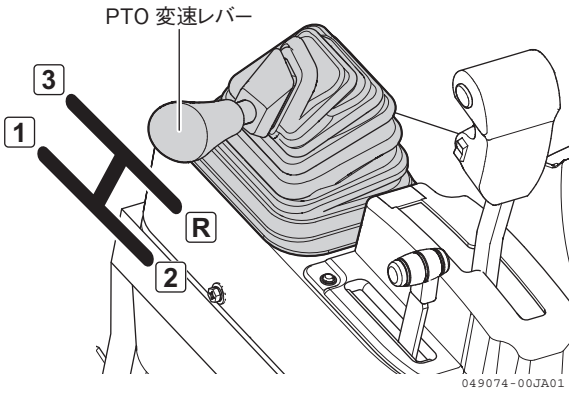


3. クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込んで駐車ブレーキレバーをロック位置に引き上げます。

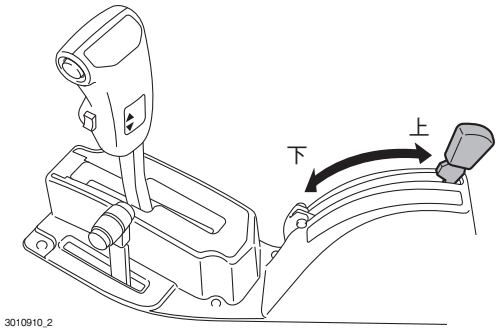


4. PTO 駆動スイッチを「切」、PTO 変速レバーを「N」（中立）位置にします。





5. 作業機を取り付けているときは、作業機昇降レバーを「下」方向に操作して、作業機を降ろします。



6. キースイッチを「OFF」（切）位置にします。エンジンが停止します。
7. キーを抜きます。

[重要]

駐車するときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。

5. 道路走行のしかた

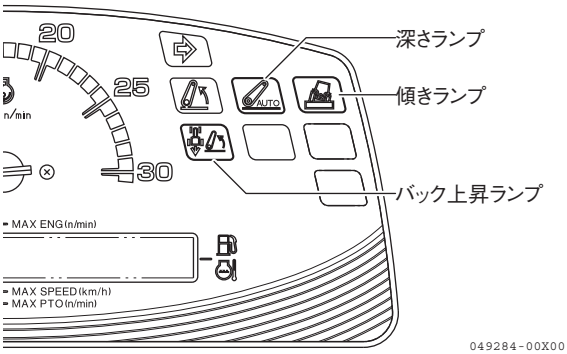
⚠警告

- **公道走行するときは、必ずロータリーなどの作業機を外し、道路交通法規を守ってください。公道では、作業機を装着したトラクターの走行は、道路運送車両法違反となります。また、作業機を装着して走行すると、車・人・電柱などに引っかけて事故を起こすおそれがあります。**
- **道路走行時は、以下の自動機能を「切」にしてください。**
  - **・ バック上昇**
  - **・ 水平自動**

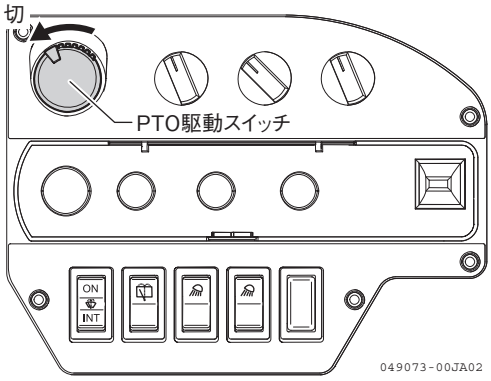
  「傾き」「深さ」「バック上昇」ランプが消灯していることを確認してください。
- **PTO駆動スイッチを「切」位置、PTO変速レバーを「N」（中立）位置にしてください。**
- **走行スピードはフートアクセルペダルで調節してください。**
- **スピードの出し過ぎに注意し、慎重に運転してください。**
  - **・ 急発進や急停止は、絶対にしないでください。**
  - **・ 旋回するときは、トラクターの速度を落としてください。**
  - **・ 坂道や凹凸道、カーブの多い場所ではトラクターの速度を落としてください。**

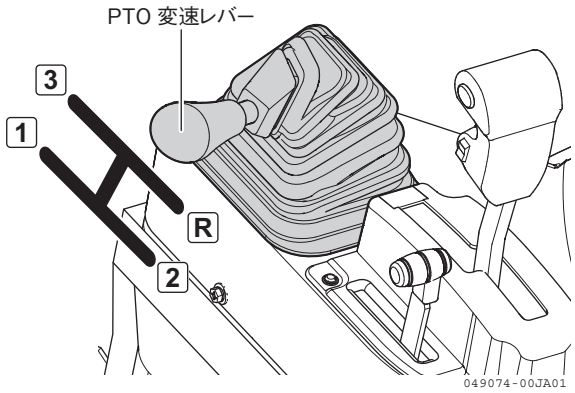
守らないと、転倒や追突事故のおそれがあります。

1. 「バック上昇」、「水平自動」、「オート・負荷・ドラフト・レーザー」の自動機能を「切」にして、各ランプを消します。

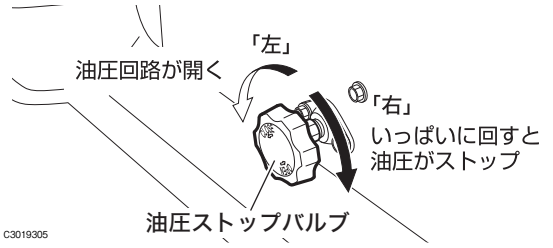


2. PTO 駆動スイッチを「切」、PTO 変速レバーを「N」（中立）位置にします。

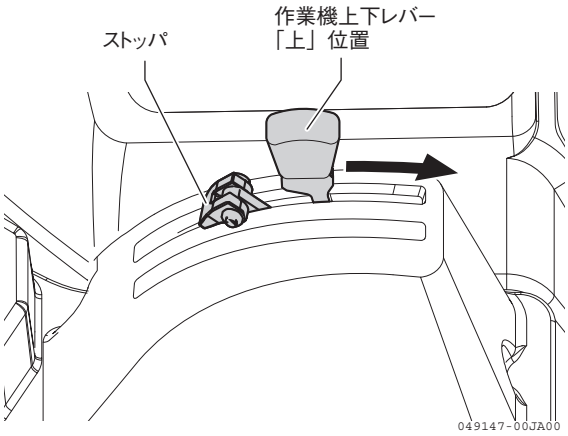




3. 油圧ストップバルブをいっぱいまで開きます。



4. 作業機上下レバーを「上」位置にして、ストッパをセットします。



[重要]

ストッパをセットして走行してください。守らないと、作業機上下レバーに手が当たったとき、レバー位置が変わり、作業機が落下し、破損事故を引き起こすおそれがあります。

6. 走行中の操作について

- **走行スピードはフートアクセルペダルで調節してください。**
- **進路を変更するときは、フラッシャスイッチによって進行方向を他の車に知らせてください。**
- **バックミラーで後続車に注意し、追い越しの妨害にならないようにしてください。**
- **夜間走行時はヘッドランプを点灯してください。サイドランプワークランプは消してください。**
- **狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っているところは、路肩に十分注意して、スピードを落として走行してください。**

7. 坂道での運転のしかた

⚠警告

- あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道の途中では、変速をしないでください。トラクターが急に下がりだし、暴走するおそれがあります。必ず低速で運転してください。
- 坂道の途中では、主変速レバーを「N」（中立）位置にしないでください。
- 上り坂で急発進すると、機体前方がはね上がり大変危険です。エンジン回転を落としてゆっくりと発進してください。
- 坂道では駐車しないでください。やむをえず坂道で駐車する場合は、クローラに歯止めをし、駐車ブレーキを引いて、ブレーキをロックしてください。

1. 坂道に入る前にゆっくりした速度段を選択します。
2. ゆっくりした速度で坂を走行します。
3. 坂道に合わせて下記のように走行します。

- 上り坂・下り坂の場合
  発進する場合、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくりと発進してください。
- 急な下り坂の場合
  クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏まずに、エンジンブレーキを活用してください。

8. トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠危険

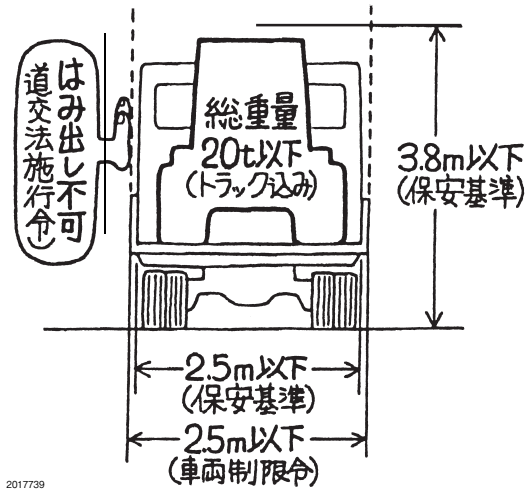
アユミ板の上では、進路変更や停止をしないでください。また、クラッチ（ブレーキ）の操作を絶対にしないでください。守らないと、転落などの事故を起こすおそれがあります。

⚠警告

- 使用するアユミ板は、段差の 4 倍以上の長さで、幅・強度が十分あり、スリップしないものを選び、アユミ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。
- トラックへの積み込みは後進で、降ろしは前進で行ってください。
- 積み・降ろしはゆっくりした速度段を選び、途中では変速しないでください。
- トラクターをトラックに載せて移動するときは、強度が十分にあるロープでトラックに固定してください。
- トラックは平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分行える広い場所に停車し、エンジンを停止してください。
- トラックの変速は、オートマチック車は「P」、マニュアル車は「1速」または「R」位置に入れてください。駐車ブレーキをかけ、タイヤに車止めをしてください。
- トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差ができないように確実にかけてください。

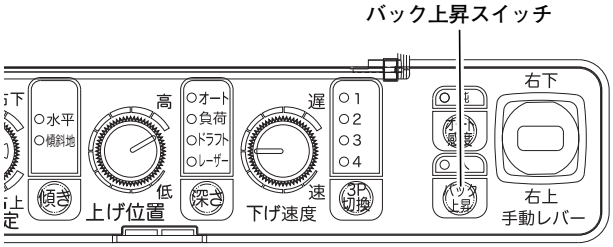
輸送時の注意

輸送するときは、各関係法令により下記規定値が定められています。関係法令を守って安全に行ってください。



トラクターの積み込みかた

1. アユミ板は左右段違いにならないように、また荷台に対し、左右均等の位置に取り付けます。
2. バック上昇機能を「切」にします。



3. 変速は低速位置、エンジン回転は低速にし、後進で積み込みます。
4. アユミ板の上で進路変更することがないように進路を定めて最低速度で積み込みます。

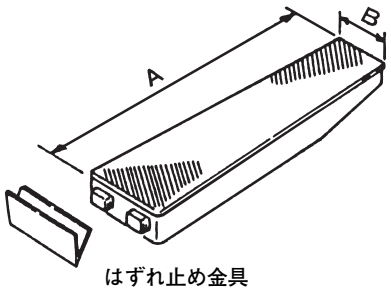
〈アユミ板の選定条件〉

以下の条件を満たすアユミ板を選びます

- 傾斜角が15度以下
- アユミ板の幅は履帯（クローラ）幅の1.2倍以上
- 強度は機械の総重量に対し十分に余裕があること
  強度が十分に取れない場合は、アングルを補強するか、アユミ板の中央部に受台を設ける
- アユミ板の両端には傾斜をつけ、片方の端に固定金具を取り付ける

[参考]

アルミの場合



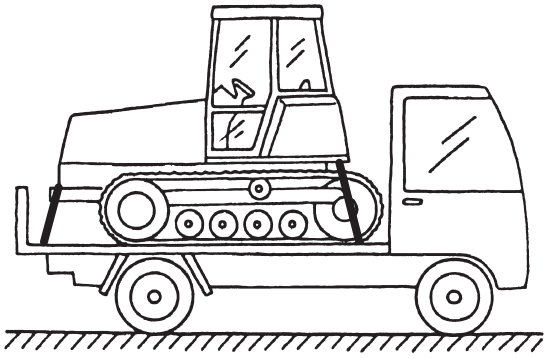
※A：傾斜角を15度以下にしたときのアユミ板長さ
B：アユミ板幅（履帯（クローラ）幅の1.2倍以上）

トラックに積み込んだら

下記の要領でトラックに固定します。

1. トラクターの駐車ブレーキをかけます。
2. 作業機を取り付けている場合は、作業機上下レバーを「下」方向に操作して、作業機をゆっくりと荷台に接地させます。
3. トラクターのエンジンを停止し、キーを抜きます。
4. クローラに歯止めをし、車体と足回り部をワイヤロープで固定します。

輸送中、本機が前後の動きや横滑りをしないようにクローラの前後に角材等をかませて確実に固定します。



トラクターの降ろしかた

⚠注意

トラックからアユミ板へ乗り移るとき、本機の重心位置が移動しますので、ゆっくりと慎重に降ろしてください。

1. トラクターを固定しているロープを外します。
2. エンジンを始動します。
3. 作業機を取り付けている場合は、作業機上下レバーをゆっくり「上」方向に操作して、作業機を上昇させます。
4. 速度は低速で、必ず前進で降ろします。アユミ板の上で、進路変更をしなくても済むように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めます。

⚠危険

- ロータリーなどPTO作業機の着脱、調整、掃除をするときは、作業機の回転が完全に止まるまで待ってください。

⚠警告

- トラクターの前部または後部に重い作業機を装着したときは、必ずバランスウエイトを使用し、トラクターのバランスを適正に保ってください。人や物をバランスウエイトの代わりに乗せないでください。転落事故の原因になります。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
- トラクターを移動して作業機の着脱をするときは、平たんで安全な場所で行ってください。夜間に行う場合は、適切な照明を確保してください。また、トラクターの周辺や作業機との間に、人が入らないようにしてください。傷害事故の原因になります。
- トラクターに作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書をよく読んで理解してください。
- 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。万一、作業機が下がったときに傷害事故を負うおそれがあります。
- ハウス内で作業するときは、排気ガスが充満しないように、十分換気をしてください。排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。
- 爪に巻き付いた草などを取るときは、エンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。
- 人（特に子供）には十分注意し、トラクターに近づけないでください。
- ほ場でのロータリー作業では、地面が硬かったり、石の多いところでは、回転する爪の勢いでトラクターが思わぬ方向に飛び出す（ダッシュ）ことがあります。ロータリーをゆっくりと地面に降ろしてください。
- わき見、手放し運転はしないでください。
- トラクターに装着する作業機は、推奨されているものを使用してください。大きすぎたり、小さすぎたり、バランスの悪い作業機を装着しますと、人身事故や機械の破損の原因になります。
- 背の高い作業機（調整レバーを含む）を装着した場合や、ロータリー用アタッチメントを取り付けた場合には、作業機を最上げにすると作業機の調整レバーなどが干渉し、人身事故や機械の破損の原因となります。下記の要領にて装着および操作をしてください。
  - ・作業機を装着し、トラクター本体やキャビンに干渉しないように、上げ位置ダイヤルで上げ高さを規制してください。
  - ・上げ高さ設定時はエンジン回転を低速にし、ゆっくりと作業機を上げて、上げ高さを設定してください。
- フロントブレード作業時は、前方にバランスが片寄らないように、後方にウエイトまたは作業機を装着してください。

1. ほ場への出入りのしかた

⚠警告

- ほ場への出入り、あぜ越え、段差を乗り越えるときは、高低差が大きいと危険です。アユミ板を使用してください。
- 急な傾斜を登るときは後進で、降りる場合は前進で行ってください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落のおそれがあります。
- バック上昇機能を「切」にしてください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落のおそれがあります。

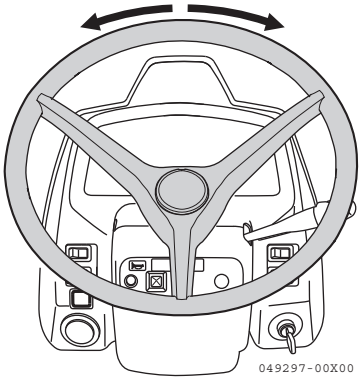
1. ほ場への出入りは、ほ場に対して直角に出入りします。
2. あぜを上がるときは、作業機を低くして、トラクターの重心を下げます。機体前方が浮き上がりにくくなります。
3. トラクターが斜面を完全に上がりきってから作業機を上げます。

2. ほ場での旋回のしかた

⚠警告

- 高速走行で急旋回（スピンターン）をしないでください。転倒するおそれがあります。
- 旋回するときは、作業機を上げて行ってください。守らないと、事故を起こしたり作業機を破損するおそれがあります。
- 旋回するときは、周囲の安全を確認してから行ってください。特に、機体寸法の長い作業機を使用する場合は、周囲の人や物に接触しないように注意してください。

1. 主変速レバーで走行スピードを下げます。
2. 旋回したい方向へハンドルを回すと、機体が旋回します。



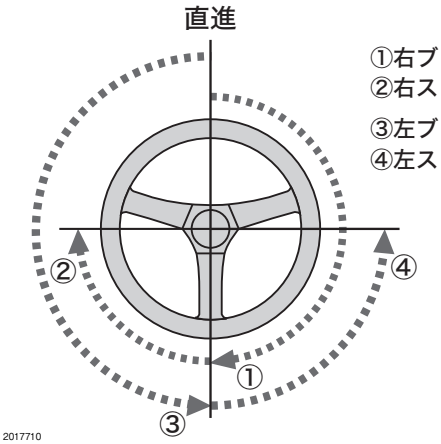
[参考]

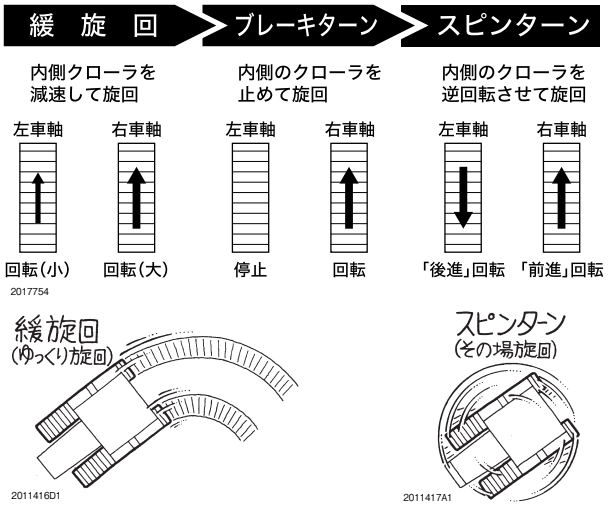
やわらかいほ場では、ハンドルをゆっくり操作し、緩旋回を行います。スピンターンでの旋回は、ほ場を傷めます。

固いほ場では、スピンターンでの旋回により、能率よく作業が行えます。

ハンドルの操作量と旋回角度について

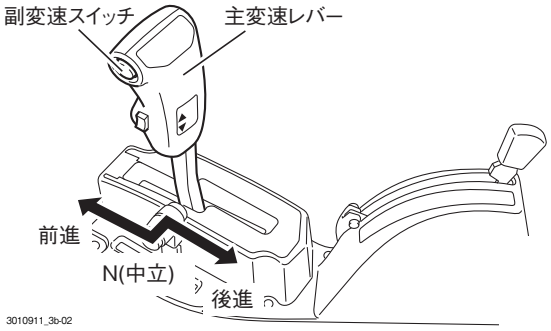
ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速され、ハンドル約180°回転で、クローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。
さらにハンドルを回すと、徐々にクローラが逆転しはじめ、ハンドル約270°回転でスピンターンの状態になります。





3. 作業に適した速度の選びかた

主変速レバーと、副変速レバー・副変速スイッチとの組み合わせにより変速できます。走行速度はHST機構によりノークラッチ無段変速です。下表を参考にして、作業に合った速度を選んでください。



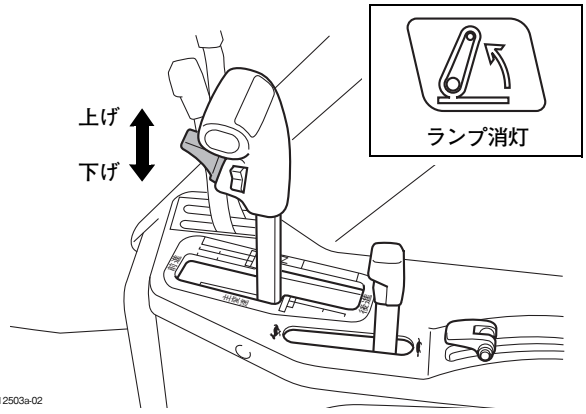
副変速レバー	副変速スイッチ	作業名	作業機参考例
1	Lo	重負荷・けん引作業	ロータリー、サブソイラ、水田プラウ
	Hi	軽・中負荷作業	プラウ
2	Lo		
	Hi	走行	

4. 作業機の上げ下げのしかた

作業中に作業機を上下させるには、作業機上下レバーまたは、作業機昇降スイッチを使用します。(ほ場以外では作業機上下レバーを使用してください。)

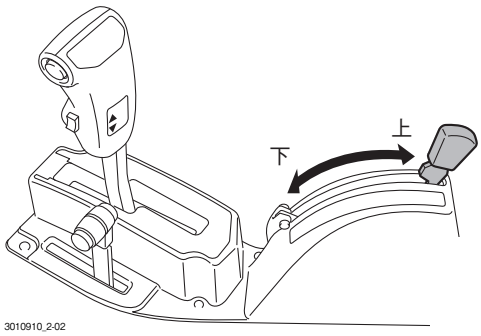
作業機を上げるには

作業機昇降スイッチを「上げ」位置にします。
上げ位置ダイヤルで設定した高さまで作業機が上がり、リフトランプが点灯します。



作業機を下げるには

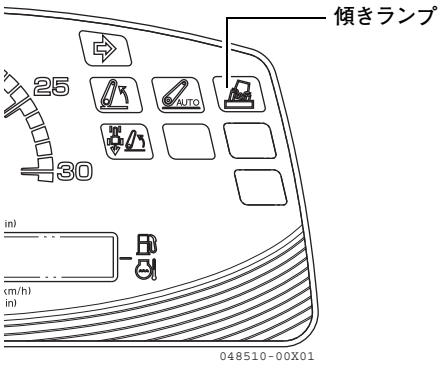
- 作業機昇降スイッチを「下げ」位置にします。作業機は作業機上下レバーで決められた位置まで下がり、リフトランプが消えます。
- 作業機上下レバーが最上昇位置にあるときは、作業機昇降スイッチを操作しても作業機は下がりません。このとき作業機が上がっていてもリフトランプは点灯しません。作業機上下レバーを「下」方向に操作し、作業機を下げます。
- 作業機昇降スイッチ・バック上昇で作業機を上昇させた後、下げるには、作業機昇降スイッチを「下げ」位置にするか、作業機上下レバーを一度、最上昇位置に操作した後、「下」方向に操作します。

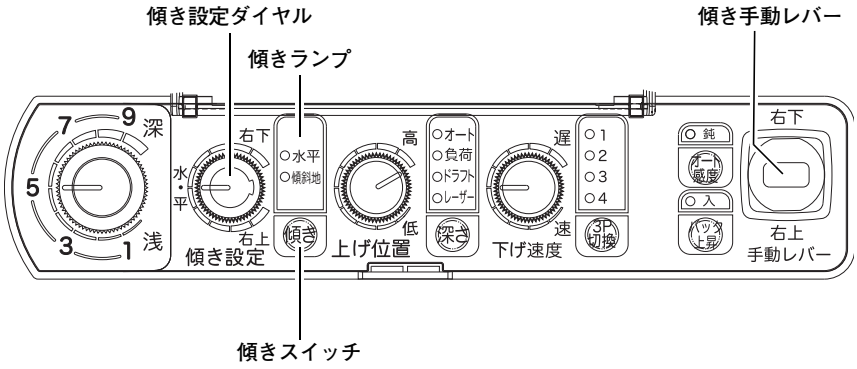


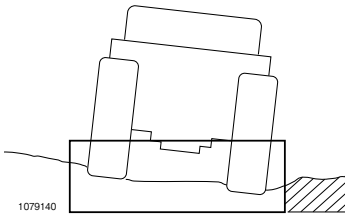
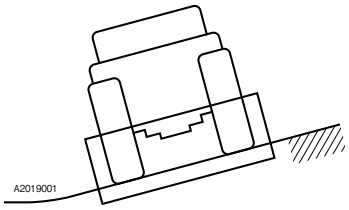
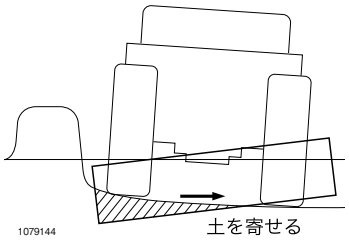
5. 水平自動制御の使いかた

水平自動制御は、電子制御で作業機の水平制御、耕深制御を行います。
ほ場の傾きや、トラクターの傾きにすばやく反応して、きれいな仕上がりになります。

水平自動制御の使用例



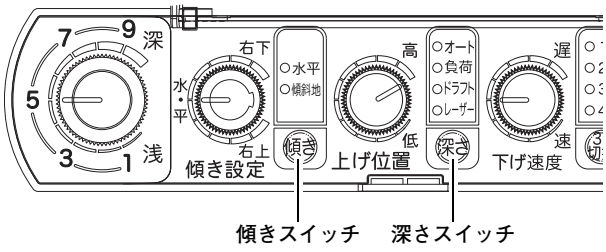


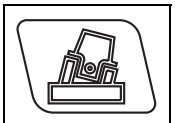
ほ場・用途	水平自動制御の作業例		傾きランプ（水平自動モード）	傾き設定ダイヤル	傾き手動レバー
水田 うね崩し 代かき	凸凹や軟弱なほ場で、片輪が既耕地に落ちたり、本機が傾いても作業機はほ場に対して常に水平に制御されるため均平に耕うんでき、耕盤が安定する。		水平 （点灯）	中央	操作 しない
傾斜地 ハウス 浅起こし 時	作業機は基本的には本機に平行に制御されるが、片輪が既耕地に落ちたり本機がほ場に対し急激に傾くと、作業機はほ場に対して平行に制御される。そのため、傾斜地での隣接耕でもつなぎ目をきれいに仕上げることができる。		傾斜地 （点灯）	中央	操作 しない
水田 畑地 ハウス	あぜ際やハウス端の土の盛り上がりを均平にするため、手動で作業機を傾けて土寄せができます。		ランプ 消灯	中央	右下げ または 右上げ

路上走行時の設定

路上走行するときは、作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、つぎの処置をしてください。

1. 傾きランプ・深さランプが点灯している場合は、それぞれ傾きスイッチ・深さスイッチを押して「切」（消灯）にします。

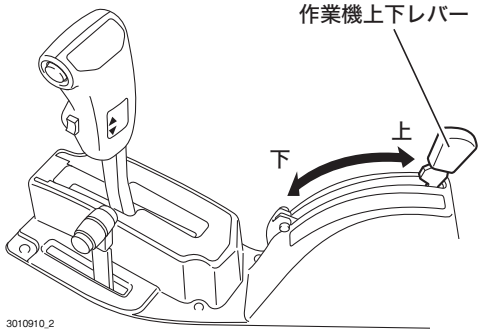



傾きランプ消灯



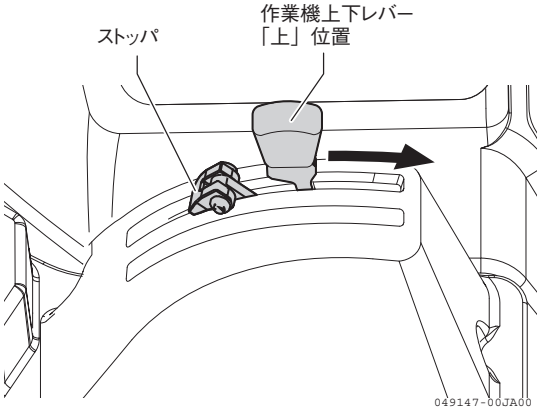
深さランプ消灯

2. 作業機上下レバーを「最上げ」位置にして作業機を上げます。



[重要]

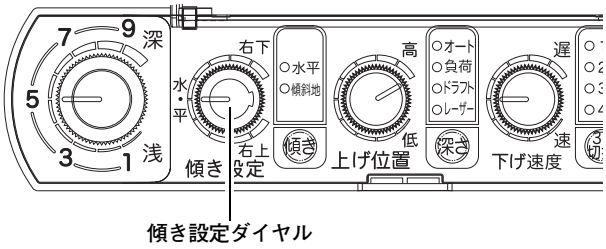
油圧ストップバルブは開いたままで、作業機上下レバーを上げ位置にして、ストッパを上位置にセットして走行してください。



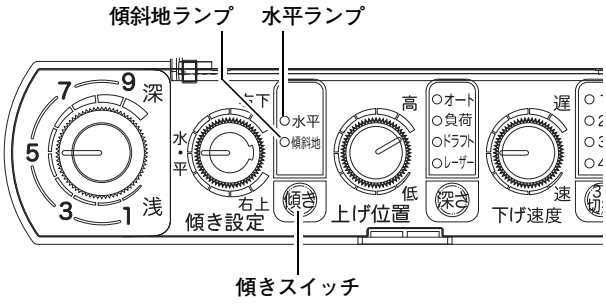
均平に耕うんするには（傾き自動）

トラクターの傾きにかかわらず、ロータリーを地面と一定の角度に保つことができます。

1. 傾きダイヤルの目盛りを「水平」位置に設定します。

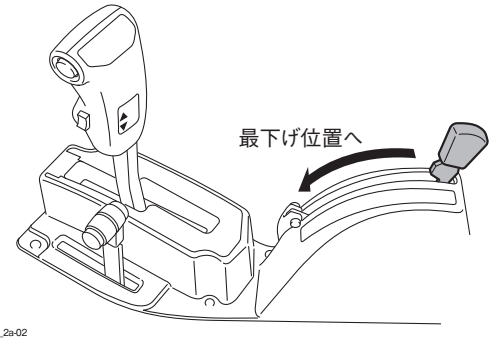


2. 〈水平な場所で使用する場合〉
傾きスイッチを押して、水平自動操作ボックスの水平ランプを点灯します。



〈傾斜地で使用する場合〉
傾きスイッチを押して、水平自動操作ボックスの傾斜地ランプを点灯します。

3. 作業機上下レバーを「最下げ」の位置にして、作業を行います。

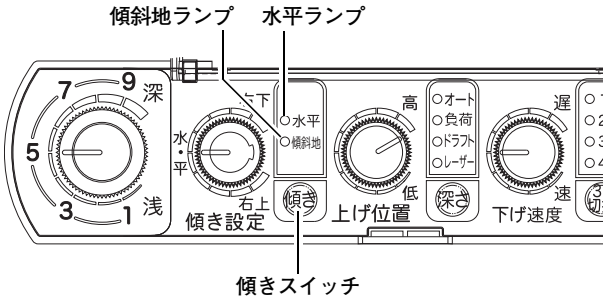


作業機を傾けて作業したい場合

水平自動制御の「傾き」自動を使用した作業方法について説明します。

操作方法は、「水平」「傾斜地」とも同じです。

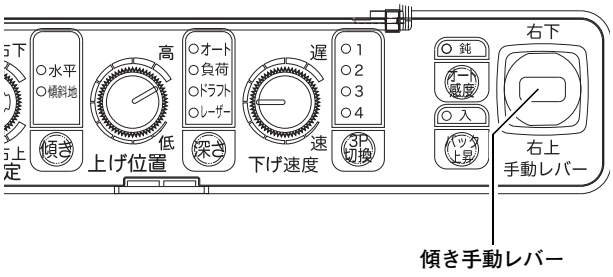
傾きスイッチを押して、作業条件を示す「水平」または「傾斜地」ランプが点灯しているか確認してください。



〈一時的に作業機を傾けたい場合〉

傾き手動レバーを右下または右上に操作してください。

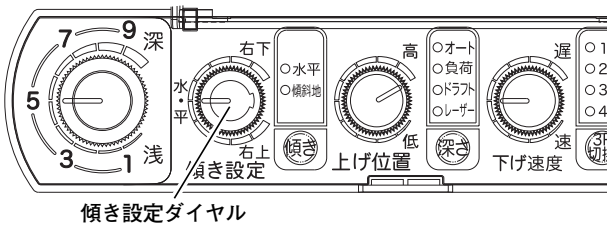
傾き手動レバーを操作している間、作業機が傾きます。手を離すと、作業機は元の水平位置に戻ります。



〈作業機を一定の角度で傾けたい場合〉

傾き設定ダイヤルを操作して、作業機と地面の角度を設定してください。

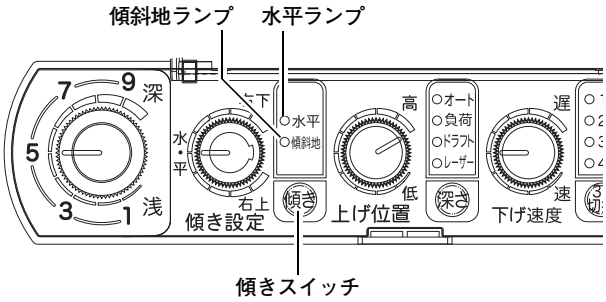
- 右へ回す…右下がり
- 左へ回す…右上がり



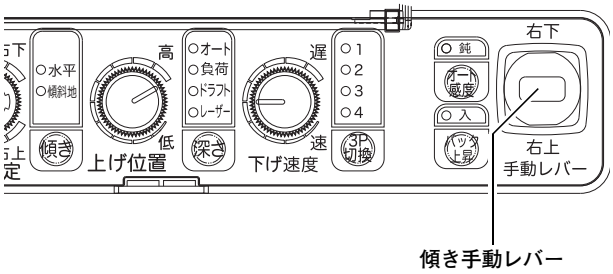
傾き「手動」の使いかた

水平自動制御の「傾き」手動を使用した作業方法について説明します。

1. 「水平」・「傾斜地」ランプが消灯していることを確認します。点灯しているときは、傾きスイッチを押して「切」（消灯）にします。（77 ページ参照）

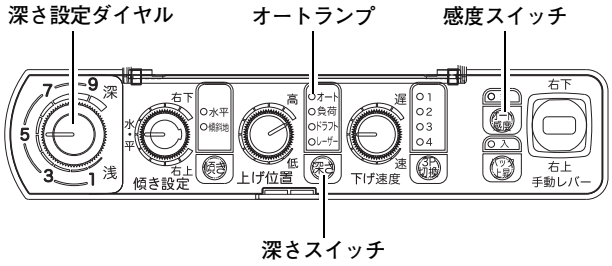


2. 傾き手動レバーを右下または右上に操作して、作業機と地面の角度を設定します。



オートロータリーの使いかた

オートロータリーは耕深自動制御機能を装備したロータリーや代かきハローで使用できます。
凹凸の多いほ場でも耕深が一定になる機能で、一般耕うん、代かきなどに効果を発揮します。
つぎの要領で耕深を設定してください。

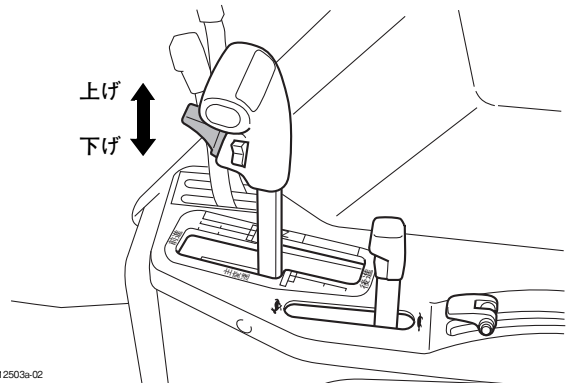


1. 深さスイッチを押して、水平自動操作ボックスのオートランプを点灯します。
2. 作業機上下レバーを最下げ位置にします。
3. 深さ設定ダイヤルで、希望の耕深を設定します。

[参考]

同じ目盛りでもほ場条件や、ロータリーにより深さが変わりますので、実際の耕深を見ながら調節してください。

4. 作業機昇降スイッチで作業機を降ろし、耕うんをはじめます。



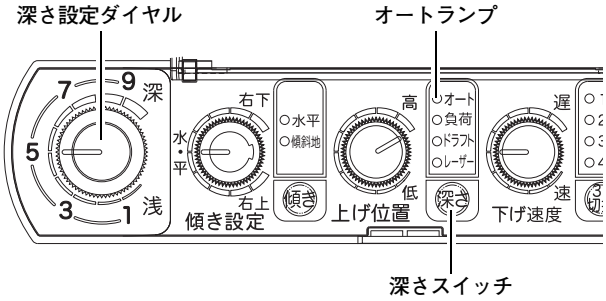
5. 耕うんをはじめて、実際の耕深を見ながら希望の耕深でないときは、深さ設定ダイヤルで耕深を調節します。

[重要]

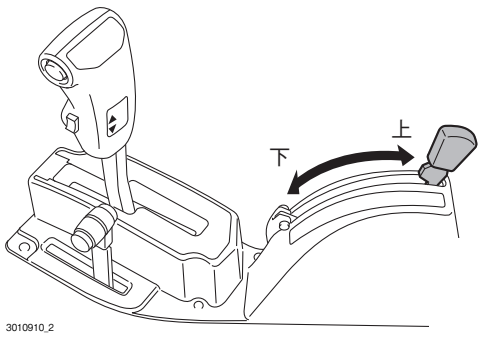
オートロータリーは基本的には、オートロータリー感度「標準」(ランプ消灯)でお使いください。
ほ場条件や仕上がりの状態に応じて感度スイッチを押し、オートロータリー感度「鈍感」(ランプ点灯)でお使いください。

ミックスコントロールの使いかた

ミックスコントロールとは、深さ設定ダイヤルと作業機上下レバーを併用して使用するもので、下げ側のみを規制する機能です。湿田耕うん、凹凸の多い代かき作業などに効果的です。
作業位置の設定はつぎの要領で行ってください。



1. 深さスイッチを押して、水平自動操作ボックスのオートランプを点灯します。
2. 作業機昇降スイッチで作業機を降ろし、耕うんをはじめます。
3. 作業機上下レバーで、希望する作業深さに設定します。



4. 深さ設定ダイヤルを徐々に「浅」の方向に動かし、作業機が上昇しはじめる位置で止めます。
5. 作業機の上下は、作業機昇降スイッチで行います。

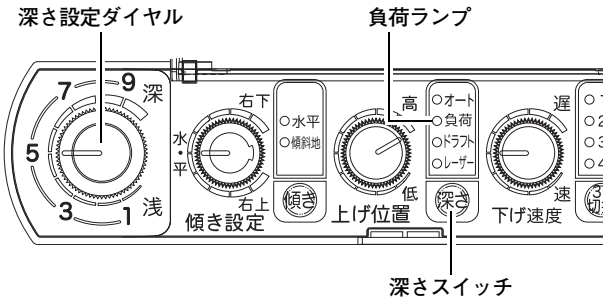
耕深設定表(表中の○印は設定できる作業を表します。)

作業機	耕深設定方法		
	耕うん 深さ機能	ミックス	作業機 上下機能
	深さ設定 ダイヤル	深さ設定 ダイヤル ＋ 作業機 上下レバー	作業機 上下レバー
ロータリー	○	○	○
その他	×	×	○
用　途	一般的ほ場	凹凸軟弱のある特殊ほ場、一般的ほ場、草・ワラの多いほ場	手動操作による任意の耕深を得たいほ場

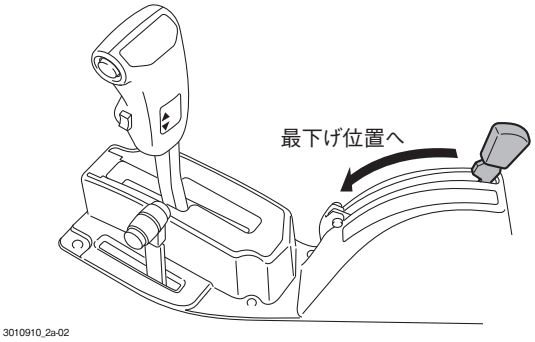
負荷制御の使いかた

負荷制御は、作業中のエンジン負荷を計測して、エンジン回転を落とさずに作業を行うための機能です。つぎの要領で耕深を設定してください。

1. 深さスイッチを押して水平自動操作ボックスの負荷ランプを点灯します。



2. 作業機上下レバーを「最下げ」位置にします。



3. 深さ設定ダイヤルで耕深を設定します。同じ目盛り位置でもほ場条件やロータリーにより深さが変わりますので、実際の耕深を見ながら調節します。

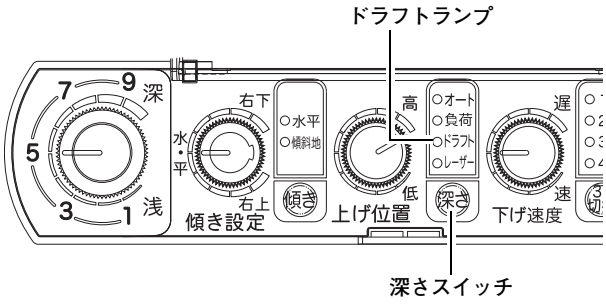
[参考]

- リヤカバーをはね上げてのロータリー耕起作業などオートロータリーが使用できない場合に効果的です。
  エンジン負荷がかかると作業機を少しずつ上昇させて、エンジン回転を落とさずに負荷を回避します。負荷を回避すると、設定した耕深まで自動復帰します。
- 粘土質のほ場で、ロータリー爪軸に土をだき込むようなときには、負荷制御による作業は行わないでください。

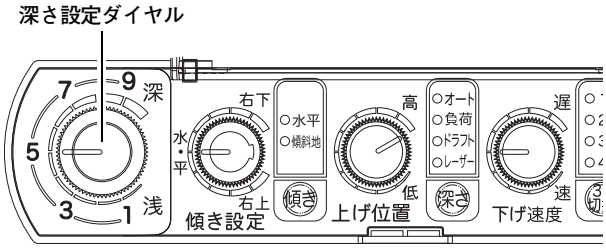
ドラフトの使いかた

プラウなどでドラフト作業をする場合に使用します。

1. 深さスイッチを押して水平自動操作ボックスのドラフトランプを点灯します。

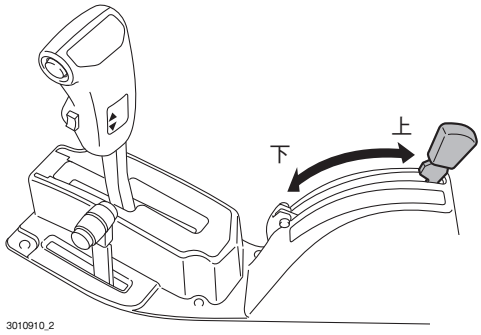


2. 深さ設定ダイヤルでドラフト感度（耕深）を調整します。



- ●「浅」側　ドラフト感度が敏感になり、耕深が浅くなります。
- ●「深」側　ドラフト感度が鈍感になり、耕深が深くなります。

3. ほ場の起伏差が大きい場合は、作業機上下レバーで下げ規制をします。



4. ドラフト作業を行わない場合は、深さスイッチを押して、ドラフトランプを消灯します。

レーザー制御の使いかた

レーザーレベラでの作業時に使用します。
詳しくは、作業機の取扱説明書をご覧ください。

バック上昇機能の使いかた

⚠警告

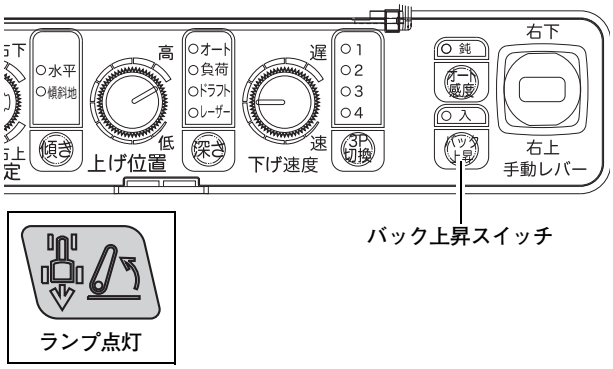
バック上昇機能は、後進時に作業機を自動で上昇させる機能です。つぎのようなときは、バック上昇機能は使用しないでください。傷害事故を起こすおそれがあります。

- **トラックへの積み、降ろし**
- **あぜ越え、ほ場への出入り**
- **果樹園、ハウス内などで支柱や木などの障害物があるとき**
- **ブロードキャスター・トレーラーなど作業機を上下しない作業**
- **後進で行う作業**
- **道路走行時**
- **格納時**
- **作業時の着脱・調整時**

後進時、作業機を自動で上昇させることができます。
バック上昇機能をセットしておくと、枕地や回り耕などで後進するとき能率よく作業ができます。

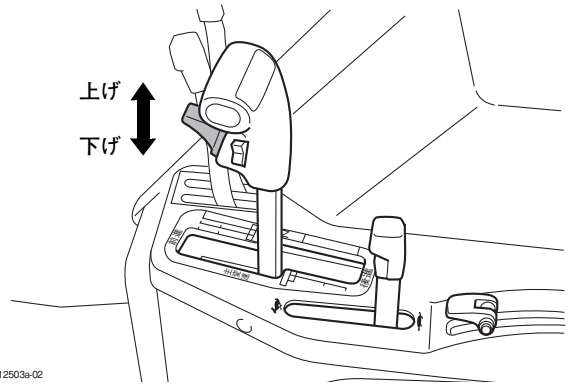
〈バック上昇機能を使用するとき〉

1. バック上昇スイッチを押してバック上昇ランプを点灯させます。



2. 主変速レバーを「R」（後進）に入れると、作業機が自動的に上がります。

3. 作業機を降ろす場合
   主変速レバーを「N」(中立) 位置または「前進」位置にして作業機昇降スイッチを「下げ」位置にします。



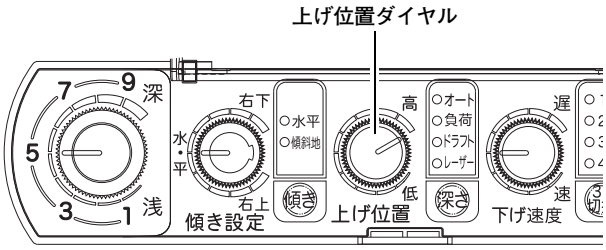
   ゆっくり降ろしたいときは、作業機上下レバーを一度最上昇位置に操作した後、「下」方向に操作します。

〈バック上昇機能を使用しないとき〉
バック上昇スイッチを再度押して「切」(バック上昇ランプ消灯) にしてください。

上げ位置ダイヤルの使いかた

作業機上下レバー・作業機昇降スイッチ・バック上昇機能で、作業機を上げたときの、作業機の最上げ位置を設定します。

- ダイヤルを「高」方向に回すと、最上げ位置が高くなる。
- ダイヤルを「低」方向に回すと、最上げ位置が低くなる。



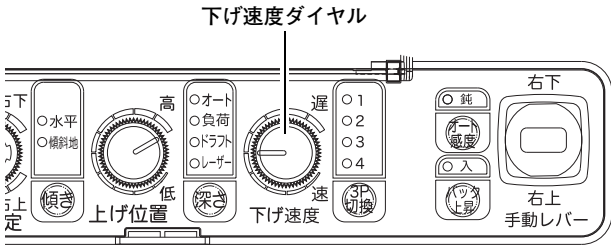
[重要]
作業機昇降スイッチやバック上昇機能で、作業機の昇降を行う場合には、上げ位置ダイヤルで作業機の高さを設定してください。
守らないとキャビンの破損やケガのおそれがあります。

作業機の降下速度調節のしかた

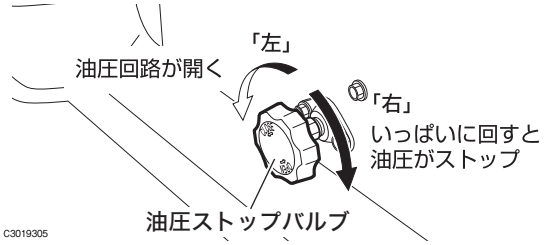
⚠警告

作業機の下にもぐったり、足を踏み入れたりしないでください。万一、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を起こすおそれがあります。

作業機の降下速度を調節する場合は、下げ速度ダイヤルを「速」方向に回すと作業機は速く降り、「遅」方向に回すと作業機の降下速度は遅くなります。

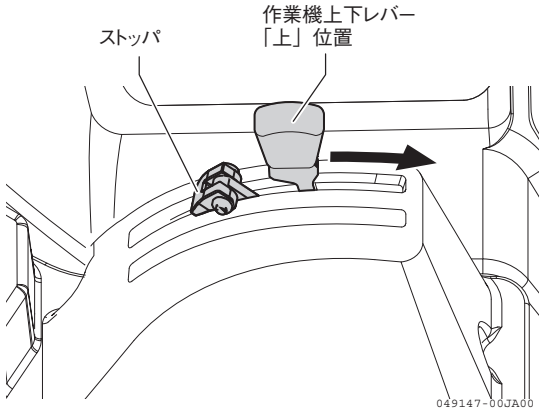


また、油圧ストップバルブを「右」方向にいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



[重要]

- **路上走行するときは、油圧ストップバルブは開いたままで、作業機上下レバーを「上」位置にして、ストッパでレバーをロックして走行してください。**



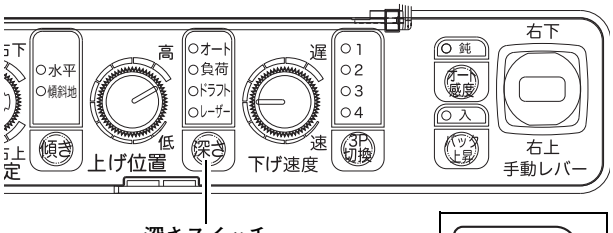
- **油圧ストップバルブをいっぱいに締め込んで油圧をストップした状態で、作業機上下レバーを操作しないでください。油圧部品の破損を引き起こします。**

6. 一般作業機を使う場合の作業位置設定のしかた

作業位置設定のしかた

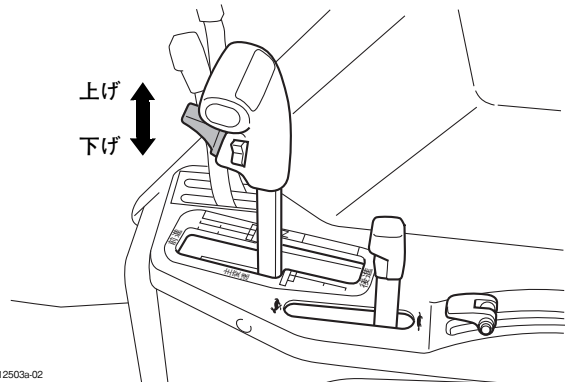
作業機の高さを任意の位置に保持する機能です。ロータリー以外の一般作業機での作業に使用します。
作業位置の決定は、つぎの要領で行ってください。

1. 深さスイッチを押して、「深さ」ランプを消灯します。

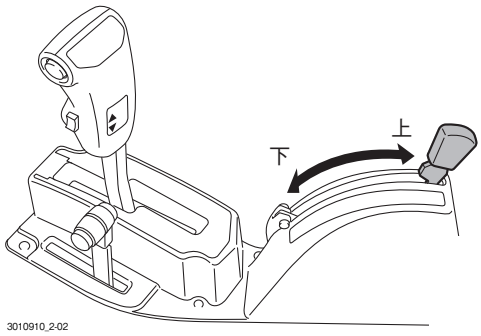




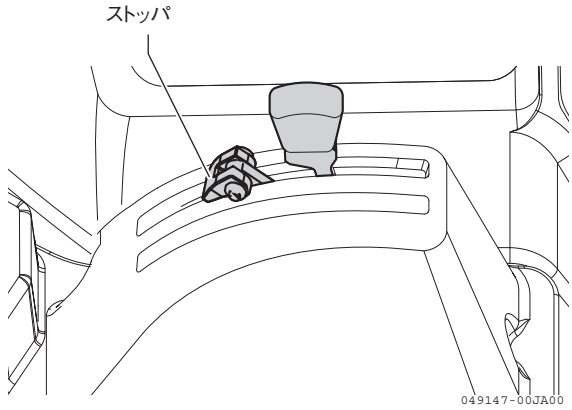
2. 作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作して作業機を降ろします。



3. 作業機上下レバーで、希望する作業位置に設定します。



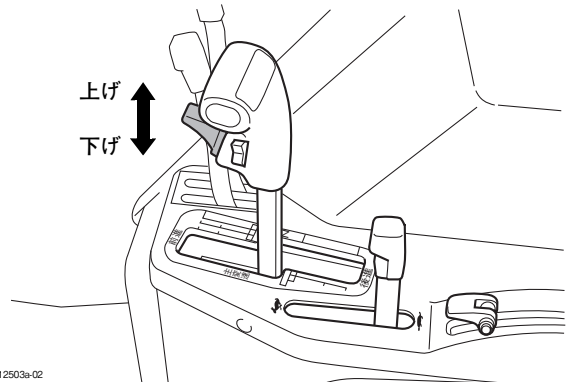
4. 作業機の下限位置を設定したいときは、希望する位置で作業機上下レバーが止まるようにストッパで固定します。



[重要]

作業機昇降スイッチを「上げ」位置に操作した後は、作業機上下レバーを操作しても作業機は下がりません。作業機上下レバーを一度「上」まで操作すると、作業機上下レバーで作業機を下げることができます。

5. 作業機の上下は、作業機昇降スイッチで行います。



7. ロータリー耕うんのしかた

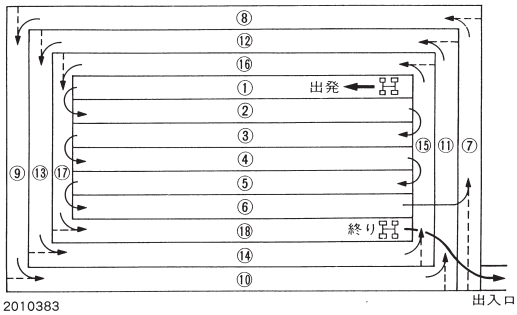
1. 作業条件により、車速およびPTO回転速度を決めて耕うんをはじめます。
2. 耕うん方法は、「隣接耕うん」・「回り耕うん」・「一うね置き耕うん」がありますが、ほ場の条件によって、適切な耕法を選びます。
   一般的には湿田でのロータリー耕うんは回り耕が標準です。
3. 隣接耕うんと一うね置き耕うんをする場合は、トラクターの旋回ができるだけの枕地と同じ幅を、ほ場の両側に残して内側から作業をはじめます。（めやすとして耕作地の周囲を3行程弱残します）
4. 耕うん時は、クローラがすでに耕うんしたところに落ちないように、気をつけながら運転します。

[参考]

サイドドライブロータリーは、右サイドフレーム側があぜ際に寄るようにして耕うんすると、残耕が少なくなります。

〈隣接耕うんの順序〉

- 一般的なロータリー耕うん方法です。

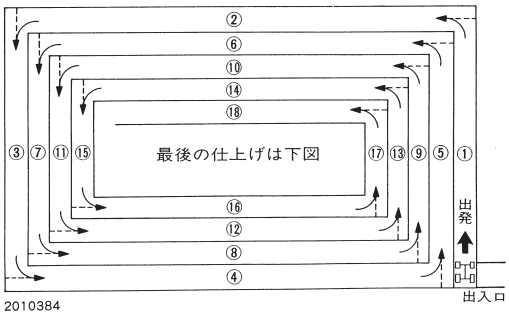


- 図のような順序をとるのは、一度耕うんしたところをクローラで踏まないためです。

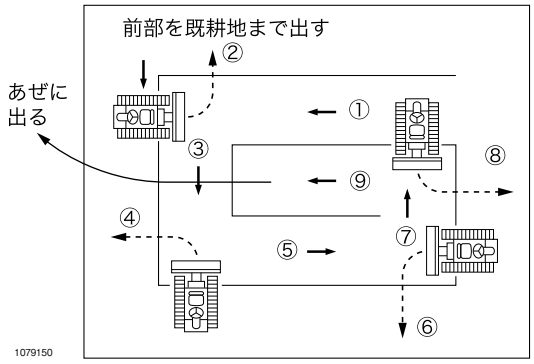
- 出発点は、トラクターが最後に外に出る場所によって決まります。

〈回り耕うんの順序〉

- 弱湿田または湿田地で、小回りが難しい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- 仕上げ後はあぜに近いところから出てください。



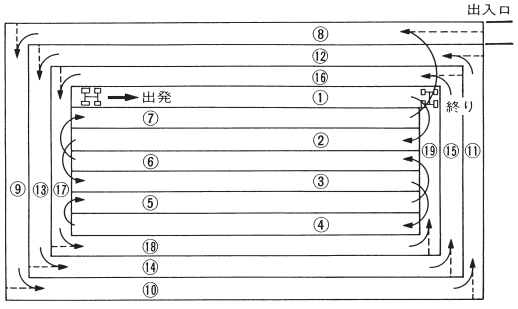
2010384



1079150

〈一うね置き耕うんの手順〉

一うね置き耕うんは、小回りが難しい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。



A3014108

8. サブコントロールバルブ（2連）の使いかた

2連のサブコントロールバルブが装備されています。オプションにより3連まで増設できます。

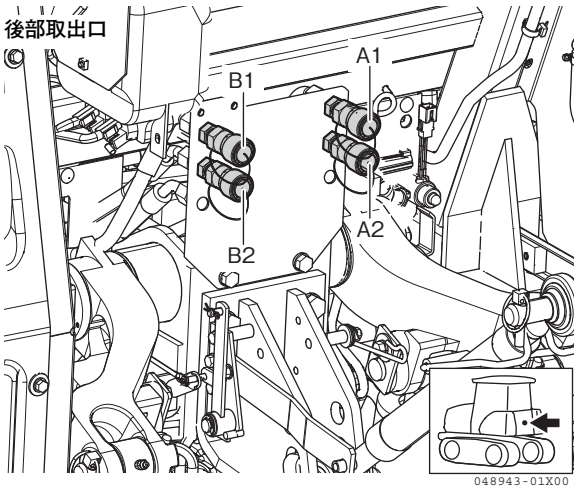
⚠注意

油圧取出口のプラグを外したり、配管の取り付け、取り外しを行うときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。

単動・複動・フロート（サブコンレバー 1 のみ）として使用できます。

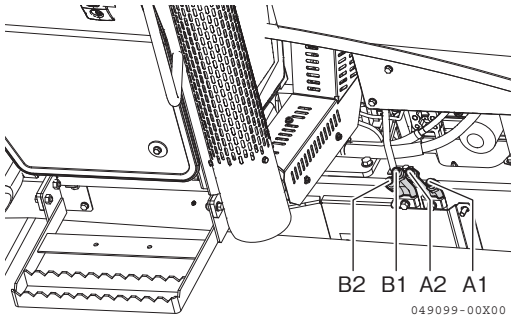
- セット圧　19.6MPa（200kgf/cm^2）
- 油流量　35.6L／分

油圧取出口は、トラクター後部と前部右側にあります。後部取出口のクイックカプラーサイズは 3/8 です。



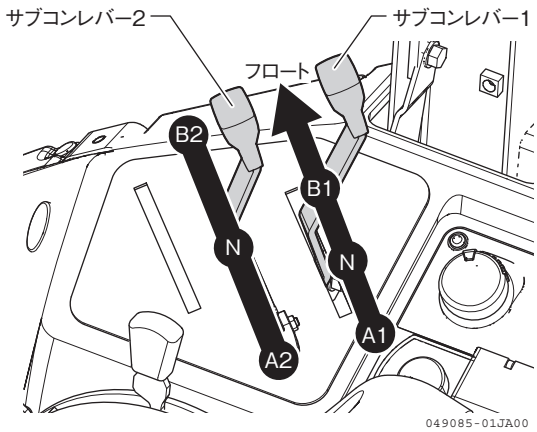
048943-01X00

※3連目のA3･B3はオプションです。



049099-00X00

単動シリンダを使用する場合は、A1ポートに配管してください。



複動の場合

サブコンレバーを操作します。

A方向へ引く	：	Aポートから油が出る。（通常シリンダ伸び側）
B方向へ押す	：	Bポートから油が出る。（通常シリンダ縮み側）
フロート位置へ押す（サブコンレバー1のみ）	：	フロートの状態になります。

単動の場合

サブコンレバーを操作します。

A方向へ引く	：	A1ポートから油が出る。（通常シリンダ伸び側）
フロート位置へ押す（サブコンレバー1のみ）	：	フロートの状態になります。（通常作業機等の重さでシリンダが縮みます。）

作業機の装着

油圧配管は、必ずA1, B1系統と、A2, B2系統に分けて接続してください。

※ 油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

[重要]

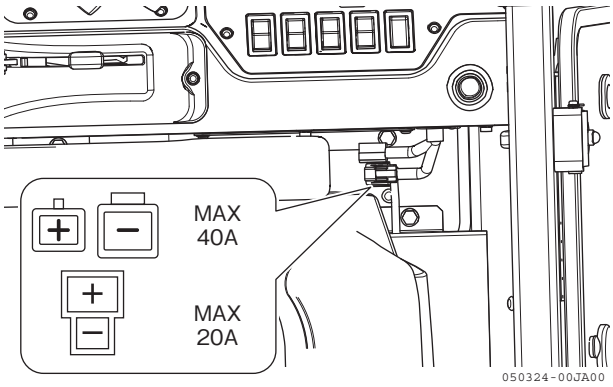
取出ポートのネジの取り付け、取り外しをするときは、取出口の二面幅をスパナで固定してください。

9. 外部電源取り出しについて

⚠注意

- 外部電源を使用する場合は、他の灯火類と併用して長時間使用すると、バッテリー残量が減少することがあります。
- 外部電源の使用は合計で 12V40A 以下にしてください。過負荷電流で使用すると、電気部品が損傷することがあります。

作業機への外部電源取り出しに使用します。



[重要]

端子のプラス、マイナスを間違えたり、過負荷電流で使用しますと（最大：12V40A）ヒューズが切れます。ヒューズが切れたときはヒューズボックス内のヒューズを交換してください。（130ページ参照）

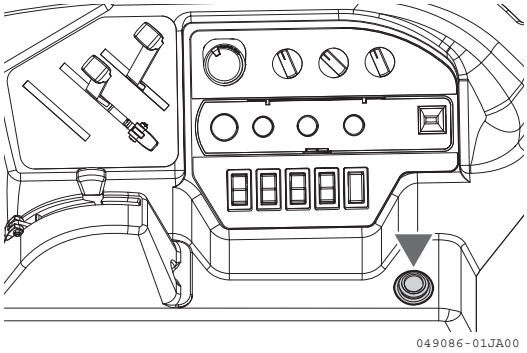
トレーラーカプラー

トレーラーなどの灯火装置が装備された作業機への電源取り出しに使用します。



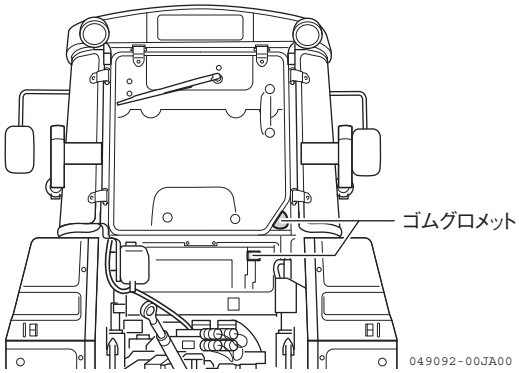
アクセサリーソケット

12V120W（10A）の電源を取り出すことができます。キースイッチ「ON（入）」「ACC」位置で使用できます。



外部電源を通す穴のゴムグロメットの扱いかた

作業機側のハーネスをキャビン内に引き込む場合、キャビン後のゴムグロメットにカッターナイフで切り込みを入れ、ハーネスは必ずゴムグロメットを介して通してください。



⚠警告

ゴムグロメットを外して通すと、電源コードにキズが付き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

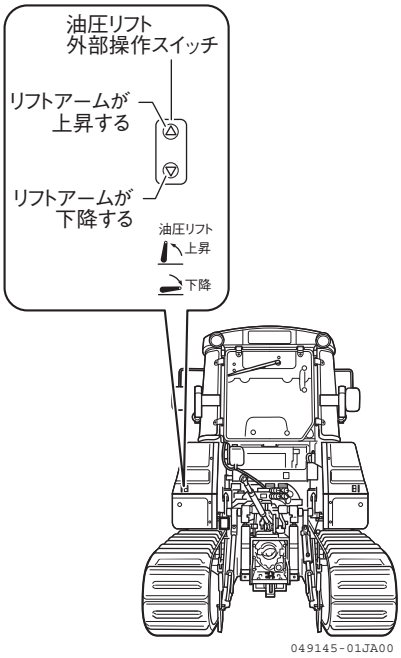
10.外部操作スイッチの使いかた

⚠注意

外部操作スイッチを操作するときは、必ずクローラの外側から行ってください。守らないと、作業機の上昇・下降によりケガをするおそれがあります。

油圧リフト外部操作スイッチ

1. 外部操作スイッチの上側を押すと、押している間はリフトアームが上昇します。また、下側を押すと、押している間はリフトアームが下降します。



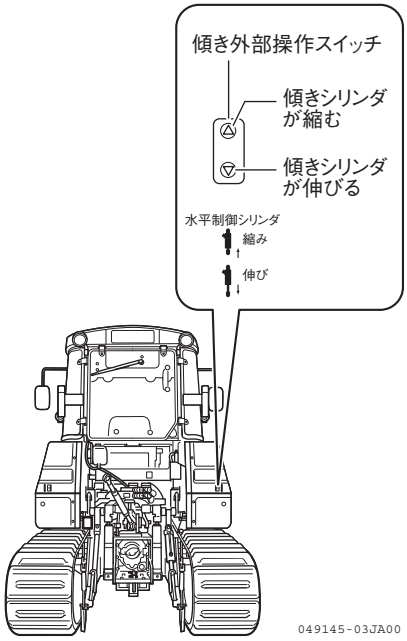
2. 作業機を装着するときは、左側のロアリンクピン位置を、油圧リフト外部操作スイッチで合わせます。右側は、傾き外部操作スイッチでピン穴位置を合わせて装着します。

[重要]

油圧リフト外部操作スイッチを使って作業機を上昇するときは、リヤウインドウに作業機のレバーなどが当たらないよう、必ず作業機の位置を確認しながら少しずつ動かしてください。

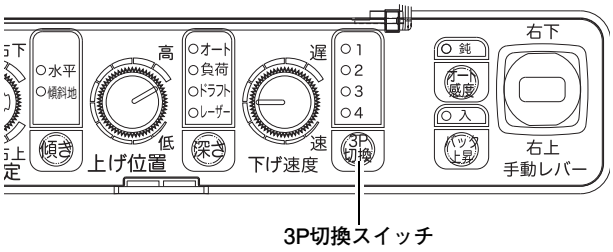
傾き外部操作スイッチ

1. 水平自動操作ボックスの傾きスイッチを押して、傾きランプを消灯にします。
2. 傾き外部操作スイッチの上側を押すと、押している間は傾きシリンダが縮んでいきます。
   スイッチの下側を押すと、押している間は傾きシリンダが伸びていきます。

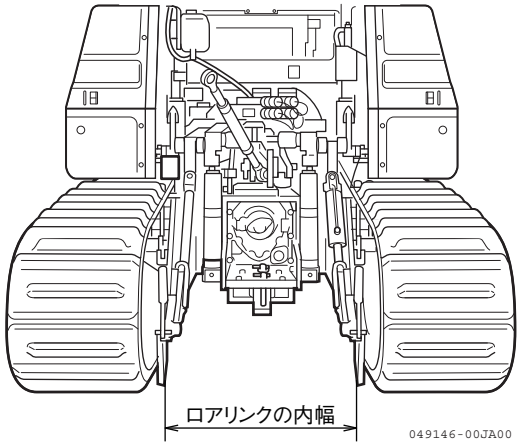


11.3P切換スイッチ

作業機を付けかえたとき、その作業機によって定まる３点リンクの取付状態（ロアリンク幅およびロアリンク穴位置）に応じて次項の3P切換表より選択し、その位置にスイッチを切り換えてください。

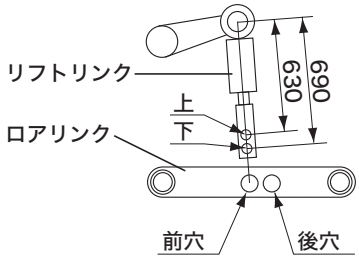


※作業機の取り付けは作業機の取扱説明書に従って行ってください。



3P切換表

3P切換スイッチ	ロアリンク内 幅	ロアリンク穴位置	シリンダ穴位置とリフトリンク長さ	作業機例
1	683mm	後	下 690	カテゴリー I 一般作業機
2	825mm	後	下 690	カテゴリー II 一般作業機
3	825mm	前	上 630	カテゴリー II 揚げ高さを必要とするとき
4	825mm	後	上 630	カテゴリー II さらに揚げ高さを必要とするとき



12.3点リンクについて

このトラクターの3点リンクはJIS 2形です。

トップリンクの調整

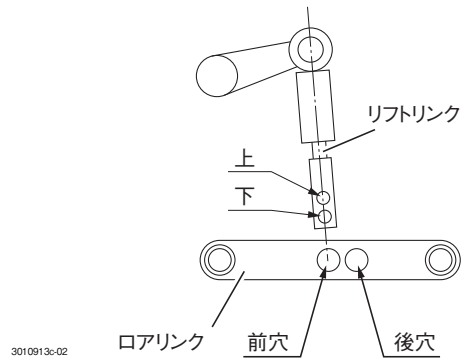
トップリンクは、作業機の姿勢を調整するときに使用します。ターンバックルを回して伸縮させてください。

トップリンクの取付位置、取付長さは作業機によって異なります。作業機の取扱説明書に従い調節してください。

リフトリンクおよびロアリンクの調整

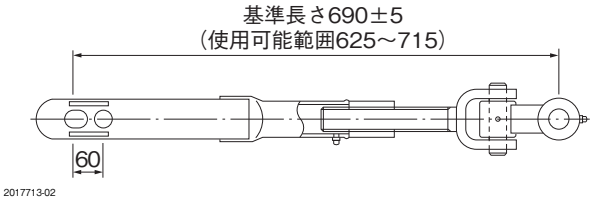
リフトリンクおよびロアリンクの穴は、作業機により下表の位置で使用してください。

ロアリンク穴位置	リフトロッド	作業機例
後穴	下穴	カテゴリ I　一般作業機
後穴	下穴	カテゴリ II　一般作業機
前穴	上穴	カテゴリ II　揚げ高さを必要とするとき
後穴	上穴	カテゴリ II　さらに揚げ高さを必要とするとき



（詳細は、作業機の取扱説明書に従ってください。）

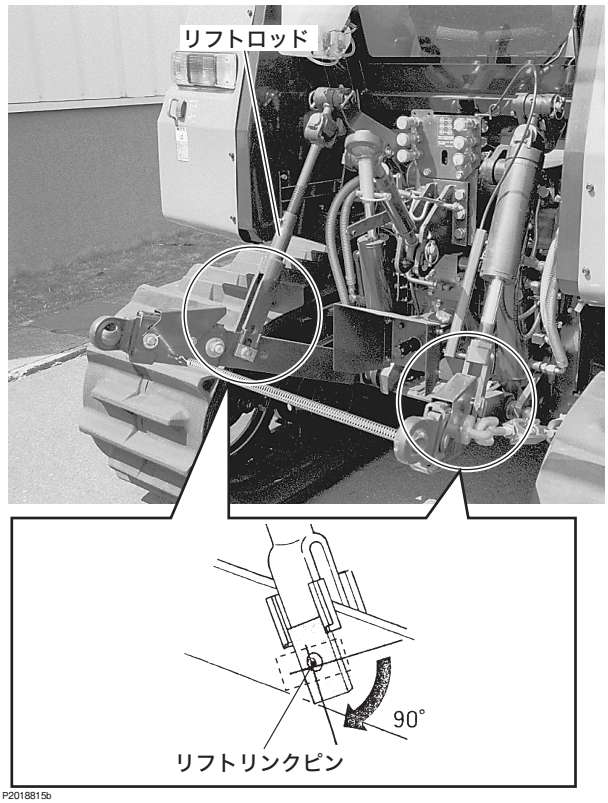
リフトリンク左は、基準長さ 690±5mm になっていますので、長さを変えないでください。ただし、取付作業機の取扱説明書に指定の長さがある場合は、その表示長さに合わせてください。



左右のリフトリンクの取付穴は、同じ位置を使用し、傾きシリンダで作業機を水平に調整してください。

フローティング機構

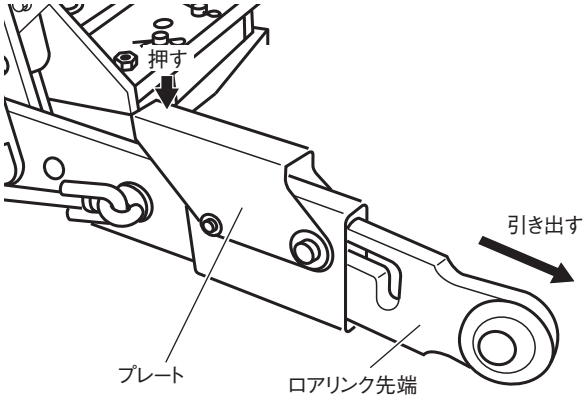
ロータリー耕うんのような広い幅の作業をする場合は、フローティングに切り替えると、凹凸あるいはうねりの多いところでも均平な作業ができます。
また、石などが多いほ場ではロータリー爪の折損を低減することができます。
下図のように、リフトリンクピンを抜いて90° 向きを変えれば、フローティングになります。ただし、リフトリンクの穴が下穴使用時のみ可能です。



P2018815b

テレスコロアリンクの使いかた

プレートを押して、ロアリンクの先端を引き出すと、上下と左右に微調整でき、作業機の取り付けがしやすくなります。

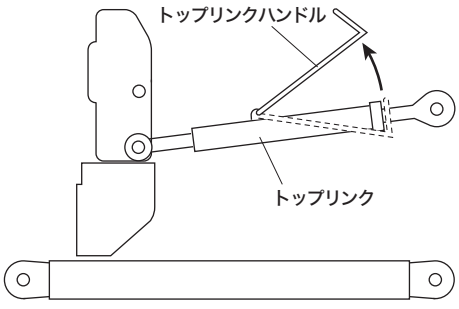


2016123_80

作業機の取り付けが終了したら、作業機を降ろした状態でトラクターをゆっくりと後進させるとロアリンク先端は収納されます。

トップリンクの調節のしかた

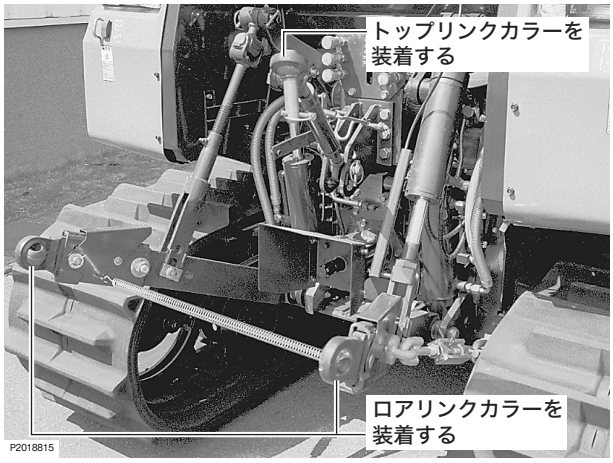
- トップリンクヒンジの取付穴は、使用する作業機によって選んでください。
- 標準は下穴を使用し、トップリンクを取り付けてください。
- トップリンクの長さの調節は、下図のように、トップリンクのハンドルを起こしてターンバックルを回し、長さを調節します。調節後は、ハンドルを元の位置に戻し、固定します。



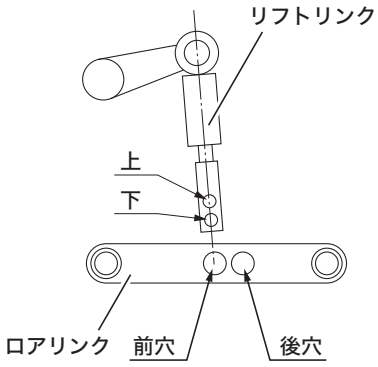
2017761

カテゴリIの作業機を使用する場合

カテゴリⅠ用のカラー（オプション）を装着してください。

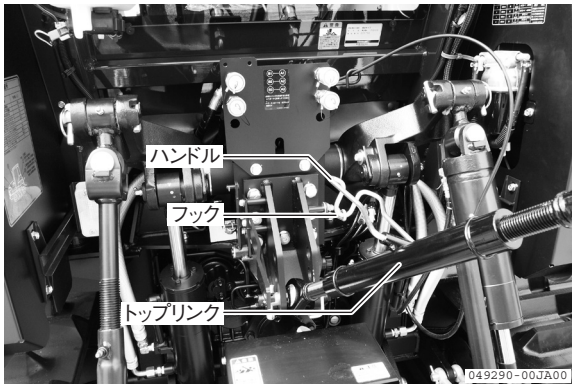


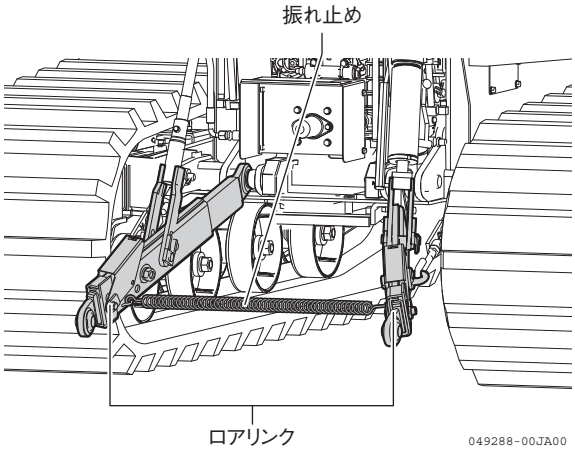
ロアリンクとリフトリンクの取付穴は、ロアリンク後穴とリフトロッド下穴で取り付けます。



作業機を取り付けないとき

1. ロアリンクがクローラに当たらないよう、振れ止めをします。
2. トップリンクは、ハンドルを起こして、フックに引っかけます。

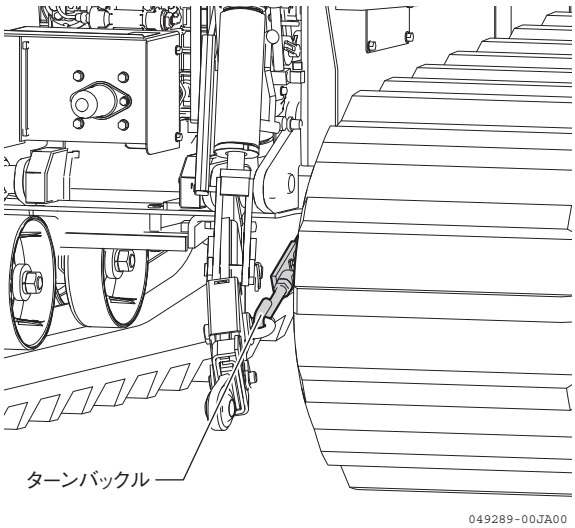




チェックチェンの調整

ターンバックルでつぎのように調整してください。

1. プラウ、サブソイラなどの作業機は、作業機が左右に5〜6㎝動く程度に調整します。
   ただし、作業機が横ぶれしてクローラに当たらないようチェックします。
2. ロータリー・モアなどの作業機は、作業機が左右に振れない程度に調整します。

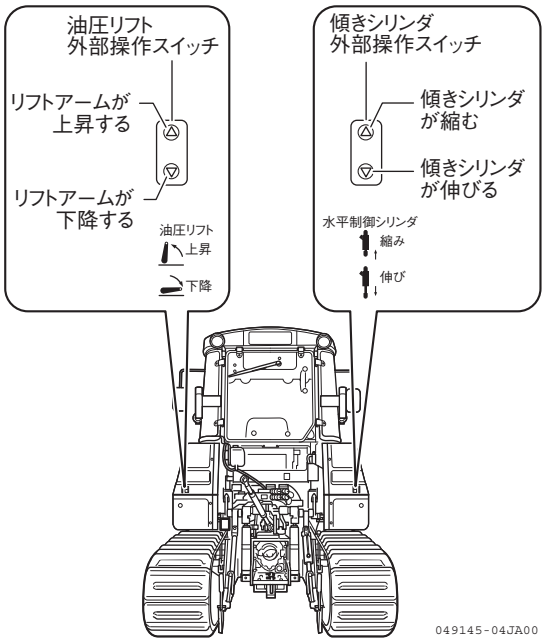


13.一般作業機の取り付けかた

⚠注意

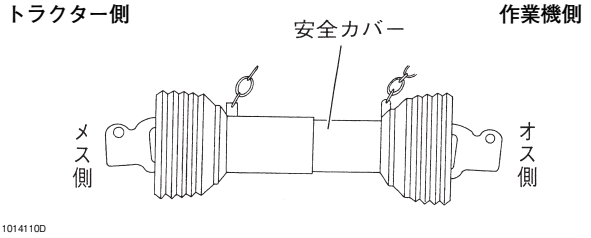
外部操作スイッチを操作するときは、必ずクローラの外側から行ってください。守らないと、作業機の上昇・下降によりケガをするおそれがあります。

1. 平たんな場所で、作業機の中心にトラクターの中心を合わせて止めます。
2. 油圧リフト外部操作スイッチを使って、左側ロアリンクを先に作業機のピンに合わせて取り付けます。



3. 傾きシリンダ外部操作スイッチを使って、右側ロアリンクを作業機のピンに合わせて取り付けます。
4. 作業機のピンにロアリンクの穴を合わせるときは、テレスコロアリンク機構を使用すると容易にできます。
5. トップリンクを取り付け、作業機の傾きを調節します。

6. チェックチェーンのターンバックルで、作業機の横振れを調節します。作業機をいったん持ち上げ、作業機の中心とトラクターの中心が合うように調節し、作業機が中心位置で左右に10mm程度振れるように調整し固定します。
7. 作業機を地面まで降ろして、トップリンクのターンバックルで作業機の姿勢を調整します。
8. 動力を必要とする作業機を取り付けるときは、ドライブシャフトの安全カバーのメス側をトラクターに、オス側を作業機に取り付けます。



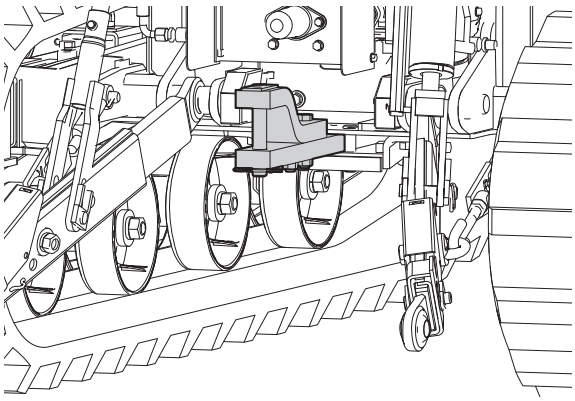
9. 作業機を最上昇位置にし、作業機が円滑に回ることを確認します。
   回転が円滑でない場合は、トップリンクを伸縮して調整します。

14.スイングドローバ(オプション)の使いかた

⚠警告

- **けん引作業は、必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引はしないでください。守らないとトラクターや作業機の転倒事故を起こすおそれがあります。**
- **けん引作業機を装着して、急旋回をしないでください。守らないと、作業機が破損したり、転倒事故を起こすおそれがあります。**
- **摩耗・損傷しているドローバを使用しないでください。**
  守らないと、けん引している作業機が外れ、重大な事故となるおそれがあります。

けん引作業機を使用する場合は、必ずスイングドローバを使用してください。
3P（PTO駆動）で使用する作業は、スイングドローバを縮めた状態で、左側へ固定してください。

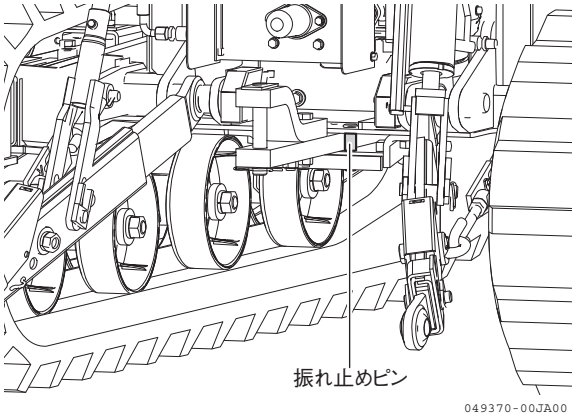


重量物けん引

重量物けん引の場合、スイングドローバは1番縮めた状態でけん引してください。

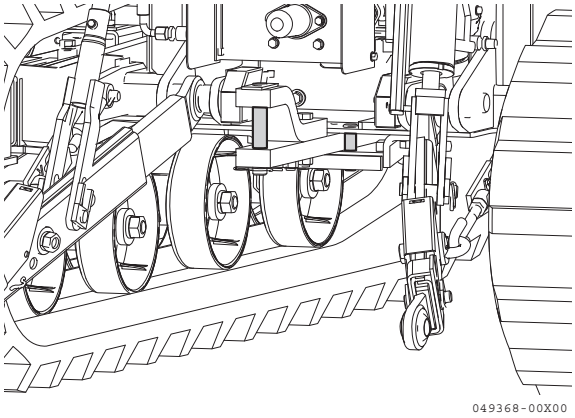
左右の調節

振れ止めピンを抜いて調節してください。



PTO駆動とけん引作業を併用

PTO駆動とけん引作業を併用する場合は、スイングドローバは中央の位置でセットして、使用してください。



15.フロントウエイトについて

⚠警告

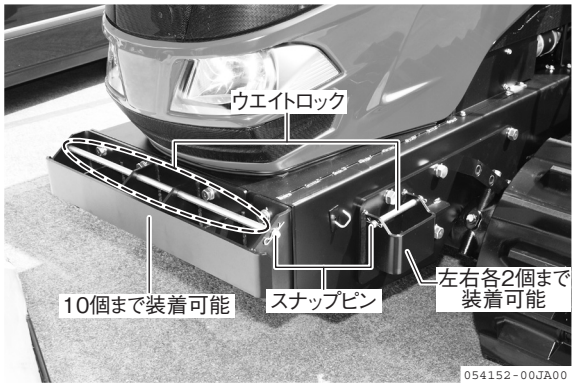
- **トラクターの後部に重い作業機を装着したときは、フロントバンパーにフロントウエイトを取り付けてバランスを保ってください。前部が軽くなりすぎると、ハンドル操作が難しくなり転倒するおそれがあります。**
- **フロントウエイトを付けても適切なバランスが保てないような重い作業機は使用しないでください。**

このトラクターには、30kg のフロントウエイト（別売）14 個を付けることができます。装着する作業機に応じて、フロントウエイトを取り付けてください。

品　名	フロントウエイト
型　式	BW-30MT
コードNo.	32101-50271

フロントウエイトの取り付けかた

フロントウエイトをバンパーに引っかけて、ウエイトロックを差し込み、スナップピンで固定してください。



16.作業機の取り扱いについての注意事項

⚠警告

- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の着脱は、平たんで安定した場所で、行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。
- 重い作業機を装着した場合には、フロントウエイトを付けて、バランスを保ってください。
- 作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、PTO駆動スイッチが「切」、PTO 変速レバーが「中立」位置にあることを確認してから行ってください。
- けん引作業をするときは、必ずドローバヒッチを使用してください。
- 作業機によっては、かなりの長さになりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- フロントウエイト代わりに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のフロントウエイトを使用してください。
- フロントドーザー作業時は、後方に作業機を付けるなどして前後バランスを保ってください。
- 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。
  守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

- PTO軸を使用しないときは、PTO軸の安全カバーを必ず取り付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
- 作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故を起こすおそれがあります。

9章　作業後の手入れと格納について

1. 作業後の手入れ

⚠警告

シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してからかけてください。
守らないと、火災を起こすおそれがあります。

⚠注意

- **点検・整備や修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。**
  守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。
- **点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。**

使用後はトラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリス注入部（グリスニップル）には、グリスアップを行ってください。

[重要]

- **電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。特に、ボンネット前部のフロントスクリーン内部への直接放水はさけてください。故障の原因となります。**
- **キャビンを洗車する場合、高圧洗浄機を使用してキャビンへの直接放水をすると、キャビン内へ水が漏れる場合がありますのでさけてください。**



201418B

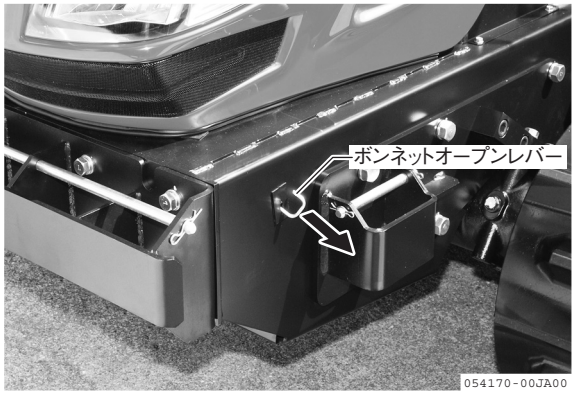
2. ボンネットの開閉のしかた

⚠注意

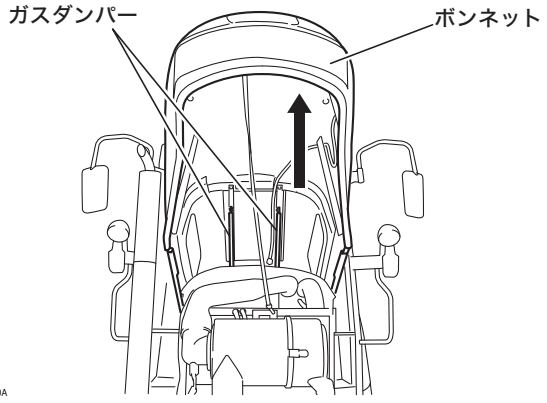
- **ボンネットを開けて点検する場合は、ボンネットとフロントマスクが同時に開きますので、頭などぶつけないよう十分注意してください。**
- **ガスダンパの力が弱くなると、ボンネットが自動で上がらなくなったり、自然落下するおそれがあります。**
  このような現象が発生したら、購入先に連絡し点検・整備を受けてください。
  ボンネットの落下によりケガをするおそれがありますので、十分注意してください。

〈ボンネットの開けかた〉

1. ボンネットオープンレバーを引っ張ると、ボンネットのロックが解除されます。



2. 両手でボンネットを持ち上げると、ガスダンパにより自動的に上がります。

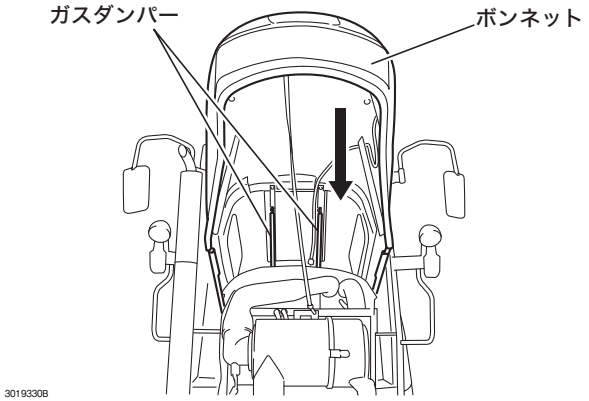


〈ボンネットの閉めかた〉

⚠注意

ボンネットを閉める場合は、ボンネットで指をはさまないよう十分注意してください。

1. ボンネットを引いて、ボンネットを降ろします。



2. ボンネット前方上面を両手で「カチッ」と音がするまで強く押します。
3. ボンネットを閉めた後、上に持ち上げて、ボンネットが確実にロックされているか確認します。

3. 長期間使用しない場合の手入れ

⚠警告

格納する場合は、バッテリーを外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、電気配線被覆の劣化による漏電で火災事故を起こすおそれがあります。

トラクターを長期間使用しない場合は、つぎの要領で整備し、格納してください。

1. バック上昇機能を「切」にします。
2. 長期間保管の場合は、必ずキーを抜き取ります。
3. 乾燥した風通しのよいところへ保管します。

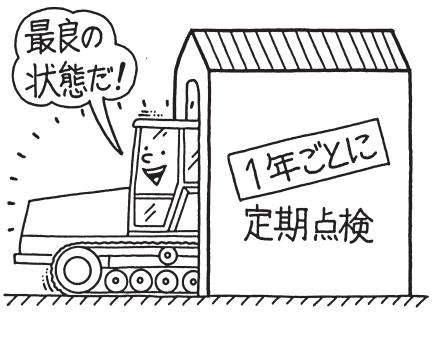


4. ウエイトなどは外し、作業機も外すか、降ろした状態にして、下に板を敷きます。
5. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ります。
6. 燃料タンクに燃料を満タンにします。空にしておくと水滴ができ、さびの原因になります。ウォータセパレータはOFF（閉の状態）にします。
7. バッテリーを完全充電し、本機から外し、風通しのよい冷暗所に保管します。
8. 冷却水を抜き取ります。
9. エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉します。
10. クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込んだ状態で駐車ブレーキロックをかけます。

[重要]

バッテリーは、使わなくても自然放電します。1か月に1度は充電器で完全充電してください。
（119～120ページ参照）

長期間使用されない間に、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



⚠警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平たんで安定した場所で、クローラに車止めをして行ってください。
  守らないと、転倒などの事故を起こすおそれがあります。
- コモンレールエンジンの不調は購入先にご相談ください。サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた販売店・JAまでご連絡ください。守らないと、整備不良による機械の故障、また高圧燃料による傷害事故のおそれがあります。

⚠注意

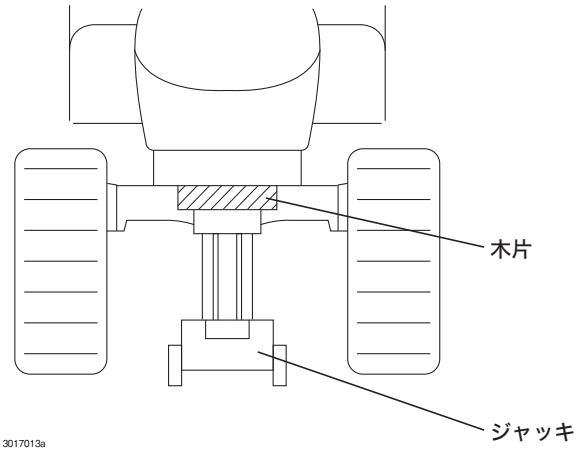
- 点検・給油・オイル補給・注油・整備をするトラクターは、
  1. 交通の危険がなく、平たんで安定した場所に止めます。
  2. 作業機を降ろします。
  3. 主変速レバー・PTO変速レバーを「N」(中立)、PTO駆動スイッチ「切」位置にします。
  4. 駐車ブレーキをかけます。
  5. エンジンを止めて、キーを抜きます。
  6. クローラに車止めをします。

  以上の状態にし、周囲の安全を確認してから作業してください。
- 点検・整備などで外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。
  守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。
- マフラーやエンジン、ミッションなどの過熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。
  守らないと、ヤケドをするおそれがあります。
- 電装品の取り外し、取り付け時には、バッテリーのマイナス端子を外してから作業を行ってください。守らないと、電装品やハーネスが破損・焼損することがあります。

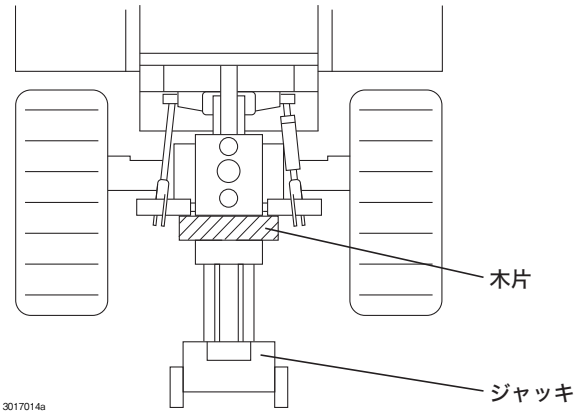
⚠注意

- 点検・整備の際にジャッキアップするときは、地面が固く、平たんな場所で、必ず2トン以上の容量のあるジャッキを使用してください。
- ジャッキアップする際には、前側または後側のいずれかをジャッキアップしてください。同時にジャッキアップすると転倒するおそれがあります。

前方:フロントウエイトブラケット下部



後方:リヤフレーム下部



[重要]

ジャッキアップするときは、必ず木片などを置いてジャッキアップしてください。

⚠警告

ブロック、木片などによる支持や、ジャッキだけで支持している機械の下では絶対に作業しないでください。

定期点検･整備について

定期点検や整備を農閑期に行うと、つぎの農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために､1年ごとに販売店またはJAの整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

パイプ･ホース･電気配線類の点検･交換

燃料パイプや､ラジエータホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は50時間ごと、または1年ごと（どちらか早いほう）に点検して、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

廃油処理について

オイル交換で出た廃油は､河川や下水道､溝､空き地などに絶対に捨てないでください｡環境汚染につながります。
廃油の処分は､販売店またはJAにご相談ください。

冷媒ガス(フロン類)の処理について

- **フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられていますので絶対にしないでください。**
- **冷媒ガス（フロン類）は、回収が必要です。廃棄する場合は、専門の業者に引き取ってもらってください。**

使用冷媒 （クーラガス）	フロン　R-134a
充填量	1000g

不凍液の処理について

交換した不凍液は、河川や下水道、溝、空き地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。廃棄する場合は、販売店またはJAにご相談ください。

バッテリーの処理について

環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

1. 定期点検･整備一覧表

- 下記の定期点検個所に従って、定期点検を行ってください。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた販売店・JAにご相談ください。

項目	日常点検	区分	アワメータ表示時間													参照ページ
			50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	450時間	500時間	550時間	600時間	それ以降	
エンジンオイル	量および汚れ	交換	◎			○				○				○	200時間ごと	105
強制デフオイル		交換	◎									○			500時間ごと	106
トランスファーミッションオイル	量	交換	◎			○				○				○	200時間ごと	107
作動油		点検		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	107
		交換													1000時間ごと	107
PTOミッションオイル	量	交換	◎					○						○	300時間ごと	108
エンジンオイルエレメント		交換	◎							○					400時間ごと	108
トランスファーミッションオイルフィルター		洗浄	◎			○				○				○	200時間ごと	109
作動油吸入フィルター		交換										○			500時間ごと	109
作動油戻しフィルター		洗浄													1000時間ごと	110
HSTラインフィルター		交換													1000時間ごと	110
PTOミッションオイルフィルター		洗浄	◎					○						○	300時間ごと	111
ウォータセパレータ　※1		洗浄	◎	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	112
ウォータセパレータエレメント		交換						○						○	300時間ごと	112
燃料コシ器エレメント		交換						○						○	300時間ごと	112
冷却水	量	交換	1年ごと													116
ラジエータ内部		洗浄	冷却水交換時													114
ラジエータスクリーン		掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	114
エアクリーナエレメント		掃除	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		50時間ごと	118
		交換						○						○	300時間ごと	118
冷却ファン･ラジエータ		掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	
バッテリー液量点検	量		始業時ごとに点検													119
バッテリー補充電				○		○		○		○		○		○	100時間ごと	119
ラジエータホース	水漏れ	交換	2年ごとに交換													
燃料パイプ	燃料漏れ	交換	2年ごとに交換													121
電気配線		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	122
各部グリスアップ		注入	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	122
重要ボルトナット(増締)		点検	○	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	
クローラ	点検	調整	始業時ごとに点検													124
クラッチ(ブレーキ)ペダル	作動確認	調整	始業時ごとに点検													126
ハンドル	作動確認		始業時ごとに点検													126
主変速レバー	作動確認		始業時ごとに点検													126
冷却ファンベルト	適正張り強さ	調整	○	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	128
ヒューズ スローブローヒューズ		点検	始業時ごとに点検													130

◎ 50時間目または、1年目のどちらか早いほうで交換してください。

※1: 点検時間以前であっても、エコビューに「油水分離器を確認」の警報画面が表示された場合は、水抜き･洗浄を行ってください。
※2: 50時間ごとを基準としますが、使用時間が満たない場合は1年ごとに行ってください。
※3: ホコリの多い場所での作業時は、50時間ごとに行ってください。

○:点検

点検・調節個所	日常点検	区分	アワーメータ表示時間													参照ページ
			50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	450時間	500時間	550時間	600時間	それ以後	
内気吸入口フィルターの掃除・交換 ※1		交換												○	600時間ごと	113
		掃除				○				○					200時間ごと	
外気導入口フィルターの掃除・交換 ※2		交換						○						○	300時間ごと	114
		掃除		○		○				○		○			100時間ごと	
ウォッシャータンクのウォッシャー液	量		始業時ごとに点検													118
コンデンサスクリーン	掃除	掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	116
コンデンサ ※3		掃除		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	116
温水配管	水漏れ	交換	1年ごと													
コンプレッサ駆動ベルト	適正張り強さ	調整	○	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	127

※1、※2　内気吸入口フィルターおよび外気導入口フィルターは、使用時間にかかわらず2年ごとに交換してください。
※3　ホコリの多い場所での作業時は、50時間ごとに行ってください。

2. 推奨オイル・グリス・不凍液一覧表

	純正オイル	一般販売店の相当オイル	
		JX日鉱日石エネルギー(ENEOS)	コスモ石油
燃　料	ー	ディーゼル軽油	
エンジンオイル	ー	ディーゼルエンジン用 API分類　CF,CF-4,CI-4級 気温-10℃を超えるとき:SAE10W-30 気温-10℃以下のとき:SAE5W-30	
グリス(マルチパーパスタイプ)	ー	エピノックグリースAP2	コスモグリースダイナマックスEP2
不凍液 JIS K2234 2種 パーマネントタイプ	ー	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT(ゴールド、シルバー)
ミッションオイル	TF500トランスミッションフルード	ー	
作動油	ー	スーパーハイランド 46	コスモハイドロ AW46

注)気温ー5℃以下のとき、燃料は3号軽油または特3号軽油を使用してください。

3. 給油・給水一覧表

項　目		GCR1010	種類
燃　料	(L)	160	ディーゼル軽油
冷却水	(L)	10	清水・不凍液(パーマネントタイプ)
エンジンオイル	(L)	10	SAE5W-30または10W-30(API分類、CF級以上)
強制デフオイル	(L)	23	TF500トランスミッションフルード
トランスファーミッションオイル	(L)	2.5	TF500トランスミッションフルード
作動油	(L)	70	スーパーハイランド46またはコスモハイドロAW46
PTOミッションオイル	(L)	7	TF500トランスミッションフルード
トラックローラ	(L)	各0.1	TF500トランスミッションフルード(エンジンオイルでも可)
アイドラ	(L)	各0.2	

4. 燃料の点検･補給のしかた

⚠危険

- **燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。**
- **燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。**
- **エンジンが回転しているときや、エンジンが熱い間は、絶対に給油しないでください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。**

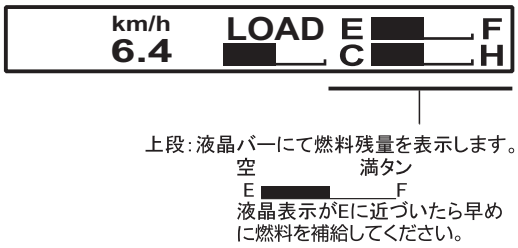
〈点検のしかた〉

キースイッチを「ON」位置にして、エコビューの燃料表示を確認してください。

液晶表示が E に近づいたら早めに燃料を補給してください。

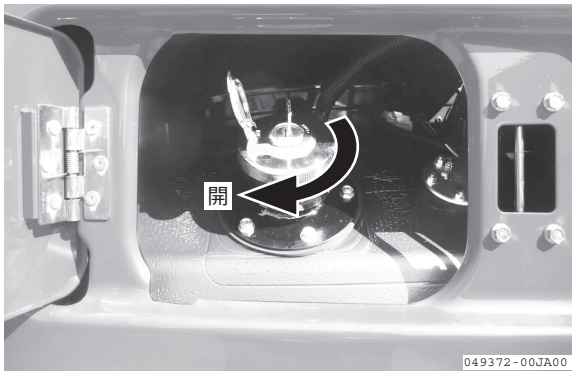
また、エコビューに

燃 料 を 給 油 の表示がされた場合は、すぐに燃料を補給してください。



〈補給のしかた〉

燃料キャップのキーを「開」位置にし、燃料キャップを外して、給油口から燃料を補給してください。



[参考]

- キースイッチが「ON」位置のとき、燃料が満タン近くになると警報ブザーが鳴り、お知らせします。
- 燃料キャップのキーは専用キーです。エンジンスタートのキーやキャビンのドア開閉キーは使用できません。

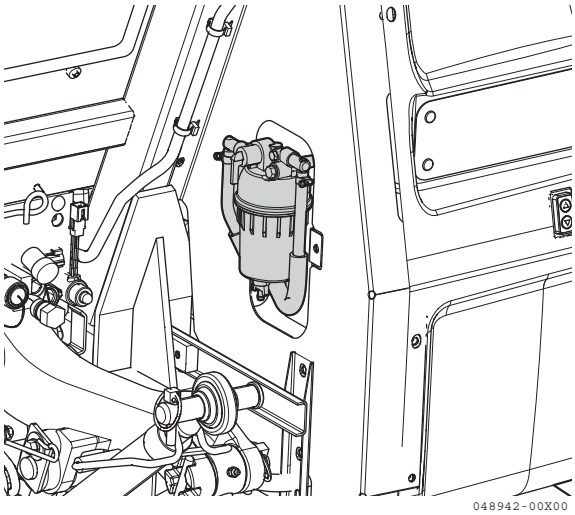
[重要]

- **燃料は市販のディーゼル軽油をそのまま使用し、添加物等を加えないでください。添加物等で燃料噴射ノズルが目詰まりを起こし、エンジン出力が低下するおそれがあります。**
- **トラクターが傾いた状態では、実際の燃料残量とエコビュー表示時の残量が一致しない場合があります。残量点検は平たんな場所で行ってください。**
- **給油口に付いているこし網を外して、燃料補給は絶対しないでください。**
- **この機械のエンジンは排ガス規制対応のため燃料噴射部品に精密部品を使用しています。**
  使用燃料を保管する場合は亜鉛メッキ鋼板の容器のご使用はさけ、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛または鉛物質が溶け出すとエンジン不調の原因になる場合があります。
- **燃料補給時は、水分が混入しないように注意してください。特に外部タンクで燃料を保管している場合、タンク下部に水分がたまっている場合がありますので注意してください。**

5. 燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料切れを起こし、エンジンが停止したとき、または、点検整備でウォータセパレータのコシ器、燃料コシ器エレメント、燃料配管を外したときは、つぎの手順で燃料の空気（エア）抜きをしてください。

1. 燃料タンクに燃料を補給します。
2. 燃料コックを「ON」(開の状態)の位置にします。



3. アクセルレバーを最高回転位置にし、キースイッチを「START」(始動の位置）にして、セルモータを約10秒間回します。
4. 以上で空気（エア）抜きは完了です。

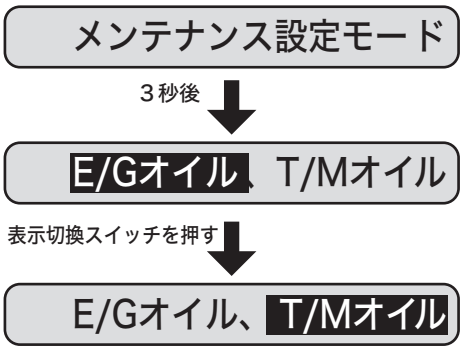
6. メンテナンスモード

エコビューにてエンジンオイル、ミッションオイル交換時間をリセットすることができます。
エコビューがオイル交換を表示したが、すぐに交換できなかった場合や、表示中にリセットすることができなかったときに、有効です。

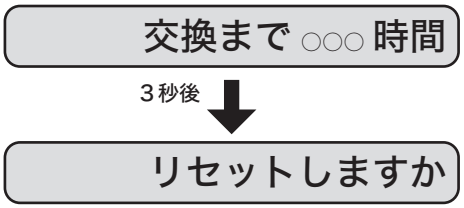
1. キー ON時、表示切換スイッチを押して「メンテナンス設定」を表示します。
   (エンジンは始動しないでください)



2. 表示切換スイッチを３秒以上長押しすると「メンテナンス設定モード」と３秒間表示され、「E/Gオイル、T/Mオイル」と表示され、E/Gオイルが反転します。
   表示切換スイッチを押すとT/Mオイルが反転します。



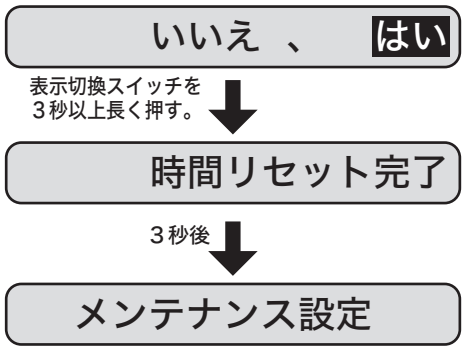
3. リセットしたい項目が反転された状態で表示切換スイッチを３秒以上長押しすると「交換まで○○○時間」が３秒間表示され、その後「リセットしますか」が３秒間表示されます。



4. その後、「いいえ、はい」を表示し、「いいえ」が反転されます。



5. 表示切換スイッチを押すと「はい」が反転されます。
6. 「はい」が反転されている状態で表示切換スイッチを３秒以上長押しすると、交換までの時間をリセットすることができます。
7. リセットが完了すると「時間リセット完了」が３秒間表示され、「メンテナンス設定モード」の画面に戻ります。



8. 定期点検に示される時間間隔を表示し、以後交換するまでの時間が0時間になるとエンジンオイルやミッションオイル交換の表示を行います。

[参考]

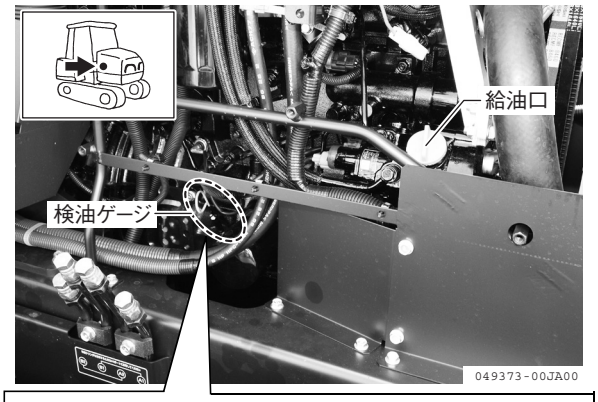
エコビューの「T/Mオイル」の表示はPTOミッションオイルを示します。

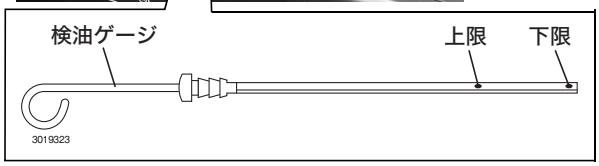
7. エンジンオイルの点検･交換のしかた

点検	日常点検
交換	1回目：50時間目 または1年目（どちらか早いほう） 2回目：200時間目 3回目以降：200時間ごと

〈点検のしかた〉

1. エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふきます。
2. 検油ゲージを差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。
3. 不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れます。

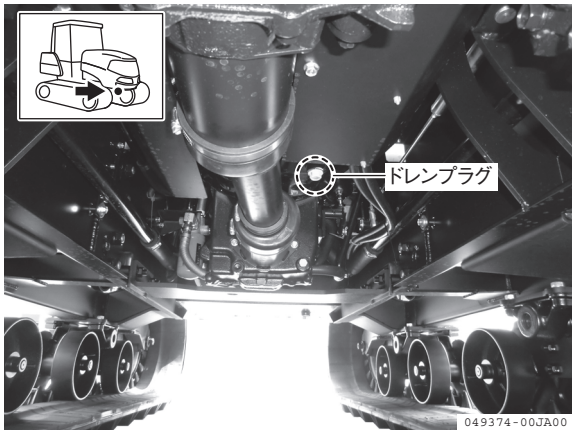




[重要]

- **点検するときは、トラクターを水平な場所に置いてください。傾いていると、正確な量が確認できません。**
- **オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。**

〈交換のしかた〉
エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。

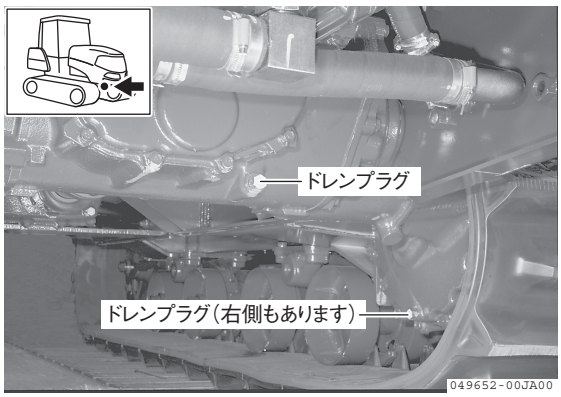


[参考]
エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせて種類を使いわけることが大切です。

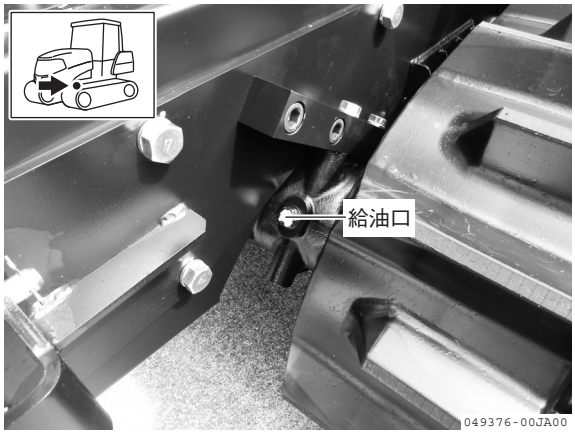
8. 強制デフオイルの交換のしかた

交換	1回目:50時間目 または1年目(どちらか早いほう) 2回目:500時間目 3回目以降:500時間ごと

〈交換のしかた〉
フロントミッションアクスルケース下部のドレン（3ケ所）から排油してください。



給油は、給油口まで給油してください。

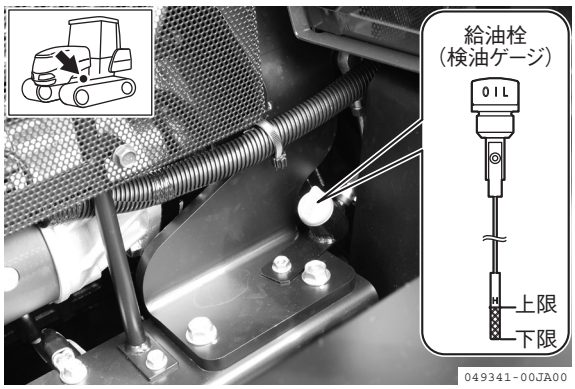


9. トランスファー(副変速)ミッションオイルの点検･交換のしかた

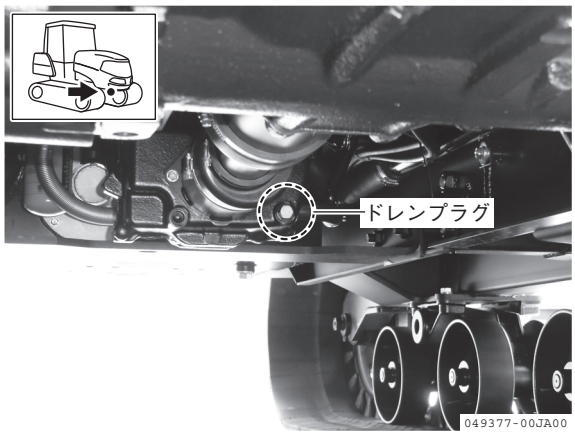
点検	日常点検
交換	1回目:50時間目 2回目:300時間目 3回目以降:300時間ごと

〈点検のしかた〉
エンジン左横の給油栓（検油ゲージ）を抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。

〈補給のしかた〉
不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。



〈交換のしかた〉
ミッション下部のドレンプラグから排油してください。給油は、給油口から規定量給油してください。

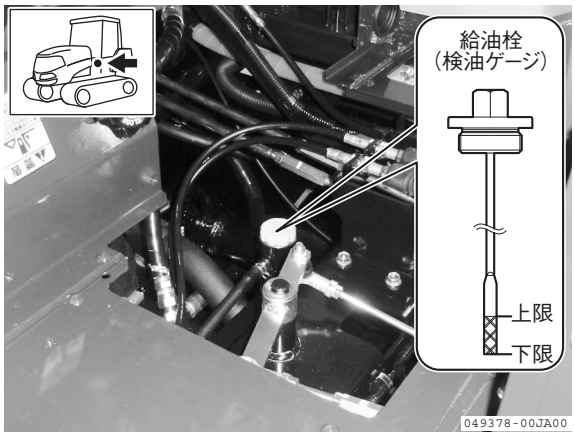


10.作動油の点検･交換のしかた

点検	100時間ごと
交換	1000時間ごと

〈点検のしかた〉
フロア下の給油栓（検油ゲージ）を抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上端と下限の間にオイルがあるか調べます。

〈補給のしかた〉
作動油タンクの給油栓を外し、規定量まで補給してください。

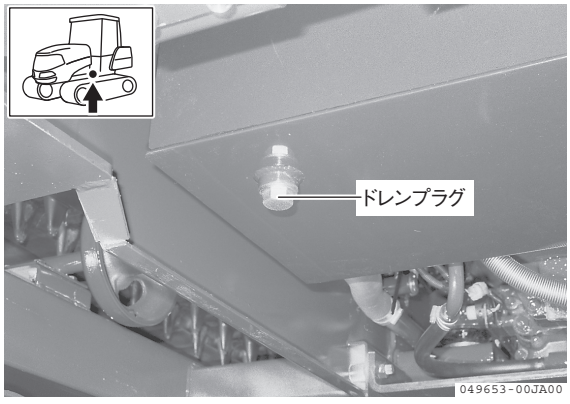


〈交換のしかた〉
作動油タンク下部のドレンプラグを外して行います。プラグに付着した鉄粉等も取り除きます。
暖かいうちに行うとスムーズにできます。

〈規定量〉

タンク容量	65L
全容量	70L

※全容量とは油圧系統のすべてを含みます。



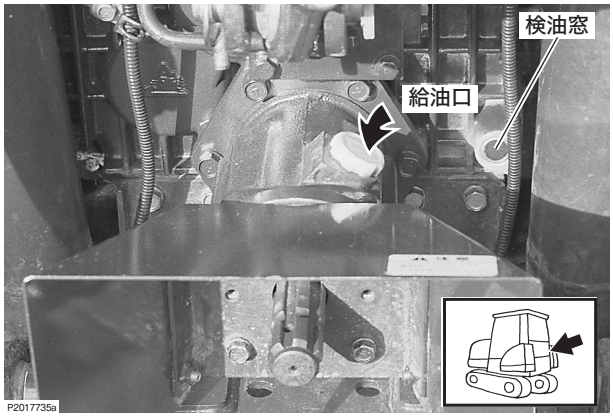
11.PTOミッションオイルの点検・交換のしかた

点検	日常点検
交換	1回目:50時間目 2回目:300時間目 3回目以降:300時間ごと

〈点検のしかた〉

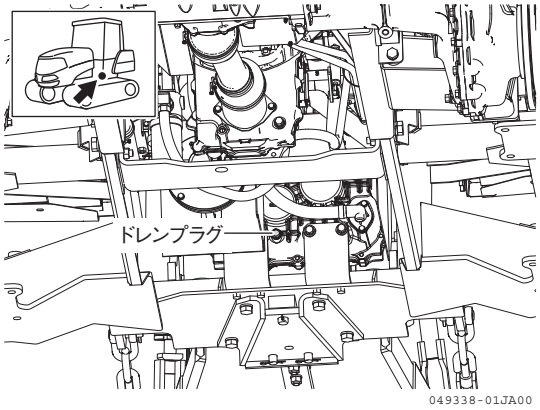
ミッション後部にある検油窓で、オイルがあるか確認してください。

不足しているときは給油口より給油窓にオイルが見えるまで給油してください。



〈交換のしかた〉

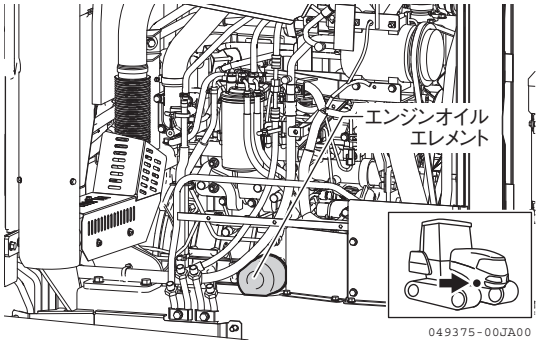
ミッション下部のドレンプラグから排油してください。給油は、ミッション給油口から規定量給油してください。



12.エンジンオイルエレメントの交換のしかた

交換	1回目:50時間目 または1年目(どちらか早いほう) 2回目:400時間目 3回目以降:400時間ごと またはエンジンオイルを2回交換ごと

400 時間または、エンジンオイルを 2 回交換ごとに、同時にオイルエレメントを取り替えてください。



〈交換のしかた〉

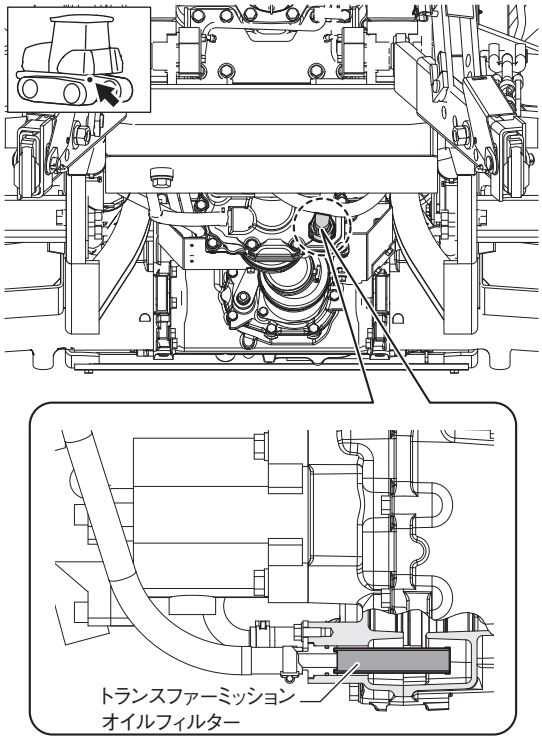
1. エンジンオイルを抜き取ります。(105ページ参照)
2. カートリッジをフィルターレンチで左側に回して外します。(反時計方向)
3. 新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄く塗り、手で確実に取り付けます。
4. エンジンオイルを給油します。
5. エンジンを始動して、約5分程度低速回転で回します。
6. エンジンを停止し、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば、補給します。

13.トランスファー(副変速)ミッション オイルフィルターの交換のしかた

洗浄	1回目:50時間目 2回目:200時間目 3回目以降:200時間ごと

〈交換のしかた〉

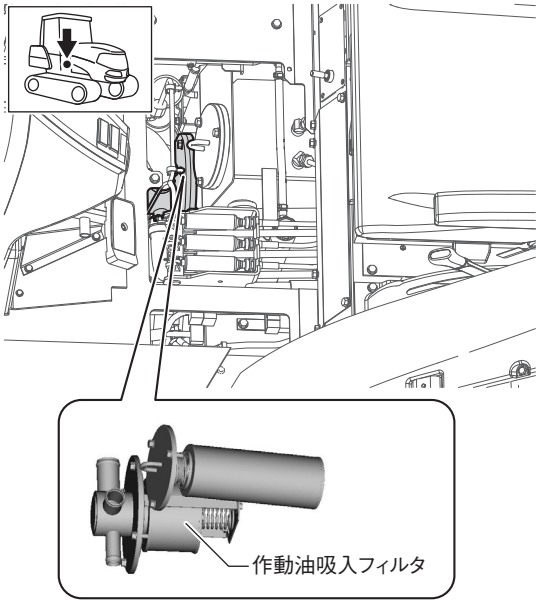
1. トランスファーミッションオイルフィルターは、ドレンプラグの反対側にあります。
2. ミッション下部のドレンプラグを外して、排油します。
3. フィルターを取り外し新しいフィルターを確実に取り付けます。
   ※フィルター交換時は油が出るので、フィルター下方に油受けを準備してください。



14.作動油吸入フィルターの交換 のしかた

交換	500時間ごと

作動油タンク内に取り付けてあります。フタを外し、新品のフィルターと交換してください。

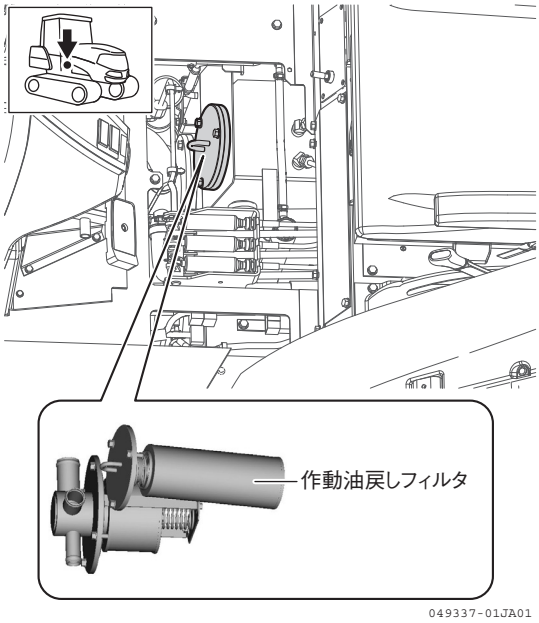


[重要]

- フタを外すときは、フィルターを押さえているスプリングによりフタが飛ぶことがありますので、ボルトを徐々にゆるめて外してください。
- フィルターを外す前に付近のカバー類、取付部をきれいに清掃します。
- 組み付ける前にOリングにキズがないか十分チェックし、損傷があるものは交換します。
- タンク内にごみ等が入らないように注意してください。
- フィルター取付時、フィルターにキズを付けないように取り扱いは、十分注意してください。

15.作動油戻しフィルターの洗浄のしかた

洗　浄	1000時間ごと



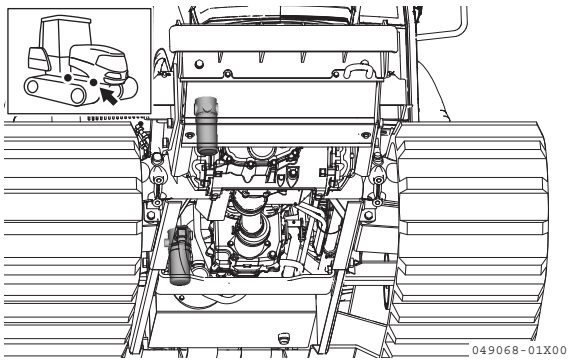
[重要]

- フタを外すときは、フィルターを押さえているスプリングによりフタが飛ぶことがありますので、ボルトを徐々にゆるめて外してください。
- 吸入フィルターの洗浄は、作動油交換と同時に行ってください。
- 吸入・戻しフィルターは作動油中のごみ、鉄粉等不純物を取り除き、作動油を常に清潔に保って、油圧機器の故障を防ぎ、寿命を長くする上で重要な部品です。取り扱いに十分注意し、洗浄交換を励行してください。
- フィルターを外す前に付近のカバー類、取付部をきれいに清掃します。
- 組み付ける前にOリング・パッキン等にキズがないか十分チェックし、損傷があるものは交換します。
- タンク内にごみ等が入らないように注意してください。
- フィルター取付時、フィルターに傷付けないように取り扱いは、十分注意してください。

16.HSTラインフィルターの交換のしかた

交　換	1000時間ごと

HST ラインフィルターの交換は、作動油交換と同時に行ってください。



1. 作動油タンクのドレンプラグを外して、排油します。（107ページ参照）
2. フィルターを矢印方向に回して外し、新しいフィルターの底面にあるゴムリングにオイルを薄く塗り、確実に取り付けます。
   ※フィルター交換時は油が出るので、フィルター下方に油受けを準備します。

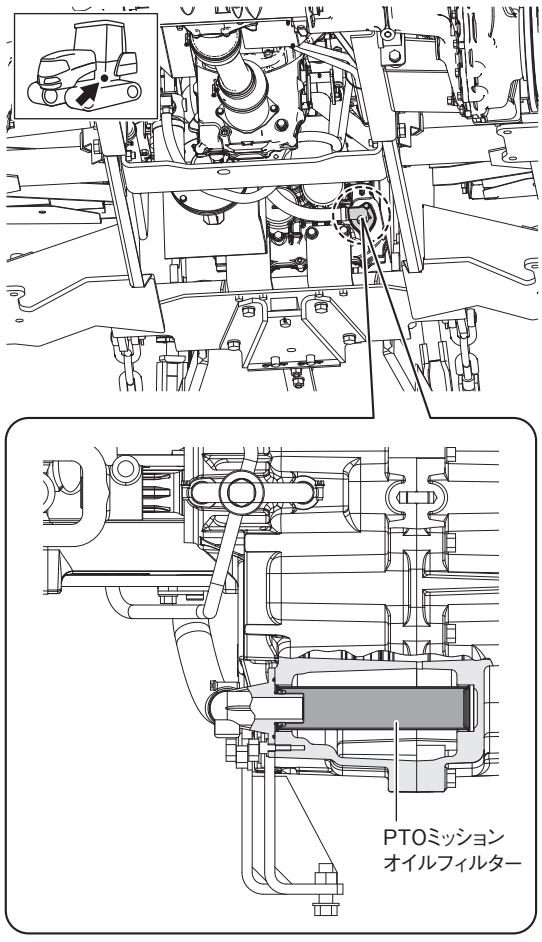
[重要]

- フィルターを外す前に、取付部をきれいに清掃してください。
- 組み付ける前にOリング・パッキン等にキズがないか十分チェックし、損傷のあるものは交換します。
- フィルター取付時、フィルターにキズを付けないように、取り扱いは十分注意してください。
- フィルター取付面や配管部から油漏れ、にじみがないか必ず点検してください。

17.PTOミッションオイルフィルターの洗浄のしかた

洗　浄	1回目:50時間目 2回目:300時間目 3回目以降:300時間ごと

ミッションオイルフィルターの洗浄は、ミッションオイル交換と同時に行ってください。



〈交換のしかた〉

1. PTO ミッション下部のドレンプラグよりミッションオイルを排油します。
   (108ページ参照)
2. ミッションオイルフィルターを外し、洗浄油などで洗浄します。
3. Oリング部に油を薄く塗り、元のように取り付けます。

[重要]

- フィルターを外す前に、付近のカバー類、取付部をきれいに清掃してください。
- 組み付ける前にOリング・パッキン等にキズがないか十分チェックし、損傷があるものは交換してください。
- タンク内にごみが入らないように注意してください。
- フィルター組付時、フィルターにキズを付けないように取り扱いは、十分注意してください。
- 交換時に漏れた油は、十分に洗浄してください。

18.ウォータセパレータエレメントの点検･水抜き･掃除･交換、燃料コシ器エレメントの交換のしかた

水抜き･洗浄	1回目:50時間目 2回目:100時間目 3回目以降:100時間ごと

[重要]

- ウォータセパレータを上記の表に従って定期的に点検し、水がたまっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。守らないと、サプライポンプまたはインジェクタが焼き付くおそれがあります。
- ウォータセパレータに多くの水がたまっている場合は、エンジンを始動せず、購入先に連絡して点検・整備を受けてください。サプライポンプまで水が浸入しているおそれがあります。

〈点検のしかた〉

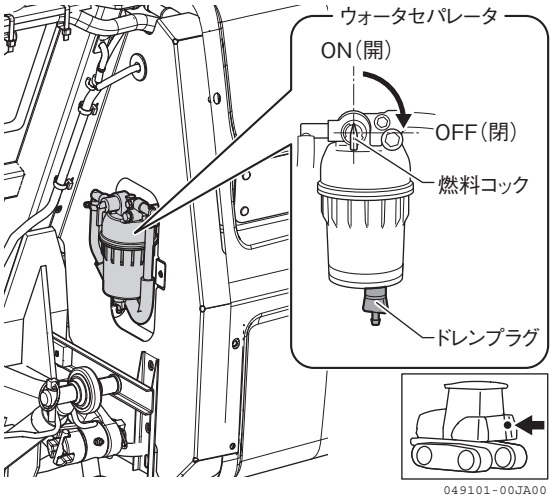
右燃料タンクの内側にウォータセパレータ（油水分離器）があります。上の表に従って定期的に点検します。特にエコビューに下の警報画面が表示された場合は、ウォータセパレータに水がたまっていますので、速やかに中の水を抜きます。



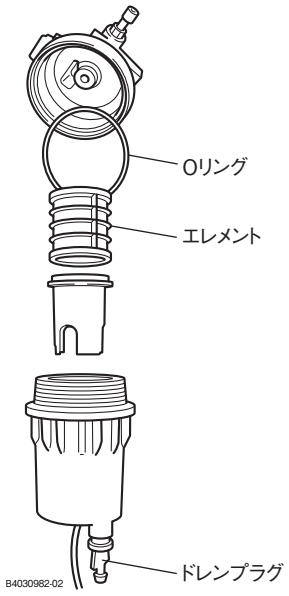
p40_97

〈水抜き･清掃のしかた〉

1. 燃料コックを「OFF」(閉の状態) 位置にします。



2. ウォータセパレータ最下部のドレンプラグを回し、中の燃料と水をすべて抜きます。
3. 汚れがひどい場合はウォータセパレータのコシ器を外し、コシ器内のごみを取り除きます。
4. コシ器の洗浄が終わったら元通りに取り付け、燃料コックを「ON」(開の状態) 位置にし、キースイッチを5～10秒程度「入」位置にすると、燃料のエア抜きが完了します。

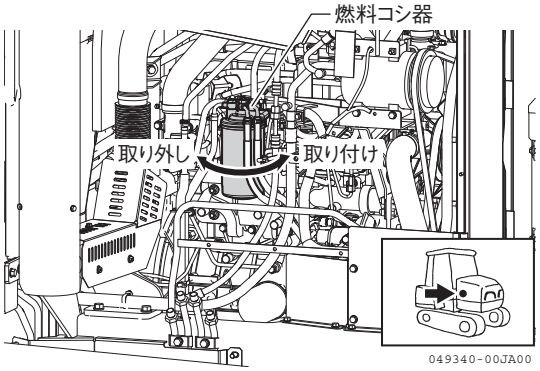


〈交換のしかた〉
コシ器内のエレメントは、300時間ごとに交換が必要です。
要領は、掃除のしかたと同じです。前記3.のときに、エレメントを交換してください。

燃料コシ器エレメント（カートリッジ）	交換	300時間ごと

燃料コシ器エレメントは、上記の表に従って、定期的に交換してください。守らないと、エンジン出力が低下するおそれがあります。

〈燃料コシ器エレメントの交換のしかた〉
燃料コシ器はカートリッジタイプになっています。交換は、新しいカートリッジのゴムリングにオイルを薄く塗り、確実に取り付けてください。

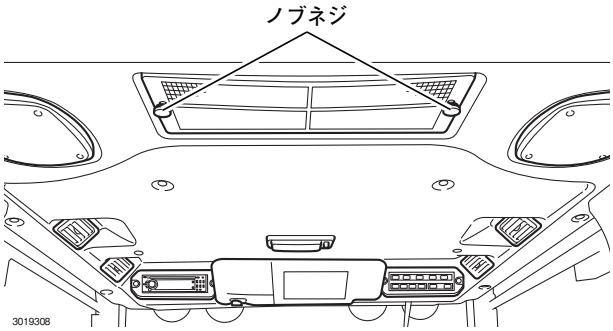


[重要]
燃料コシ器エレメント交換を燃料タンクが満タン状態のときに行うと、燃料が出るおそれがあります。燃料の量が1/2以下のときに行ってください。

19.内気吸入口フィルターの掃除・交換のしかた

清掃	200時間ごと
交換	600時間ごと

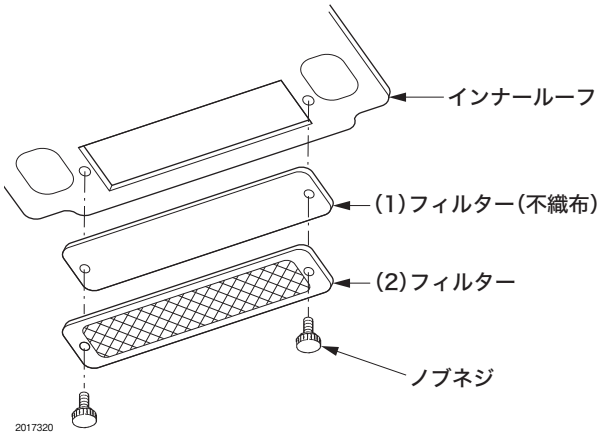
〈掃除のしかた〉
1. ノブネジをゆるめてパネルを外します。



2. 家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、上下左右に動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥します。

[重要]
洗浄に有機溶剤（ガソリン、トリクレン、シンナーなど）を使用しないでください。

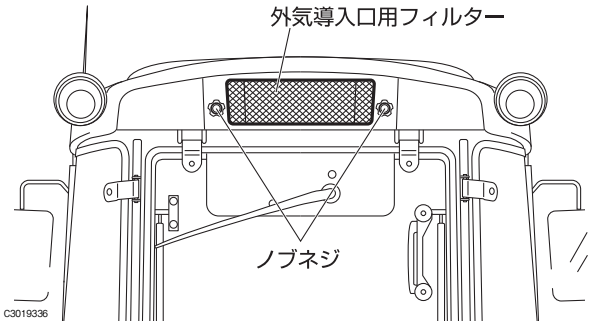
3. 汚れがひどい場合は、新しいフィルターと交換します。
4. 元通りに取り付けます。



20.外気導入口フィルターの掃除のしかた

清掃	100時間ごと
交換	300時間ごと

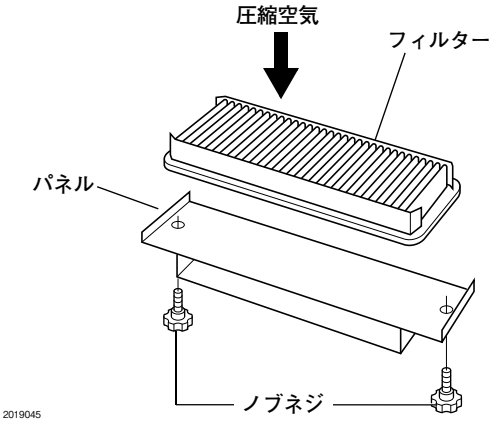
外気導入用のフィルターが汚れて目詰まりすると、外気導入時の吹き出し風量が少なくなります。



〈掃除のしかた〉

1. ノブネジ2個を外します。パネルとフィルターが外せます。
2. フィルター部を圧縮空気で汚れを落とします。
3. 汚れがひどい場合は、新しいフィルターと交換します。

※パネルに泥が付着している場合は、パネルを水洗いして乾かした後、取り付けてください。



[重要]

- フィルターは水洗いしないでください。
- フィルター部を圧縮空気で汚れを落とすときは、図の矢印方向（空気の流れる方向に対して逆方向）から圧縮空気を吹き付けてください。

21.ラジエータ・ラジエータスクリーンの点検・掃除のしかた

点検	日常点検

⚠警告

エンジンは必ず停止して、点検・掃除を行ってください。

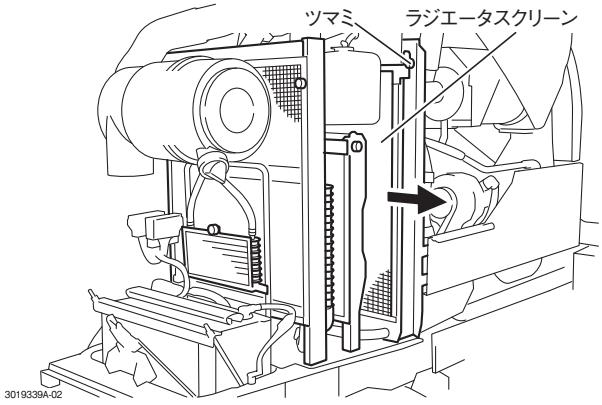
回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ラジエータやラジエータスクリーンに泥・ごみ・切り草が付着していると、冷却効果が低下しオーバーヒートの原因になります。作業前、作業後に点検し必要なら下記の要領で掃除してください。

〈掃除のしかた〉

作業前、作業後に掃除してください。

1. ボンネットを開けます。
2. 左上部のツマミを起こして回し、ラジエータスクリーンを横に引き出します。



3. やわらかいブラシを使用して、水で洗い落とします。
4. ラジエータのフィン（ラジエータスクリーンの奥側）にごみなどが付着した場合は、圧縮空気で取り除きます。

[重要]

ラジエータを圧縮空気で掃除するときは、フィンがつぶれないように注意してください。（フィンがつぶれた場合は、元に戻してください）。

フィンがつぶれると、冷却効果が低下します。

22.オイルクーラ･オイルクーラスクリーン･インタークーラスクリーンの点検･掃除のしかた

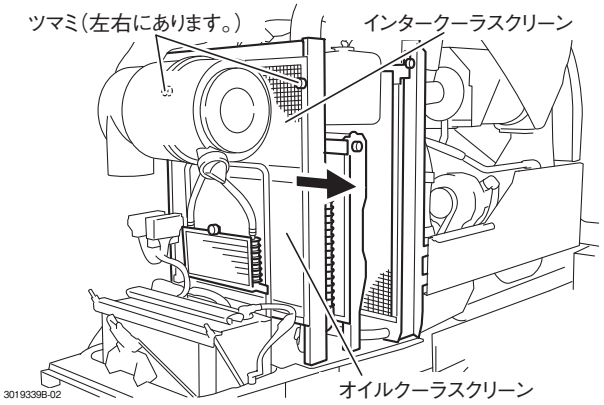
点検	日常点検

⚠警告

エンジンは必ず停止して､点検･掃除を行ってください。
回転部に巻き込まれたりして､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

オイルクーラ・インタークーラやオイルクーラスクリーン・インタークーラスクリーンに泥・ごみ・切り草が付着していると、冷却効果が低下し機械の不具合の原因になります。作業前、作業後に点検し必要なら下記の要領で掃除してください。

〈掃除のしかた〉
作業前、作業後に掃除してください。
1. ボンネットを開けます。
2. 左右上部のツマミを起こして回し､スクリーンを前方に引いて横に引き出します。



3. やわらかいブラシを使用して､水で洗い落とします。
4. オイルクーラ･インタークーラのフィンにごみなどが付着した場合は、圧縮空気で取り除きます。

[重要]
オイルクーラ･インタークーラを圧縮空気で掃除するときは､フィンがつぶれないように注意してください。(フィンがつぶれた場合は､元に戻してください)。フィンがつぶれると､冷却効果が低下します。

23.燃料クーラの点検･掃除のしかた

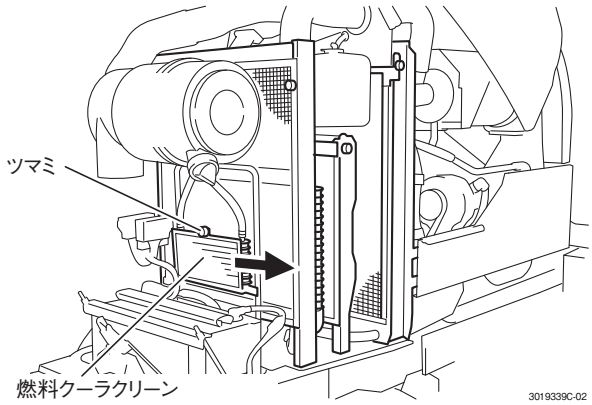
点検	日常点検

⚠警告

エンジンは必ず停止して､点検･掃除を行ってください。
回転部に巻き込まれたりして､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料クーラに泥・ごみ・切り草が付着していると、冷却効果が低下しエンジンの出力低下する原因になります。作業前、作業後に点検し必要なら下記の要領で掃除してください。

〈掃除のしかた〉
1. ボンネットを開けます。
2. 上部のツマミを起こして回し､スクリーンを前方に引いて横に引き出します。



3. やわらかいブラシを使用して､水で洗い落とします。
4. 燃料クーラに泥・ごみ・切り草が付着している場合は、やわらかい布や圧縮空気で取り除きます。

[重要]
燃料クーラを圧縮空気で掃除するときは､フィンがつぶれないように注意してください。(フィンがつぶれた場合は､元に戻してください。)
フィンがつぶれると､冷却効果が低下します。

24.コンデンサの点検･清掃のしかた

点検 掃除	日常点検

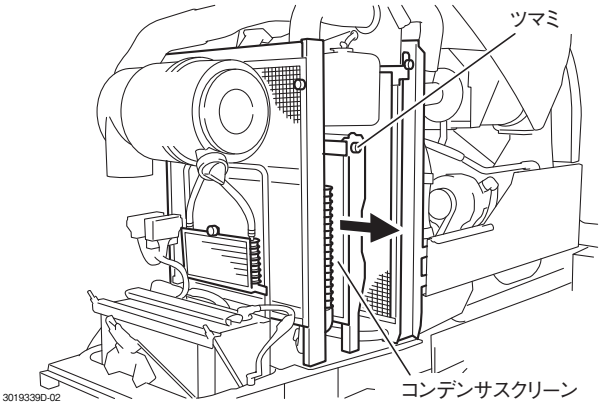
⚠警告

エンジンは必ず停止して､点検･掃除を行ってください。
回転部に巻き込まれたりして､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

コンデンサに泥・ごみ・切り草が付着していると、エアコン能力が発揮できません。下記の要領で清掃してください。

〈点検のしかた〉

1. コンデンサ横にあるツマミを起こして回し､コンデンサスクリーンを抜き出します。



2. 泥・ごみ・切り草が付着していないか点検します。

〈掃除のしかた〉

- 泥・ごみ・切り草が付着している場合は、コンデンサスクリーンを外して、やわらかいブラシを使用して水で洗い落とします。
- コンデンサのフィン（コンデンサスクリーンの奥側）にごみなどが付着した場合は、圧縮空気で落としてください。

[重要]

コンデンサを圧縮空気で掃除するときは､フィンがつぶれないように注意してください。
(フィンがつぶれた場合は､元に戻してください。)
フィンがつぶれると､冷房性能が低下します。

25.冷却水の点検･補給･交換のしかた

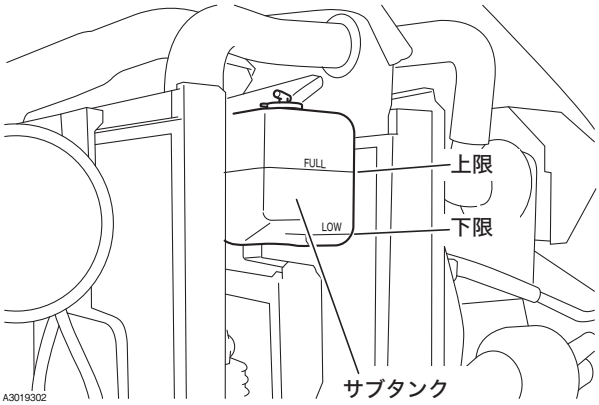
⚠危険

ラジエータキャップは､エンジン運転中や停止直後に開けないでください｡開けると熱湯が吹き出し､ヤケドするおそれがあります。
エンジン停止後､十分エンジンの冷えていることを確認して開けてください。

点検	日常点検
交換	1年ごとに交換

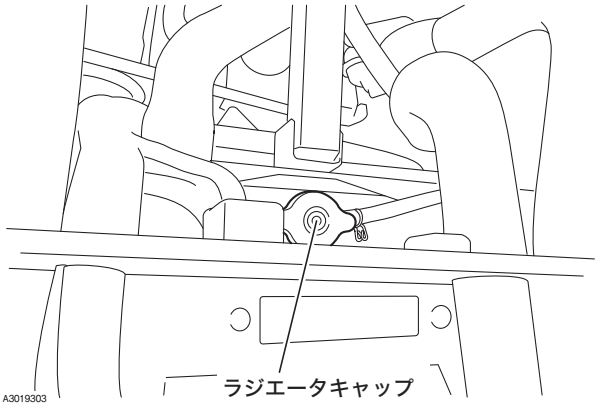
〈点検のしかた〉

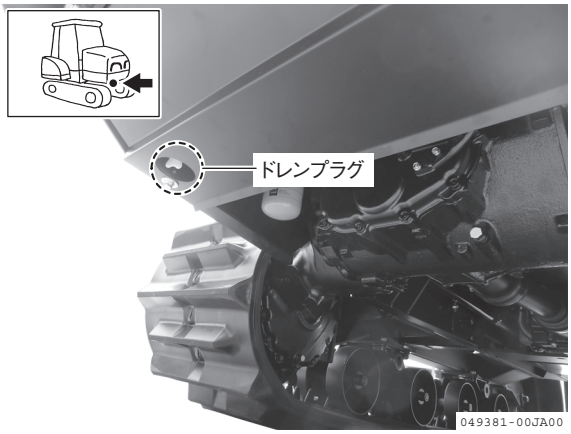
1. ボンネットを開けます。
2. サブタンク内の水が「上限」から「下限」の範囲にあるか調べます。
3. 不足しているときは､サブタンクの給水口より清水を補給します。



〈交換のしかた〉

1. ラジエータキャップとドレンプラグを外し､ラジエータの水をすべて抜きます。





2. 水道水で、ごみやさびが出なくなるまでラジエータ内部を洗います。

[参考]

ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15 分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいっそうきれいになります。

3. ドレンプラグを取り付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれない程度まで入れます。
4. ラジエータキャップを取り付けます。
5. エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

[参考]

新しい冷却水と交換するときは、防錆液を入れることをお勧めします。防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。

6. キャビン内のエアコンスイッチを「ON」にして、温度上昇スイッチを暖風側にして10～15分くらい空運転してから、エンジンを停止します。
7. エンジンが冷えてからラジエータキャップを開け、冷却水が口元まで水がないときは、給水口からあふれない程度まで清水を補給します。また、サブタンクにも規定量補給します。

〈不凍液の取り扱いについて〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。出荷時にはロイヤルフリーズ（オールシーズン）を使用しています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯等においては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。なお、工場出荷時は－30℃対応の不凍液混合比率としております。

外気温度(℃)		－15	－20	－24	－29
比率	水(%)	70	65	60	55
	不凍液(%)	30	35	40	45

(注) エチレングリコール(91%)不凍液での割合

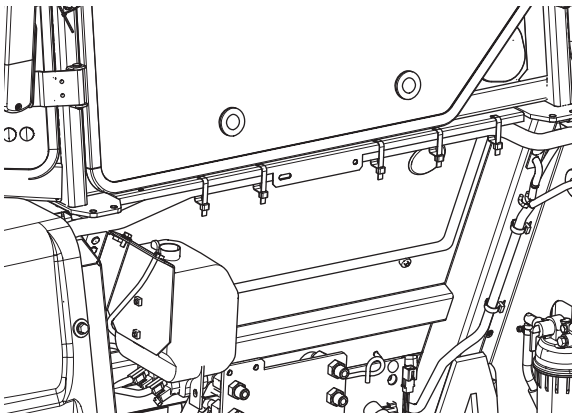
[重要]

- 混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。(セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。)
- 不凍液の有効期限は 1 年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

26.ウォッシャータンクの点検･補給のしかた

点検	日常点検

フェンダ後側（左側）に取り付けられています。ウォッシャー液が少なくなっている場合は、ウォッシャー液を補充してください。
タンク容量は約 2.0L です。水とウォッシャー液の割合は外気温度により異なりますので、ウォッシャー液の取扱説明書の指示に従ってください。



27.エアクリーナエレメントの掃除･交換のしかた

清掃	50時間ごと
交換	300時間ごと 規定時間になっていなくても1年間で交換

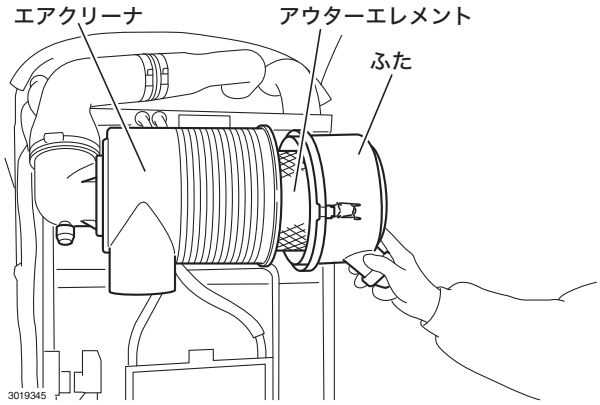
⚠注意

エアクリーナエレメントの掃除は作業前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。
マフラーやエレメントフックが高温になってヤケドをするおそれがあります。

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂ぼこりを取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。

〈掃除のしかた〉

1. ボンネットを開けます。
2. エアクリーナのフタを外し、中のアウターエレメントを抜き取り、エレメントの内側から空気を吹き付けるか、振動を与えてごみを落とします。

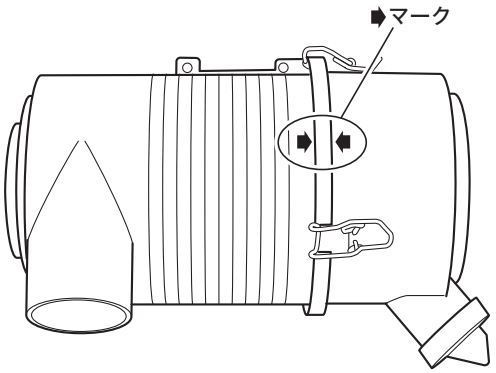


3. インナーエレメントは、アウターエレメントの3回目の交換に合わせて、交換します。

[重要]

- **インナーエレメントを掃除して、再使用しないでください。必ず新しい物と交換してください。**
- **フィンにキズを付けないように気を付けてください。**
- **インナーエレメントは交換時以外は外さないでください。**

4. エアクリーナのフタと本体の「➡」マークを合わせて、取り付けます。



3017031

28.バッテリーの点検･整備のしかた

点検	使用前

⚠危険

- バッテリーの点検時・充電時は火気厳禁です。
  守らないと、引火爆発し、ヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
  守らないと、服が破れたり、ヤケドを負うおそれがあります。

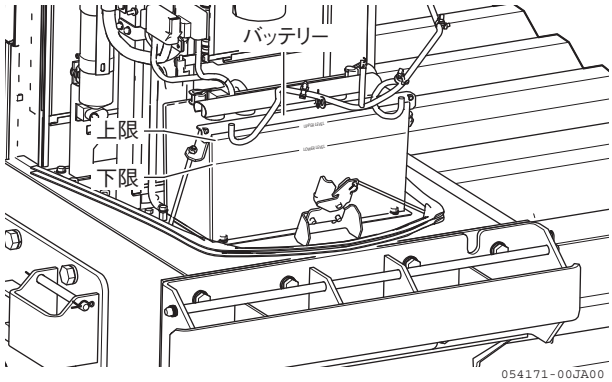
⚠警告

バッテリー液は、「 下限（LOWER）」以下にしないでください。
容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

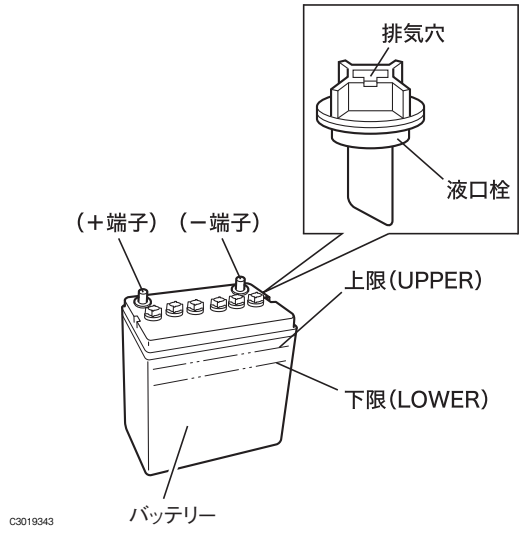
⚠注意

バッテリーケーブルの取り付けは「＋」側を先に取り付け、外すときは「－」側から外してください。
守らないと、ショートしてヤケドを負うおそれがあります。

〈点検のしかた〉
バッテリーの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限ラインまで補給してください。



054171-00JA00



[重要]

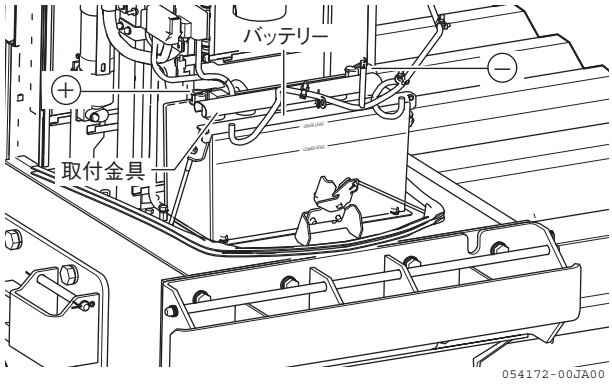
- バッテリー各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、トラクターの金属部を腐食させます。
- バッテリー液量が不足して、容器内の極板接続部が空気中に露出すると、バッテリーの劣化が促進します。バッテリー液量が不足している槽に、蒸留水を「上限（UPPER)」まで補給してください。
- 液口栓の排気穴をふさがないでください。排気穴をふさぐと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。
- 急速充電はさけてください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリーを使用してください。
- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

指定バッテリー
130E41L

バッテリーの取り外し･取り付けかた

〈取り外しかた〉

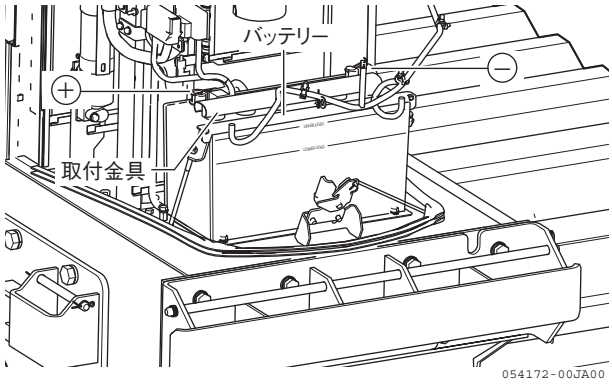
1. ボンネットを開けます。
   (97ページ参照)
2. バッテリーを固定している取付金具を外します。



3. バッテリーの（－）側のケーブルを外した後、（＋）側のケーブルを外します。

〈取り付けかた〉

1. バッテリーの（＋）側のケーブルを取り付けた後、（－）側のケーブルを取り付けます。
2. バッテリーを固定する取付金具を取り付けます。



[重要]

- バッテリーケーブルを取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などをふき取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- バッテリーの（＋）ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。

補充電のしかた

⚠危険

- **充電器やブースターケーブルを使用するときは、それぞれの取扱説明書に従って行ってください。取り扱いを誤ると引火爆発するおそれがあります。**
- **急速充電はしないでください。バッテリーの内圧が上り、破裂するおそれがあります。**

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、下記の要領で補充電をしてください。

[重要]

補充電中は液口栓をすべて外して行いますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. バッテリーを外します。
2. 液口栓をすべて外し、バッテリーの（+）を充電器の（+）に、バッテリーの（−）を充電器の（−）に接続します。
3. 3アンペア程度で8〜10時間程度行います。
4. 補充電が終わったら、液口栓をすべて取り付けます。
5. バッテリーをトラクターに取り付けます。

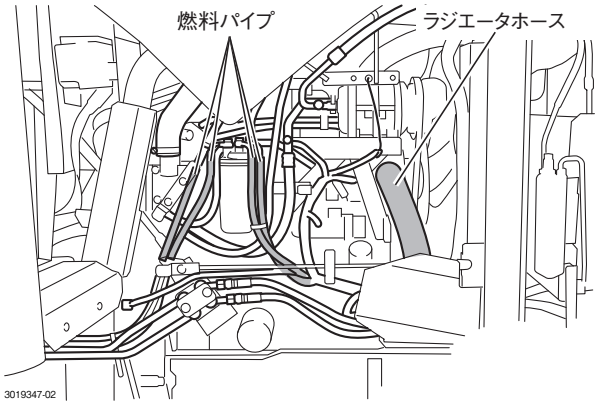
29.パイプ類の点検について

点検	日常点検
交換	2年ごと

⚠危険

燃料パイプが破損していると、燃料漏れを起こします。異常があれば、お買い上げいただいた販売店・JAに依頼し、整備してください。火災を起こすおそれがあります。

燃料パイプ、ラジエータホースなどが傷んでいないか点検してください。
燃料漏れ、水漏れがないか、また締付ベルトがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくとも2年ごとに交換してください。



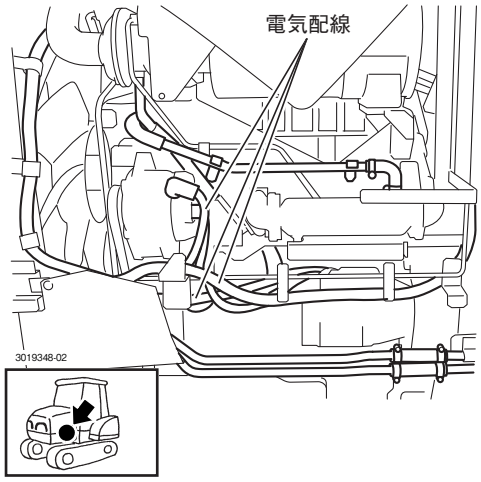
30.電気配線の点検について

点検	日常点検、または1年ごとに定期点検

⚠警告

- ワイヤハーネスおよびバッテリーケーブルが損傷していると、ショートを起こします。
- バッテリーや電気配線に付着しているワラクズやごみは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。ショートして火災の原因になります。

エンジンサイドカバーを外し、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれやキズ、または、接触部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた販売店・JAで修理してください。
傷んでなくても使用時間50時間ごと、または１年ごとに定期点検を受けてください。

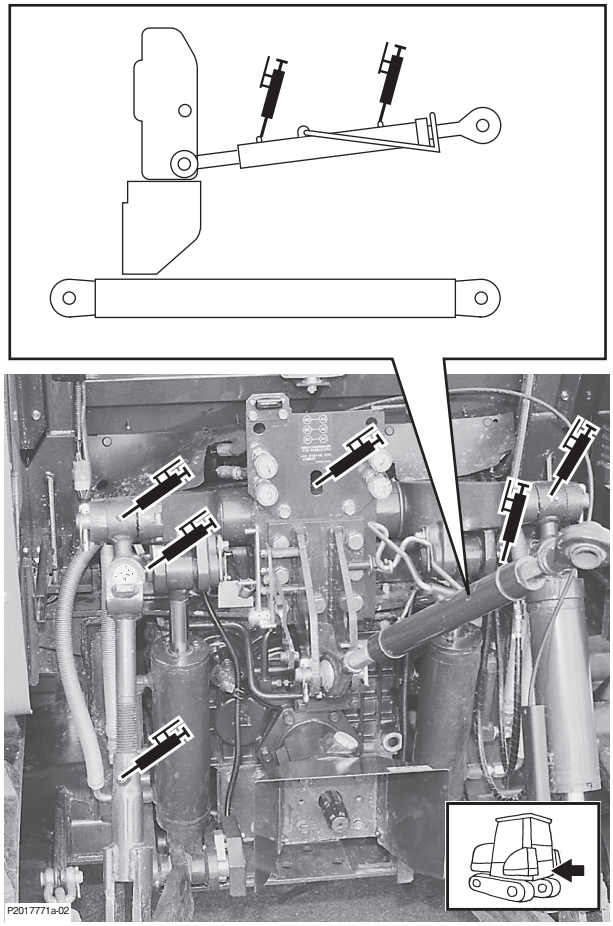


31.グリスアップ(注入)について

グリスアップ	50時間ごと

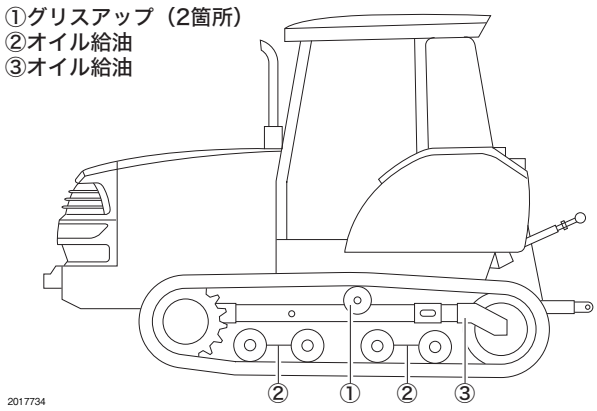
作業に入る前に、各個所のグリスの点検を行い、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業などで泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。

3点リンク部

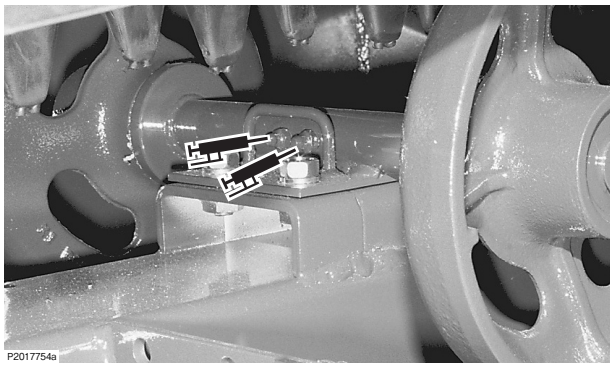


クローラ部

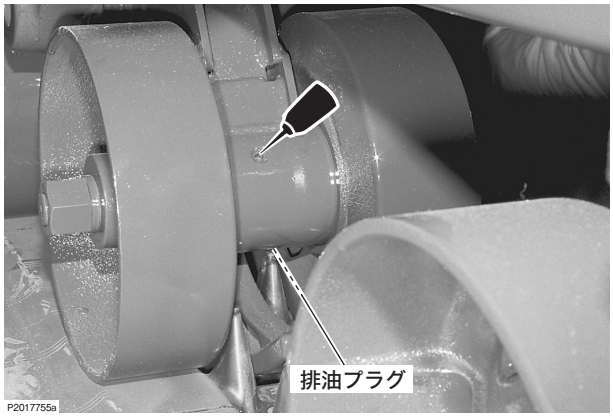
グリスアップ・オイル給油個所（各左右にあります。）



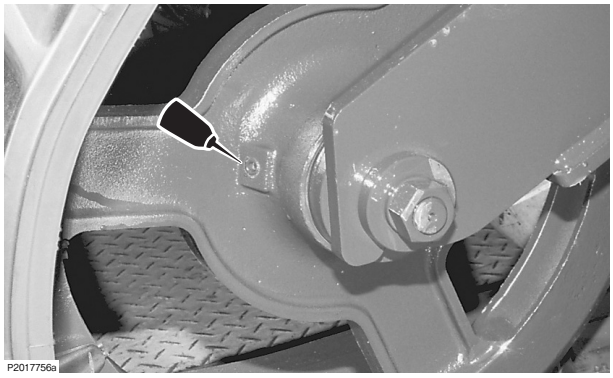
1. キャリアローラ （グリスアップ）



2. トラックローラ （オイル給油）

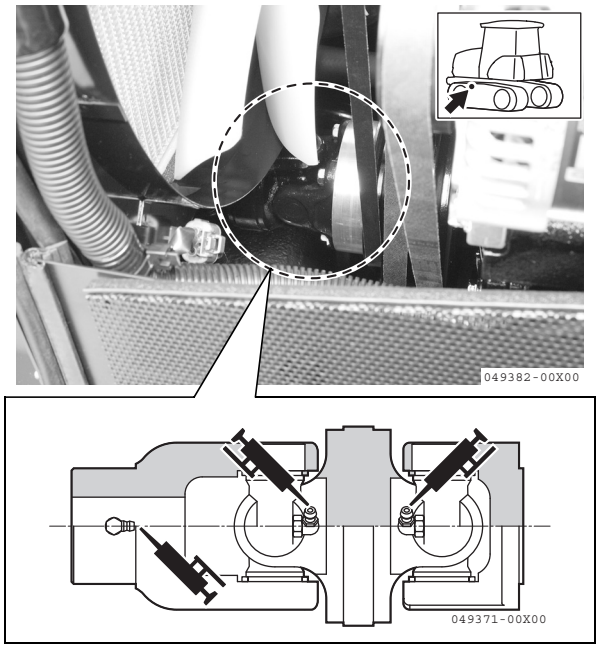


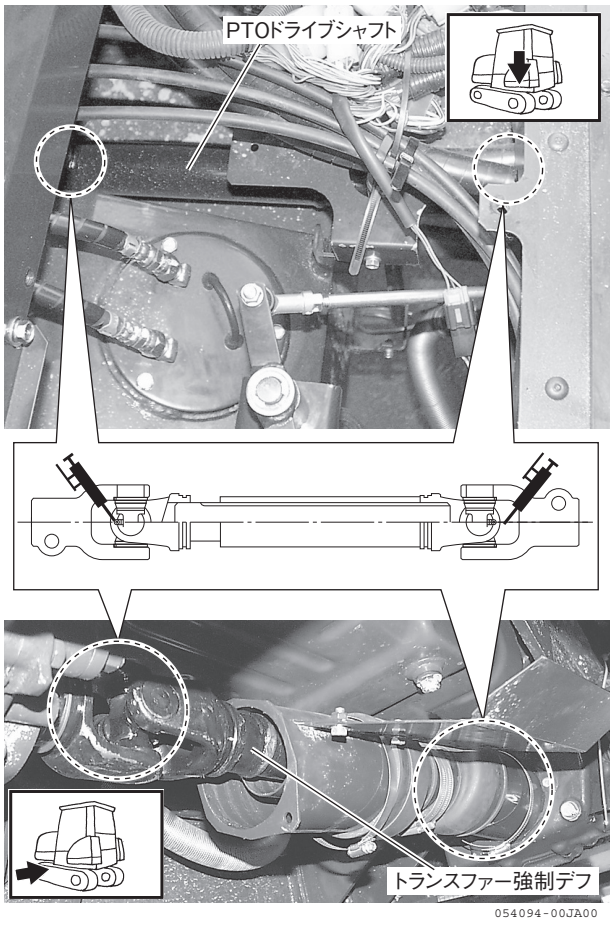
3. アイドラ （オイル給油）



ドライブシャフト部

1回目50時間目
2回目以降300時間ごと





32.クローラの点検･調節のしかた

⚠警告

- ニップルバルブは、ゆっくりとゆるめてください。
- ニップルバルブは、3～3.5回転以上ゆるめないでください。
- グリスの排出を確認するために、バルブをのぞき込まないでください。
  守らないと内部の圧力により、グリスが飛散し、傷害事故を起こすおそれがあります。

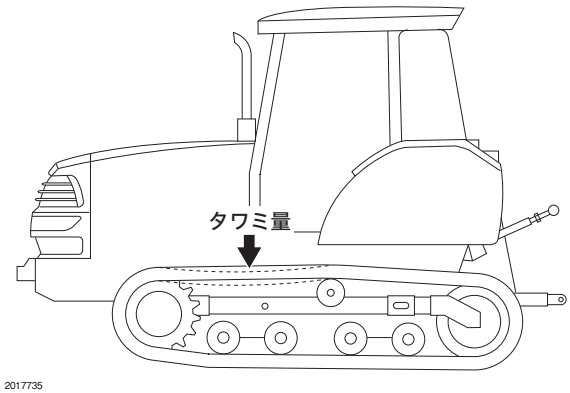
⚠注意

- クローラの取り付け時、フレームを十分強度のある架台やブロックなどで支えて、トラクターの落下を防止してください。
- クローラはかなりの重量がありますので、取り扱いには十分注意してください。
  守らないと傷害事故を起こすおそれがあります。

クローラの張り点検

平たん地でトラクターを後退方向に動かし、タワミ分を上部に集めた状態で行います。
スプロケットとキャリアローラの中央部に体重（約50kg）を乗せ、タワミ量を調べます。

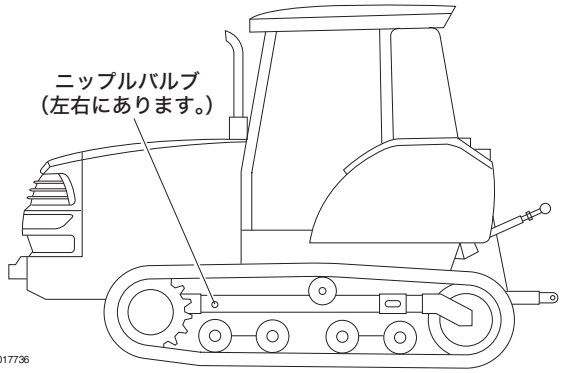
タワミ量(mm)	13～15



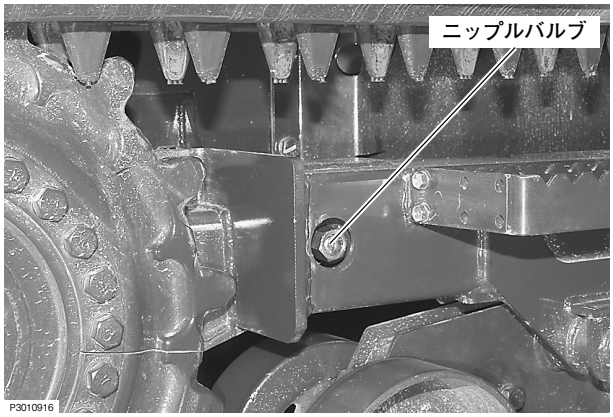
2017735

張りを強める場合

1. ゴムキャップを外して、クローラの張りが規定値になるように、ニップルバルブからグリスガンでグリスを注入します。



2017736



P3010916

2. 適正な張り状態になっていることを確認するため、トラクターを後退方向に動かして、上部のクローラをたるませます。
3. 再度、クローラの張りを点検し、適正な張りになっていなければ、再調整します。
4. ゴムキャップを取り付けます。
5. 規定量に張れない場合は、グリスアジャスタの内部不良などが考えられますので、お買い上げいただいた販売店･JAへ修理を依頼してください。

張りをゆるめる場合

1. ゴムキャップを外します。
2. ニップルバルブを少しずつゆるめて、グリスを排出します。
   ニップルバルブはゆっくりとゆるめて、3回転以上ゆるめないでください。
3. グリスの排出が悪いときは、車両を少し前後に動かします。
4. ニップルバルブを締め付けます。
   締付トルク…49N・m（5kgf・m）
5. 再度クローラの張りを点検し、適正な張りになっていなければ、再調整します。
6. 排出されたグリスは、ウエス等できれいにふき取ります。
7. ゴムキャップを取り付けます。

[重要]

クローラに付いたグリス・油は、きれいにふき取ってください。付着したままのグリス・油は、クローラ寿命を縮めます。

クローラの取付要領

使用当初は、本機とのなじみのためクローラが少し伸びます。使用前には必ず点検・調整を実施してください。

万一外れた場合はつぎの要領で取り付け、調整を行ってください。

1. 外れたほうのトラックフレームを持ち上げ、地面から離します。
   このとき、フレームを架台やブロックなどで支えて車体の落下を防止します。
2. ニップルバルブをゆるめ、アイドラを押し込みます。
3. クローラをスプロケットのほうから先にかみ合わせ、他端はアイドラにかけておきます。
4. バール等を利用して、クローラをアイドラに装着します。
   クローラはかなりの重量がありますので取り扱いには十分注意します。
5. クローラとスプロケットやローラとのかみ合いを確認し、ニップルバルブを締め付け仮張りし、車体を降ろします。
6. 平たん地まで移動し、タワミを上部に集めた状態で、タワミが規定量になるようにグリスを注入します。

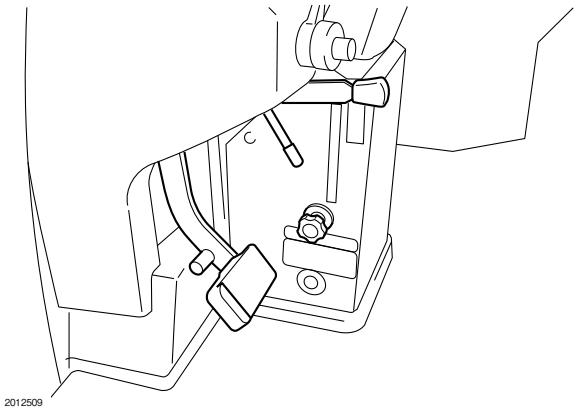
33.ブレーキの点検･調整のしかた

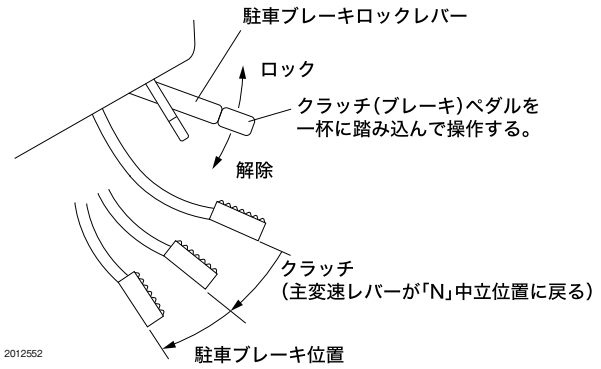
点検	日常点検

⚠警告

駐車ブレーキが正常に作動するか､点検してください｡守らないと､事故を起こすおそれがあります｡

クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込んで、正常に作動すること。駐車ブレーキロックが確実に作動することを確認してください。
ブレーキのききが悪い場合は、お買い上げいただいた販売店またはJAにご連絡ください。

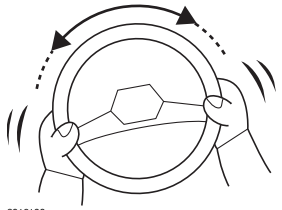




34.ハンドルの点検のしかた

⚠警告

エンジン始動後､ハンドルを操作し､異常がないことを確認してください。
異常がある場合は､お買い上げいただいた販売店･JAで整備を受けてください。

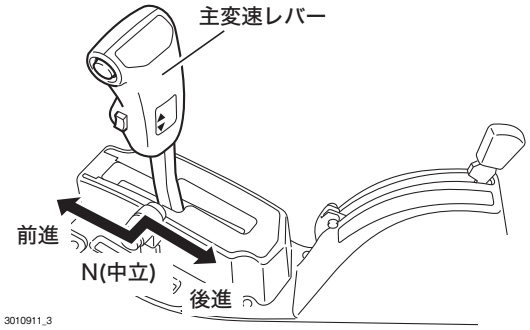


35.主変速レバーの点検について

⚠警告

主変速レバーがスムーズに操作できるか点検してください。

主変速レバーを前進側および後進側にいっぱいまで操作したときに、スムーズに動くか確認してください。主変速レバーの動きが悪い場合は、お買い上げいただいた販売店またはJAにご連絡ください。



36.各部ベルトの点検･調整のしかた

コンプレッサ駆動ベルト

点検	使用前

⚠注意

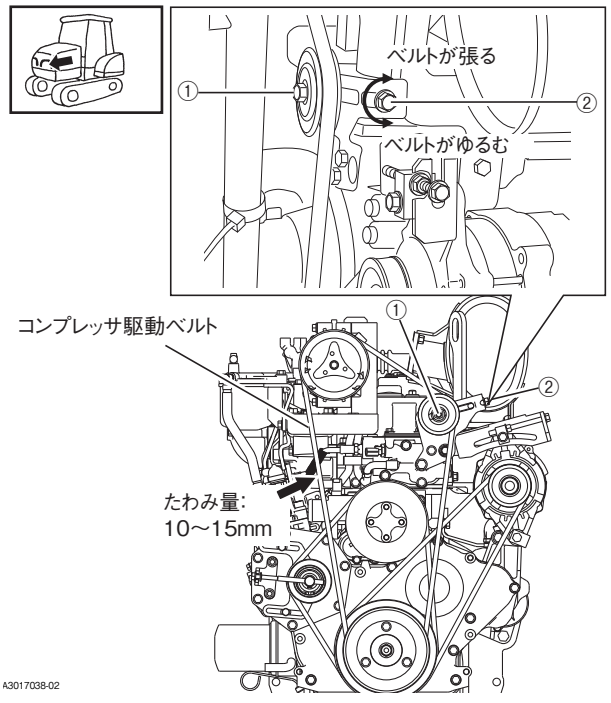
エンジンが十分冷えた状態で行ってください。
守らないとヤケドを負うおそれがあります。

〈点検のしかた〉

1. ボンネットを開けます。
2. コンプレッサ駆動ベルトの中間を指で押さえ(押力10kg)、ベルトのたわみ量が10～15mmであるか点検します。
   ベルトのたわみ量が適正でないときは､ベルトの張りを調整します。
3. ベルトが損傷していないか点検します。
   ベルトが損傷しているときは、販売店またはJAで新しいベルトと交換します。

〈調整のしかた〉

1. ①テンションボルト固定ナットをゆるめ､②テンションボルトを回して､ベルトの張りを調整します。
2. 調整後は①テンションボルト固定ナット･②固定ボルトを締め付けます。



3. 調整直後のベルトの張りは均一でないため､エンジンを一度かけてから再度確認します。
4. ボンネットを元通りに閉めます。

[重要]

- **コンプレッサ駆動ベルトを調整してもベルトがスリップするときは、ベルトと交換してください。**
- **新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。**

冷却ファンベルト

点検	使用前

⚠注意

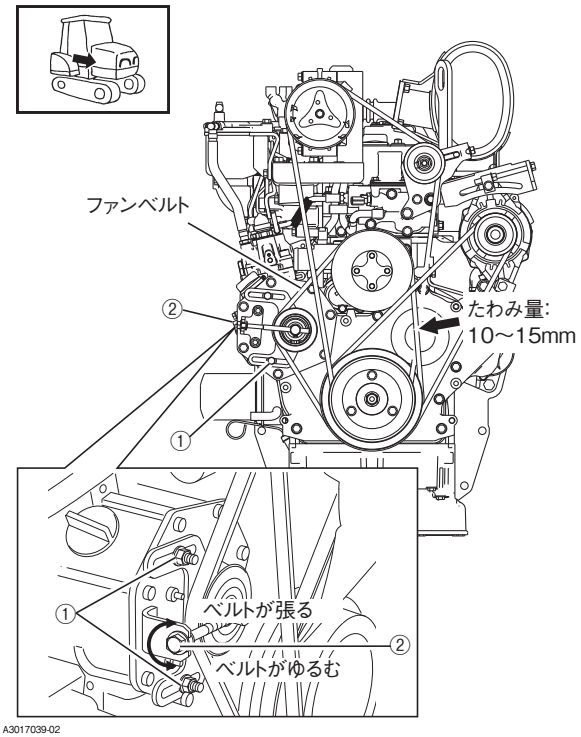
エンジンが十分冷えた状態で行ってください。
守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

〈点検のしかた〉

1. ボンネットを開けます。
2. ファンベルトの中間を指で押さえ（押力 10kg）、ベルトのたわみ量が 10 ～ 15mm であるか点検します。
   ベルトのたわみ量が適正でないときは、ベルトの張りを調整します。
3. ベルトが損傷していないか点検します。
   ベルトが損傷しているときは、販売店または JA で新しいベルトと交換します。

〈調整のしかた〉

1. ①固定ナット・②テンションボルトを回して、ベルトの張りを調整します。
2. 調整後は①固定ボルトを締め付けます。



3. 調整直後のベルトの張りは均一でないため、エンジンを一度かけてから再度確認します。
4. ボンネットを元通りに閉めます。

［重要］

- **ファンベルトを調整してもベルトがスリップするときは、新しいファンベルトと交換してください。**
- **新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。**

オルタネータ駆動ベルト

点検	使用前

⚠注意

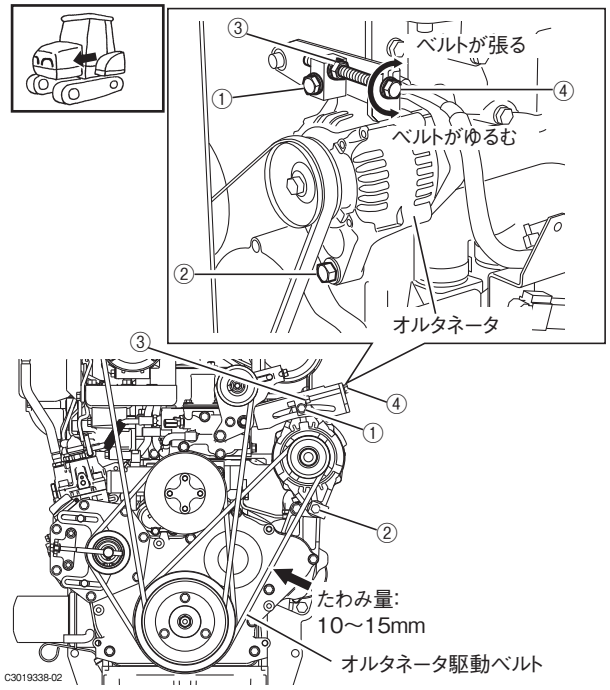
エンジンが十分冷えた状態で行ってください。
守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

〈点検のしかた〉

1. ボンネットを開けます。
2. オルタネータ駆動ベルトの中間を指で押さえ(押力10kg)、ベルトのたわみ量が10～15mmであるか点検します。
   ベルトのたわみ量が適正でないときは、ベルトの張りを調整します。
3. ベルトが損傷していないか点検します。
   ベルトが損傷しているときは、販売店またはJAで新しい冷却ファンベルトと交換します。

〈調整のしかた〉

1. ①固定ボルト、②オルタネータ固定ナット、③テンションボルト固定ナットをゆるめ、④テンションボルトを回して、ベルトの張りを調整します。
2. 調整後のボルト、ナットの締め付けは、①固定ボルト⇒②オルタネータ固定ナット⇒③テンションボルト固定ナットの順に締め付けます。



3. 調整直後のベルトの張りは均一でないため、エンジンを一度かけてから再度確認します。
4. ボンネットを元通りに閉めます。

[重要]

- **オルタネータをいっぱいに動かしてもベルトがスリップするときは、新しいジェネレータベルトと交換してください。**
- **新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。**

37.ヒューズ･スローブローヒューズの点検･交換のしかた

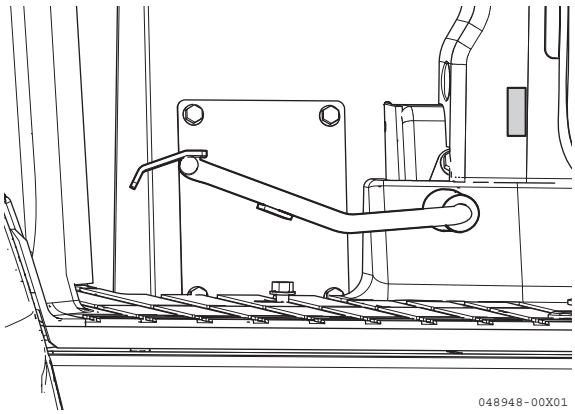
⚠警告

ヒューズおよびスローブローヒューズは必ず規定アンペアのものを使用してください。
守らないと､火災につながるおそれがあります。

1. ヒューズボックスのフタを外して､ヒューズを点検します。切れていれば、規定容量のものと交換します。

[重要]

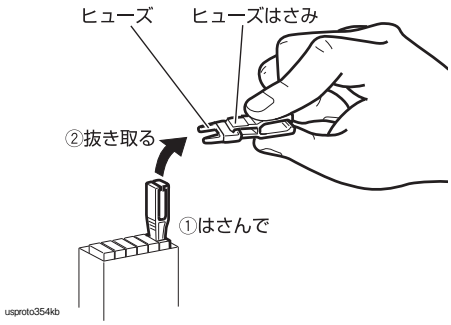
規定容量のヒューズと交換してもすぐ切れてしまう場合は､お買い上げいただいた販売店､または JA で点検を受けてください。



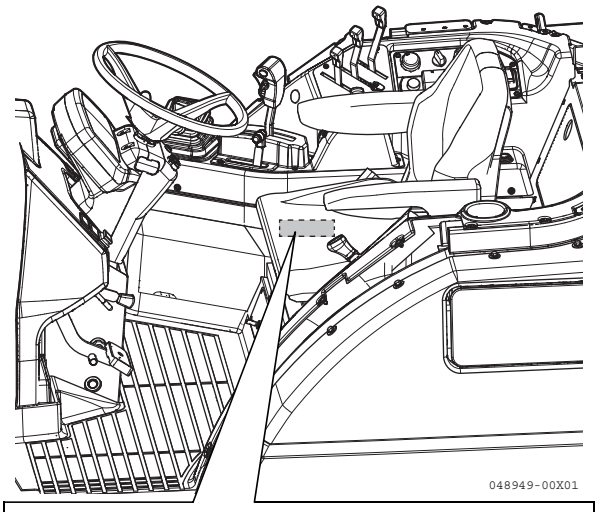
ヒューズボックス

予備			
5A	10A	15A	20A
エンジン 10A		ミッション 10A	
フィードポンプ 5A		メータ 10A	
PTO 5A		水平自動制御 10A	
クラッチモータ 30A		ブレーキランプ 20A	
スタート 5A		フラッシャランプ 20A	
ヘッドランプ 20A			10A
サイドランプ 15A		ACC 15A	
トレーラー 15A			
ヒューズ抜き			

1A6423-65250

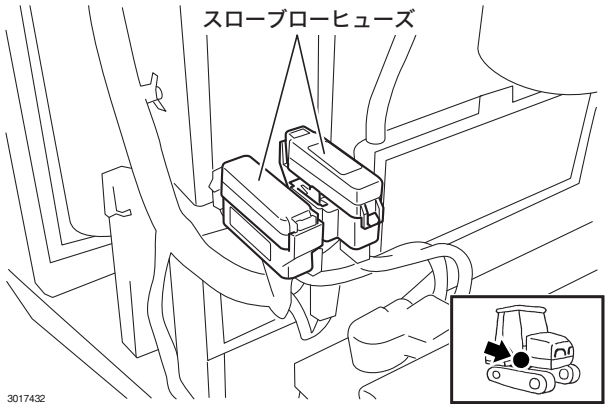


054153-00JA00



Rワークランプ 25A	Fワークランプ 25A	Rワイパ 15A	Fワイパ 15A	キャビン 10A	予備	10A	1A7805-65210
外部電源 20A	デフォッガ 15A	メモリ・ラジオ 10A	コンプレッサー 10A	ブロアモータ 25A		15A 20A 25A	

2. メインヒューズ（スローブローヒューズ）を点検します。



1A7805-65800			
スタータ	ランプ	ワイパー	エアコン
60A	40A	40A	40A

1A6423-65790			
外部	グロー	メイン	キー
40A	60A	40A	50A

[重要]

指定容量以外のヒューズは使用しないでください。

[参考]

スローブローヒューズはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したらお買い上げいただいた販売店またはJAで点検を受けてください。

38.排気ガスの色について

エンジン始動時は、正常でも黒色の排気ガスが出ますが、暖機運転を終了すれば通常は無色です。
気温の低い場合は、正常でも水蒸気で白く見えることがあります。
黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、お買い上げいただいた販売店またはJAで整備してください。

11章 不調診断のしかた

1. エコビューのエラーメッセージについて

- エコビューに下記のメッセージが表示された場合には速やかに作業を中止し、処置内容に従ってください。
- 下記以外のエラーメッセージが表示された場合は、速やかに作業を中止し、表示内容を記録の上、購入先に連絡して、点検・整備を受けてください。

表示内容	原　因	処　置	可能な作業・機械の状態
EF 00022.●●	深さ設定ダイヤルの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	昇降自動制御はできません。作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00023.●●	傾き設定ダイヤルの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	水平自動制御はできません。 傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮は可能です。
EF 00024.●●	上げ位置ダイヤルの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	昇降自動制御はできません。作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00025.●●	下げ速度ダイヤルの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	昇降自動制御はできません。作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00027.●●	アクセルセンサの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	エンジン回転数が制限されます。リフト昇降、傾きシリンダの伸縮は可能です。
EF 00032.●●	本機センサの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	水平自動制御はできません。 傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮は可能です。
EF 00033.●●	3P センサの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	水平自動制御はできません。 傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮は可能です。
EF 00034.●●	リフト角センサの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	水平自動制御および昇降自動制御は使用できませんが、傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00035.●●	リヤカバーセンサの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	昇降自動制御はできません。作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00036.●●	ポジションセンサの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	水平自動制御および昇降自動制御は使用できませんが、傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。

表示内容	原　因	処　置	可能な作業・機械の状態
EF 00037.●●	角速度センサの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	作業は可能ですが、水平自動制御の精度は低下します。
EF 00039.●●	ドラフトセンサ(L)の故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	作業は可能ですが、ドラフト制御はできません。
EF 0003A.●●	ドラフトセンサ(R)の故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	作業は可能ですが、ドラフト制御はできません。
EF 0003B.●●	ドラフトセンサの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	作業は可能ですが、ドラフト制御はできません。
EF 00062.●●	作業機昇降スイッチの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	昇降自動制御はできません。
EF 00064.●●	傾き手動レバーの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	傾きシリンダの伸縮ができません。
EF 00066.●●	チョイ上げ・チョイ下げスイッチの故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	リフト昇降はできません。
EF 00067.●●	水平自動制御コントローラの異常です。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	リフト昇降および傾きシリンダの伸縮はできません。
EF 00068.●●	水平自動制御コントローラの異常です。(傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	水平自動制御および昇降自動制御は使用できませんが、傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00069.●●	電気配線の断線です。(傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	通常作業は可能です。
EF 0006A.●●	エコターン・エコバック速度切替スイッチ故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	エコターン(遅)で動作します。
EF 00072.●●	水平自動制御コントローラの異常、またはリフトバルブ(上昇側)の故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	リフト昇降はできません。
EF 00073.●●	水平自動制御コントローラの異常、またはリフトバルブ(下降側)の故障、または電気配線が断線・短絡しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	リフト昇降はできません。

表示内容	原　因	処　置	可能な作業・機械の状態
EF 00074.●●	水平自動制御コントローラの異常、または水平自動制御バルブ(右上げ側)の故障、または電気配線が断線・短絡しています。	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	傾きシリンダの伸縮ができません。
EF 00075.●●	水平自動制御コントローラの異常、または水平自動制御バルブ(右下げ側)の故障、または電気配線が断線・短絡しています。	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	傾きシリンダの伸縮ができません。
EF 00076.●●	モータの故障、または電気配線が断線しています。(深さランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	エンジンが始動すれば、通常作業が可能です。
EF 00082.●●	水平自動制御コントローラの異常です。 (深さ、傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	水平自動制御および昇降自動制御は使用できませんが、傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00085.●●	ドラフトユニットの異常です。	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	作業は可能ですが、ドラフト制御・レーザー制御はできません。
EF 00092.●●	電気配線が断線・短絡しています。 (傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	エンジン回転数が制限されます。リフト昇降、傾きシリンダの伸縮は可能です。
EF 00095.●●	電気配線が断線・短絡しています。 (傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	エンジンが始動すれば、通常作業が可能です。
EF 00097.●●	電気配線が断線・短絡しています。 (傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	水平自動制御および昇降自動制御は使用できませんが、傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00098.●●	電気配線が断線・短絡しています。 (傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	ドラフト制御、レーザー制御を使用できませんが傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00099.●●	電気配線が断線・短絡しています。 (傾きランプ点滅)	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	エンジン回転数の動作がゆっくりになります。
28 00062.●●	燃料センサの故障、または電気配線が断線・短絡しています。	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	通常作業は可能です。 燃料残量表示および燃料満量ブザー機能が使用できません。
28 00068.●●	メータの異常です。	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	通常作業は可能です。 エコビューの表示内容が実際と異なることがあります。

表示内容	原　因	処　置	可能な作業・機械の状態
28 00082.●●	コントローラ間の通信異常または、電気配線が断線・短絡しています。	購入先に連絡して点検・整備を受けてください。	傾き自動制御および昇降自動制御が使用できないことがありますが、傾き手動レバーにより傾きシリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。 また、一部の表示灯が点灯しないことがあります。
28 00083.●●			
28 00092.●●			
28 00094.●●			
28 00095.●●			
28 00099.●●			

2. 主な故障現象

⚠警告

もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。処置を行っても不調の場合は、最寄りの販売店へ連絡してください。

1. エンジン関係

現　象	この確認をしてください	処　置	参照ページ
キーを回してもスタータが回らない。	主変速レバーが「N」位置になっていますか。	主変速レバーを「N」位置にしてからキースイッチを「始動」位置に回してください。	64
	PTO駆動スイッチは「切」位置になっていますか。	「切」位置にしてから、キースイッチを「始動」位置にしてください。	64
	クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏んでいますか。	クラッチ（ブレーキ）ペダルを踏み込みながらキースイッチを「始動」位置にしてください。	63
	バッテリー液は規定量入っていますか。または放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電してください。	119
	バッテリー端子部のゆるみ外れ、腐食はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布しさびを防いでください。	119
	ヒューズボックス内ヒューズまたは、メインヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。	130
	キースイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。	31
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。	—
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。	103
	ウォータセパレータの燃料コックが「OFF」（閉）位置になっていませんか。	燃料コックを「ON」（開）位置にしてください。	63
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行ってください。	104
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きをしてください。	104
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。	112
	燃料コシ器エレメントが目詰まりしていませんか。	新しいエレメントと交換してください。	112
エンジンの力が出ない。	エアクリーナが目詰まりしていませんか。	エアクリーナを点検してください。	118

2. クラッチ・ブレーキ関係

現　象	この確認をしてください	処　置	参照ページ
ブレーキのききが悪い。		サービス工場で修理してください。	126
クラッチ(ブレーキ)ペダルの戻りが悪い。		サービス工場で修理してください。	126

3. 油圧関係

現　象	この確認をしてください	処　置	参照ページ
作業機が上がらない。	油圧ストップバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップバルブを「開」にしてください。	37
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。	107
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルターケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。	111
	ラインフィルターが目詰まりしていませんか。	新しいフィルターと交換してください。	111
	油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。	ー
	電磁バルブが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。	ー
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください	ー
主変速レバーを「R」(後進)位置にしても、作業機が上がらない。	バック上昇機能は「入」になっていますか。	バック上昇機能を「入」にしてください。	82
	水平自動制御回路のヒューズが切れていませんか。	新しいヒューズと交換してください。	130
作業機が下がらない。	油圧ストップバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップバルブを「開」にしてください。	37
	電磁バルブが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。	ー
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。	ー
作業機昇降スイッチを「下げ」にしても、作業機が下がらない。	作業機上下レバーが「上」位置になっていませんか。	作業機上下レバーを「下」方向に移動させてください。	35

4. 電装関係

現　象	この確認をしてください	処　置	参照ページ
ヘッドライト･サイドランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	ー
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	130
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検してセットしてください。	122
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。	ー
フラッシャランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	ー
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	130
	フラッシャユニットが故障していませんか。	フラッシャユニットを交換してください。	ー
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。	ー
ランプ類が点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	ー
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	130
	配線の接続が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。	122
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。	ー
	アースの状態が悪くありませんか。	アース線を確実に車体に締め付けてください。	ー
	バッテリーが放電していませんか。	充電してください。	121
ホーンが鳴らない。	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	130
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。	40

1. トラクター仕様

販売型式名				GCR1010		
区分				ー	H	
駆動方式				クローラ		
機体寸法	全長		(mm)	3985		
	全幅		(mm)	2050		
	全高		(mm)	2670	2695	
	最低地上高		(mm)	380	405	
機体質量(重量)			(kg)	4270	4370	
エンジン	型式名			4TNV94HT		
	種類			水冷4サイクル4気筒直噴エコディーゼル		
	総排気量		(L {cc})	3.053 {3053}		
	出力/回転速度(kW {PS} /rpm)			74.3{101}/2200		
	使用燃料			ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量		(L)	160		
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	550×2275		
		中心距離	(mm)	1500		
		平均接地圧(kPa{kgf/cm^2})		16.8 {0.171}	17.2 {0.175}	
	ブレーキ形式			湿式ディスク		
	かじ取り方式			丸ハンドル		
	変速方式			HST(強制デフ方式)		
	変速段数		(段)	無段変速(副変速4段:副変速レバー2段×副変速ボタン2段)		
	走行速度	前進	1 (km/h)	0～5.2		
			2 (km/h)	0～9.5		
			3 (km/h)	0～9.8		
			4 (km/h)	0～17.9		
		後進	1 (km/h)	0～5.2		
			2 (km/h)	0～9.5		
			3 (km/h)	0～9.8		
			4 (km/h)	0～17.9		
PTO	クラッチ形式			インディペンデント		
	回転速度		(rpm)	573・751・1040/逆転690		
	軸径		(mm)	JIS35		
けん引装置				スイングドローバーヒッチ(オプション)		
作業機昇降装置	制御方式			ポジションコントロール・ドラフトコントロール		
	装着方式			3点リンク、JIS2形		
	最大揚力		(N {kgf})	40470 {4130}		
運転免許				大型特殊(農耕車限定でも可)		

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. お客様へのお知らせ

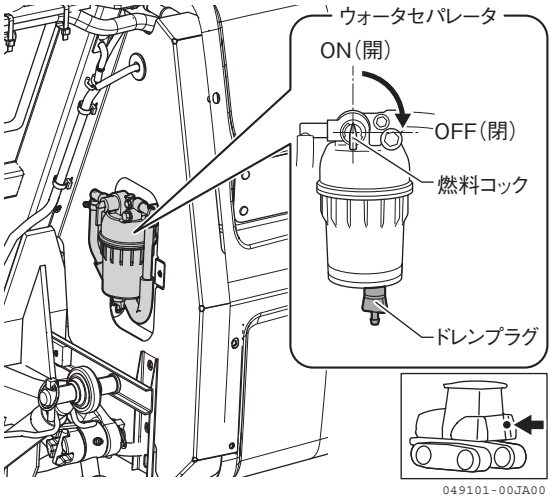
[重要]

本トラクターGCR1010 はコモンレールエンジンを搭載しています。

日常点検項目や使用する燃料・オイルは、安全・作業に関する重要項目ですので、必ずお読みいただき、記載内容の徹底をお願いします。

1. ウォーターセパレータを下記の表にしたがって、定期的に点検し、水が溜まっていたり、汚れがある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。守らないと、サプライポンプまたはインジェクタが焼きつくおそれがあります。

水抜き・洗浄	1回目:50時間目 2回目:100時間目 3回目以降:100時間ごと



特に、エコビューの以下の警報画面が表示された場合は、ウォーターセパレータに水が溜まっていますので、速やかに中の水を抜いてください。

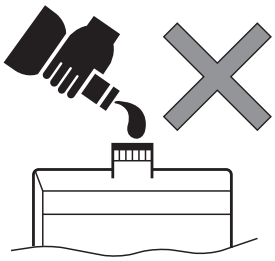
油水分離器を確認

p40_97

2. 燃料コシ器エレメントは、下記の表にしたがって、定期的に交換してください。守らないと、エンジン出力が低下するおそれがあります。

燃料コシ器エレメント	交換	300時間ごと

3. 燃料は、市販のディーゼル軽油をそのまま使用し、添加物等を加えないでください。添加物等で燃料噴射ノズルが目詰まりをおこし、エンジン出力が低下するおそれがあります。



4. このトラクターのエンジンは排ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品を使用しています。使用燃料を保管する場合は、亜鉛メッキ鋼板の容器のご使用は避け、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。
5. コモンレールエンジンの不調はお買い上げいただいた販売店またはJAにご相談ください。サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら、ご自身で分解・修理をせずにお買い上げいただいた販売店またはJAまでご連絡ください。守らないと、整備不良による機械の故障、または高圧燃料による傷害事故のおそれがあります。



6. エンジンオイルは、下記のものを使用してください。

	一般販売店の相当オイル	
	JX日鉱日石エネルギー(ENEOS)	コスモ石油
エンジンオイル	ディーゼルエンジン用 API分類 CF,CF-4,CI-4級 気温−10℃を越えるとき:SAE10W-30 気温−10℃以下のとき:SAE5W-30	